

愛媛大學埋蔵文化財調査室年報

— 2006年度 —

愛媛大學埋蔵文化財調査室

2008

愛媛大學埋蔵文化財調査室年報

— 2006年度 —

愛媛大學埋蔵文化財調査室

2008

序 文

国立大学法人愛媛大学の敷地は、松山市内および愛媛県内各所に点在し、敷地総面積は464ヘクタールに及び、本部事務局と4つの学部が所在する城北団地には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樺味団地には樺味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地には鷹子遺跡、教職員宿舎のある北吉井団地には桑原西稻葉遺跡など、数多くの遺跡が分布している。これまで、愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、校舎建設や營繕工事等の際、埋蔵文化財への影響度をはかるための試掘調査を行い、埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合には、影響度に応じて全面調査、立会調査の発掘調査を実施してきた。さらに、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を行い、埋蔵文化財の保護に努めている。

こうした発掘調査成果を客観的に資料化し、調査報告書にまとめて公開することによって遺跡の評価が行われる。ところが、愛媛大学の場合、出土品の多さと頻繁な発掘調査によって、速やかな報告書刊行を容易に行えない状況にあった。こうした状況を開拓するため、2000年に調査室の体制を再整備し、報告書刊行に向けての整理作業を前進させる一方で、小規模調査である試掘・立会・確認調査についての報告と全面調査の概要報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』を刊行してきた。本書は、その2006年度に実施した埋蔵文化財調査等をまとめた年報である。

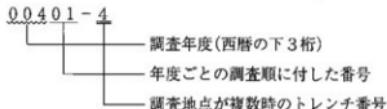
本書をまとめにあたっては、多くの機関・部局・個人の方々から協力を得た。その勞に深く感謝するとともに、本書が大学内外の多くの方々に利用・活用されることを祈念します。

平成20年3月1日

愛媛大学埋蔵文化財調査室
室長 下條信行

例　　言

1. 本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2006年度に実施した事業、とくに大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査の成果と全面調査の概要を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告XVIIIにあたる。
2. 埋蔵文化財調査室では、全面調査と構内遺跡確認調査について遺跡ごとに調査次数を付していると同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで通って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下3桁の後に年度ごとの調査順に01からの2桁の通し番号を加えた5桁の番号で表示している。複数の地点（トレンチ）を調査した場合、調査番号に加えてーの後に地点番号を付して表示している。



3. 本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴式住居：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、構列：SA、水田：SS、土壤：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SX の記号を用いて遺構の種別を表している。
4. 本書で表示した方位・標高数値は、全面調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第IV系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。
5. 土色・遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に準拠しているが、本文中ではマンセル記号は省略した。
6. 本書に使用した遺構図は、田崎博之・吉田広・三吉秀充・宮崎直栄が作成し墨写を行った。
7. 本書に使用した遺物図は、吉田が作成し、墨写を行った。
8. 本書で使用した写真は、田崎・吉田・三吉が撮影した。
9. 本書は田崎・吉田・三吉が執筆し、濱田美加の協力を得るとともに、下條信行の指導のもと、田崎が編集を行った。
10. 本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

本文目次

I	埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業	
1	埋蔵文化財調査委員会	1
2	2006年度の埋蔵文化財調査室事業	1
(1)	発掘調査と整理作業	
(2)	発掘調査報告書・埋蔵文化財調査年報の刊行	
(3)	広報、資料等の利活用	
II	2006年度実施の発掘調査	
00601	(持田団地) 教育学部附属中学校校舎新営工事に伴う調査	10
00602	(柳味団地) 農学部上水道水漏れ修繕工事に伴う調査	16
00603	(柳味団地) 農学部敷地内電柱立て替え工事に伴う調査	17
00604	(持田団地) 教育学部附属中学校校舎新営工事に伴う調査 (持田団地構内遺跡1次調査)	17
00605	(煙寺団地) 農学部附属農業高等学校果実収納庫新営工事に伴う調査	25
00606	(煙寺団地) 2006年度確認調査	27
00607	(重信団地) 医学部及び附属病院敷地内の電柱建て替え工事に伴う調査	29
00608	(柳味団地) 総合研究棟改修工事に伴う調査 (柳味遺跡8次調査)	34
00609	(柳味団地) 農学部附属農業高等学校ボイラー室新設工事に伴う調査	42
00610	(城北団地) 教育学部4号館耐震補強工事に伴う調査	44
00611	(城北団地) 宮前川架橋取設工事に伴う調査 (文京遺跡30次調査)	47
00612	(城北団地) 法文学部2号館非常階段取設工事に伴う調査 (文京遺跡31次調査)	54
00613	(城北団地) 屋外施設等取設工事に伴う調査	64
00614	(柳味団地) 総合研究棟改修機械設備工事に伴う調査	64
00615	(城北団地) 理学部総合研究棟等改修(Ⅱ期)電気設備工事に伴う調査	69

挿図目次

図1 愛媛大学主要団地位置図（縮尺1/200,000）	4
図2 城北団地における2006年度調査地点 （縮尺1/3,500）	5
図3 持田団地における2006年度調査地点 （縮尺1/2,000）	6
図4 尊味団地における2006年度調査地点 （縮尺1/2,500）	7
図5 重信団地における2006年度調査地点 （縮尺1/3,000）	8
図6 00601・00604（持田団地構内遺跡1次）調査 地点位置および南北地形断面図 （縮尺1/1200、1/120）	10-11
図7 持田団地構内遺跡における基本層序と00601 調査各トレンチ土層との関係	11
図8 00601調査1～9トレンチ土層断面図 （縮尺1/50）	12-13
図9 00602・00608・00614調査地点位置図 （縮尺1/750）	18
図10 00603調査地点位置および1・2トレンチ土 層柱状図（縮尺1/1,000、1/50）	19
図11 00604調査I区西隣土層断面図（縮尺1/50）	21
図12 00604調査I区実測図（縮尺1/100、1/40）	22-23
図13 00604調査II区実測図（縮尺1/100）	23
図14 00605調査地点配置および1・2トレンチ実 測図（縮尺1/2,500、1/300）	25
図15 煙寺団地周辺地形および遺跡分布 （縮尺1/3,000）	28
図16 00607調査1～6トレンチ配置および土層柱 状図（縮尺1/1,500、1/50）	29
図17 00607調査7トレンチ配置および土層柱状図 （縮尺1/1,500、1/50）	30
図18 99211・99301・00607調査区地形断面図 （縮尺1/1,000、1/50）	33
図19 00608（樽味遺跡8次）調査1区実測図 （縮尺1/50）	35
図20 00608（樽味遺跡8次）調査3・4区実測図 （縮尺1/50）	38
図21 00608（樽味遺跡8次）調査5区実測図 （縮尺1/50）	41
図22 00609調査地点位置図（縮尺1/1,000）	42
図23 00609調査実測図（縮尺1/50）	43
図24 00610調査地点位置図（縮尺1/1,000）	44
図25 00610調査実測図（縮尺1/50）	45
図26 00611（文京遺跡30次）調査地点位置図 （縮尺1/500）	49
図27 00611（文京遺跡30次）調査1区実測図 （縮尺1/50）	50
図28 00611（文京遺跡30次）調査1区IV層中遺物 出土状況（縮尺1/10）	52
図29 00611（文京遺跡30次）調査2区実測図 （縮尺1/50）	53
図30 00611（文京遺跡30次）調査区周辺土層図 （縮尺1/700、1/50）	54
図31 00612（文京遺跡31次）調査地点位置図 （縮尺1/500）	56
図32 00612（文京遺跡31次）調査1区実測図 （縮尺1/50）	58-59
図33 00612（文京遺跡31次）調査遺構実測図 （縮尺1/50）	60
図34 00613調査地点位置図（縮尺1/500）	62
図35 00613調査1・2トレンチ土層断面実測図 （縮尺1/50）	63
図36 00614調査1・2トレンチ実測図（縮尺1/50）	65
図37 00614調査3トレンチ実測図（縮尺1/50）	67
図38 00614調査出土遺物実測図（縮尺1/3）	68
図39 00615調査位置および1・2トレンチ土層柱 状図（縮尺1/500、1/50）	70
図40 城北団地（文京遺跡）における既往調査地点	78-79
図41 樽味団地（樽味遺跡）における既往調査地点	79
図42 持田団地（持田団地構内遺跡）における既往 調査地点	80
図43 重信団地における既往調査地点	卷末

写真目次

写真1	00601調査1～3トレンチ遠景（西から）	13
写真2	00601調査1トレンチ西壁土層	13
写真3	00601調査2トレンチ西壁土層	13
写真4	00601調査3トレンチ全景および西壁土層 (北東から)	13
写真5	00601調査4トレンチ全景（北東から）	13
写真6	00601調査4トレンチ西壁土層	13
写真7	00601調査5トレンチ全景（南から）	13
写真8	00601調査5トレンチ西壁北端部土層	14
写真9	00601調査5トレンチ西壁中央部土層	14
写真10	00601調査5トレンチ西壁南端部土層	14
写真11	00601調査6トレンチ全景および西壁土層 (南東から)	14
写真12	00601調査7トレンチ全景（南東から）	14
写真13	00601調査8トレンチ西壁土層（南東から）	14
写真14	00601調査9トレンチ全景および東壁土層 (北西から)	14
写真15	00602調査風景（西から）	17
写真16	00602調査漏水管確認状況	17
写真17	00603調査地全景（北から）	19
写真18	00603調査1トレンチ完掘状況（北から）	19
写真19	00603調査2トレンチ完掘状況（南から）	19
写真20	00604調査I区の表土層除去作業	22
写真21	00604調査I区南壁土層	22
写真22	00604調査I区中層水田床土層上面での犁 跡検出状況	22
写真23	00604調査I区中層水田床土層上面で出土 した犂跡	22
写真24	00604調査I区下層水田面のSD-1と犂跡 (西から)	22
写真25	00604調査I区SD-1の土層断面	22
写真26	00604調査I区下層水田層の床土層上面で 出土した足跡	22
写真27	00604調査II区表土層除去状況（東から）	24
写真28	00604調査II区南壁土層（北東から）	24
写真29	00604調査II区完掘状況（北から）	24
写真30	00605調査1トレンチ遠景（西から）	26
写真31	00605調査1トレンチ完掘状況（南から）	26
写真32	00605調査1トレンチ北端部の完掘状況 (南から)	26
写真33	00605調査1トレンチ北端の擾乱層 (東から)	26
写真34	00605調査2トレンチ遠景（北から）	26
写真35	00605調査2トレンチ遠景（南から）	26
写真36	00605調査2トレンチ完掘状況（北から）	26
写真37	00606調査畠寺団地全景（西から）	27
写真38	00606調査畠寺団地頂部から西を望む	27
写真39	00607調査1トレンチ遠景（南西から）	31
写真40	00607調査1トレンチ北壁土層	31
写真41	00607調査2トレンチ遠景（南東から）	31
写真42	00607調査2トレンチ西壁土層	31
写真43	00607調査3トレンチ遠景（北から）	31
写真44	00607調査3トレンチ南壁土層	31
写真45	00607調査4トレンチ遠景（南から）	31
写真46	00607調査4トレンチ南壁土層	31
写真47	00607調査5トレンチ遠景（南東から）	32
写真48	00607調査5トレンチ北壁土層	32
写真49	00607調査6トレンチ遠景（東から）	32
写真50	00607調査6トレンチ北壁土層	32
写真51	00607調査7トレンチ遠景（西から）	32
写真52	00607調査7トレンチ西壁土層	32
写真53	00608調査1・2区遠景（北東から）	36
写真54	00608調査1区全景（南から）	36
写真55	00608調査2区全景（北から）	36
写真56	00608調査3・4区遠景（北東から）	36
写真57	00608調査3区遺構検出状況（西から）	36
写真58	00608調査3区完掘状況（西から）	36
写真59	00608調査4区遺構検出状況（西から）	36
写真60	00608調査4区完掘状況（東から）	36
写真61	00608調査5区遠景（北東から）	42
写真62	00608調査5区全景（南から）	42
写真63	00609調査地点近景（南西から）	43
写真64	00609調査区完掘状況（北から）	43
写真65	00610調査1トレンチ遠景（南東から）	47
写真66	00610調査1トレンチ（西から）	47
写真67	00610調査2・3トレンチ遠景（北東から）	47
写真68	00610調査2トレンチ（南から）	47

写真69	00610調査2トレンチ（西から）	47	写真87	00612調査1区IV-3b層上面の遺構完掘状況	
写真70	00610調査3トレンチ（西から）	47	写真88	00612調査1区SK-101遺物出土状況	61
写真71	00611調査区遠景（南から）	51	写真89	00612調査1区SP-108遺物出土状況	61
写真72	00611調査1区上層水田面（東から）	51	写真90	00612調査1区SK-114土層断面	61
写真73	00611調査1区西壁水田間連土層 (東から)	51	写真91	00612調査1区IV-3b層上面の遺構完掘状況 況2	61
写真74	00611調査1区IV層上面遺構完掘状況 (東から)	51	写真92	00612調査1区西壁土層断面	61
写真75	00611調査1区SX-1（南東から）	51	写真93	00612調査2区遠景（南西から）	61
写真76	00611調査1区東半部のIV層上面の検出遺構（西から）	51	写真94	00612調査2区南壁土層断面	61
写真77	00611調査1区IV層中の繩文土器出土状況 (南西から)	51	写真95	00613調査区遠景（北東から）	63
写真78	00611調査2区完掘状況（南から）	53	写真96	00613調査1トレンチ全景（南から）	63
写真79	00612調査1区移植作業	59	写真97	00613調査2トレンチ全景（北から）	63
写真80	00612調査1区全景（西から）	59	写真98	00614調査1・2トレンチ遠景（南から）	66
写真81	00612調査1区IV層上面の遺構検出状況	59	写真99	00614調査1トレンチ（北東から）	66
写真82	00612調査1区IV層上面の遺構完掘状況1	59	写真100	00614調査2トレンチ（北東から）	66
写真83	00612調査1区IV層上面の遺構完掘状況2	59	写真101	00614調査2トレンチ西壁土層 (北東から)	66
写真84	00612調査1区IV層上面の遺構完掘状況3	59	写真102	00614調査3トレンチ全景（東から）	66
写真85	00612調査1区SK-2遺物出土状況 (南東から)	59	写真103	00614調査3トレンチ西半部（東から）	66
写真86	00612調査1区SP-26土層断面	59	写真104	00614調査3トレンチ東半部（西から）	66
			写真105	00614調査3トレンチ東端部のⅢ層出土状況（東から）	66
			写真106	00615調査1トレンチ遠景（南から）	71
			写真107	00615調査1トレンチ西壁土層	71
			写真108	00615調査2トレンチ近景（南西から）	71
			写真109	00615調査2トレンチ東壁土層	71

表 目 次

表1	2006年度の埋蔵文化財調査室の体制	2	表5	00608（樽味遺跡8次）調査出土遺構一覧	
表2	2006年度埋蔵文化財調査依頼一覧	3			37
表3	2006年度発掘調査一覧	4	表6	愛媛大学埋蔵文化財調査一覧	
表4	2006年度調査室・調査室資料利用一覧	9		(2007年12月現在)	72～77

I 埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1 埋蔵文化財調査委員会

2006年度の埋蔵文化財調査委員会は、2006年7月25日(第1回)と2007年2月27日(第2回)に開催された。

第1回埋蔵文化財調査委員会では、施設企画課長から埋蔵文化財調査委員会規程の一部改正とその経緯、新委員の紹介があった後、施設基盤部長から林和男副学長(広報・環境・情報担当)が委員長に決定された旨の説明があった。埋蔵文化財調査委員会の体制は以下の通りである。

委員長 林 和男(副学長、広報・環境・情報担当)
 委員 亀井 崇(副学長、総務・施設担当)
 委員 森 孝明(法文学部長)
 委員 下條 信行(法文学部・教授)
 委員 松原 弘宣(法文学部・教授)
 委員 曲田 清維(教育学部長)
 委員 川岡 効(教育学部・教授)
 委員 野倉 瞬紀(理学部長)
 委員 橋本 公二(医学部長)
 委員 高松 雄三(工学部長)
 委員 山之内恵一(本部・経営企画部長)
 委員 八木 修一(本部・財務部長)
 委員 山地 久司(本部・施設基盤部長)

委員長の挨拶の後、2005年度事業報告、2006年度事業計画、その他の議題が報告・審議された。2005年度の実施事業については、発掘調査、整理作業、発掘調査報告書等の刊行と発送、広報・資料の利活用状況、そして愛媛大学保管・所蔵資料に関する各事項内容が下條埋蔵文化財室長から報告された。印刷物について、委員長からWeb利用などの可能性が質問され、調査報告書はデータ容量が大きいことから紙媒体で行って

いること、調査報告書の簡易版をWebで一部公開していることが説明された。2005年度会計報告では、「文京遺跡V - 文京遺跡18次調査 -」の刊行できなかった理由と今後の見通しが説明され、その予算額を2006年度に繰り越したことが報告された。以上の審議が行われ、2005年度の実施事業・会計報告は了承された。つづいて、2006年度実施計画事業については、発掘調査、整理作業、発掘調査報告書等の印刷・刊行、発送、広報・資料の利活用の各計画、2006年度予算案について説明が行われ、審議の後、2006年度の事業計画・予算は了承された。その他、埋蔵文化財室長から、埋蔵文化財調査室に保管されている資料の利用がとくに多くなっていること、松山市文化財専門委員会から文京遺跡出土資料の公開希望が出されていることを再確認した上で、資料公開のあり方と埋蔵文化財調査室の利用規程について検討したい旨の提案があり、了承された。

第2回埋蔵文化財調査委員会では、2007年度事業計画について審議された。埋蔵文化財室長から、大学ミュージアム計画の進行に伴い、埋蔵文化財調査室の業務を、①発掘調査、整理作業(遺物整理と遺物実測)、報告書・年報作成に関わる業務と、②展示・普及活動(大学ミュージアム計画に対応する業務、公開講座)に関わる業務に再構築することが提起され、事業計画の内容が説明された。とくに、発掘調査については、耐震補強に伴う改修工事が複数計画されていることが説明され、これに対応する発掘計画の策定が確認された上で、事業計画は了承された。その後、2007年度予算案について資料に基づき説明が行われ、原案通り了承された。

(吉田)

2 2006年度の埋蔵文化財調査室事業

(1) 発掘調査と整理作業

埋蔵文化財調査室では、毎年度当初、各部局に計画されている掘削を伴う工事について施設基盤部を通じて問い合わせを行い、各工事について埋蔵文化財への

影響を判断し、調査あるいは工法変更等の協議を行うこととしている。この中で、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度で埋蔵文化財に影響がないと判断されたものについては、発掘調査は必要ないことを回答

するとともに、慎重工事を依頼している。一方、工事によって埋蔵文化財に影響が及ぶと判断した場合は、工事の規模・埋蔵文化財への影響度を勘案して調査を行うこととなる。

2006年度には、39件の調査依頼あるいは照会を受け(表2)、15件について調査を実施した(表3)。年度後半から調査依頼と調査件数が大幅に増えたため、年度末の業務をかなり圧迫する状況であった。団地別では、城北団地で5件、樽味団地で5件、持田団地で2件、重信団地で1件、畠寺団地で2件である(図1~5)。調査種別では、試掘調査が2件、立会調査9件、本格調査3件、確認調査1件である。本格調査は、持田構内遺跡1次調査(調査番号:00604)、樽味遺跡8次調査(調査番号:00608)、文京遺跡30次調査(調査番号:00611)である。また、00612調査は、調査面積が狭いために立会調査形式で着手したが、弥生時代の遺構・遺物に加えて、より下層で绳文時代後期の遺構と遺物が出土し、調査期間も長くなつたことから、31次調査として調査次数を付与した。確認調査は、畠寺団地で00606調査として実施した。

発掘調査報告書の刊行に向けた整理作業として、理学部総合研究棟改修工事に伴う文京遺跡28次調査出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業を行つた。また、城北団地工学部校舎新営Ⅰ期工事に伴う文京遺跡12次調査で水洗した土壤から微細遺物の選別作業を進めた。出土遺物の実測・製図作業は、情報教育棟新営工事に伴う文京遺跡25次調査出土遺物と、旧愛媛大学歴史学研究会保管資料について実施した。年度当初に計画していた農学部2号館改修工事に伴う樽味遺跡7次調査出土遺物については、2007年度に持ち越すことになった。(吉田)

表1 2006年度の埋蔵文化財調査室の体制

室長	下條 健行	法文学部教授
調査員	田崎 博之 吉田 広 三吉 秀光	法文学部助教授 法文学部助手
専門員	松原 弘宣 村上 恭通 川岡 勉	法文学部教授 法文学部教授 教育学部教授
教務補佐員	宮崎 直栄	
事務補佐員	渡邊かおり	
技術補佐員	濱田 美加	施設基盤部施設企画課
技能補佐員	井手野文江 門田 都	

(2) 発掘調査報告書・埋蔵文化財調査室年報の刊行

2006年度には、城北団地で1998年度に実施した総合情報処理センター新営工事に伴う文京遺跡18次調査の正式調査報告書である「文京遺跡V - 文京遺跡18次調査 -」と、2002年度に実施した情報教育棟新営工事に伴う文京遺跡25次調査の正式調査報告書である「文京遺跡VI - 文京遺跡25次調査 -」、そして2005年度に実施した全面調査の概要報告と小規模調査の報告をとりまとめた『埋蔵文化財調査室年報 - 2005年度 -』を刊行する計画であった。しかし、2006年度に対応すべき発掘調査が多く、いずれも年度内に刊行することができなかつた。(吉田)

(3) 広報、資料等の利活用

構内遺跡調査の累積により、埋蔵文化財調査室が保管する出土遺物及び資料は膨大な量に達するようになつた。もちろん、それらの調査成果の速やかな公開が促されている一方で、学内外から資料の公開や利用の要望が少なからず寄せられてきた。埋蔵文化財調査室では、このような要望に応えるべく、調査成果や埋蔵文化財調査室に関する広報活動を積極的に進めているところである。

1) 埋蔵文化財調査室保管資料の活用状況

前年度に引き続き、学内外から出土資料に関する調査や借用の依頼が多い。教材資料としての利用・借用依頼、学生・研究者の研究資料としての調査依頼、博物館等からの出展依頼等である。学内外から78件の出土品・調査記録の利用を依頼された(表4)。その内訳は、学外から56件、学内から22件である。学外からは、県内21件と中四国地区的20件を中心として関東にまで及ぶ。大学教員・学生や埋蔵文化財調査機関の調査研究員や担当者による研究目的での資料調査依頼が多く、計46件を数える。以外に、特別展示への貸し出し依頼が、松山市考古館と伊予市教育委員会から各2件あり、出版社からの資料掲載許可の依頼も1件あつた。学内からは、教員による実物教育の教材としての利用等が17件、学生・大学院生から研究資料としての利用が5件である。こうした依頼に対しては、それぞれ調整を図りながら、個別に対応している。

2) 広報パンフレットの配付

1997年度に作成し2回目の改訂を行つた広報パンフレット『発掘愛媛大学』を、各機会に配付した。2006年度の新入学生に対しては、各学部に依頼

表2 2006年度埋蔵文化財調査依頼一覧

依頼者		対応
日付	発 工事名	
3月27日	施設基盤部施設整備課長 (城北団地) 教育学部附属中学校校舎新工事 計画	試面調査として00601調査を実施。
4月3日	農学部長 (博多団地) 農学部上水道工事耐候性工事	立会調査として00602調査を実施。
6月16日	施設基盤部長(財務部長代)	周辺の既往調査の成果から、6ヶ所で埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査必要な6ヶ所について、具体的な計画の協議を依頼。
6月20日	施設基盤部施設整備課長 (博多団地) 総合研究棟改修工事	本格調査として00608調査を実施。
6月22日	施設基盤部企画衛生管理室長 (城北団地) 司馬場雨水配管修繕工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
7月4日	教育学部附属中学校長 (博多団地) 教育学部附属中学校校舎新工事	本格調査として00604調査を実施。
7月4日	施設基盤部長(財務部長代) (重信団地) 医学部および附属病院敷地内の電柱替え工事	立会調査として00607調査を実施。
7月7日	施設基盤部施設整備課長 (博多団地) 総合研究棟改修工事	本格調査として00605調査を実施。
7月18日	施設基盤部長(農学部長代) (博多団地) 医学部空調機アース構造設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削範囲は既設建物建設に伴う余振り範囲に収まるとして判断し、調査せず慎重工事を依頼。
7月19日	施設基盤部長(財務部長代) (博多団地) 農学部敷地内の電柱替え工事	立会調査として00609調査を実施。
8月1日	施設基盤部長 (城北団地) 敷地内の電柱替え工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
8月22日	施設基盤部施設整備課長 (城北団地) 谷戸活動第2共用施設新築給水バルブ施工工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
8月22日	施設基盤部施設整備課長 (城北団地) 工学部駐輪場舗装工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
9月25日	施設基盤部安全衛生管理室長 (城北団地) 第1体育館屋外井手管等修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
9月27日	施設基盤部施設整備課長 (宿泊団地) 附属農業高等学校校舎新設工事	立会調査として00605調査を実施。
10月2日	施設基盤部安全衛生管理室長 (城北団地) 東門駅近接施工工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月3日	施設基盤部安全衛生管理室長 (城北団地) 教育学部1年附火管修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月13日	法文学部長 (城北団地) 法文学部敷地内環境整備	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月13日	法文学部長 (城北団地) 法文学部2号館非常階段設置工事	立会調査として00614調査を実施。
10月20日	施設基盤部施設整備課長 (城北団地) 本部駅バスターミナル改修設置改修工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月20日	施設基盤部施設整備課長 (宿泊団地) 附属農業高等学校校舎新設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月23日	施設基盤部施設整備課長 (城北団地) 真理学部附属農業高等学校ボイラーハウス新設工事	立会調査として00609調査を実施。
10月27日	施設基盤部長(財務部長代) (重信団地) 団地敷地内支線接続工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
11月13日	施設基盤部長(工学部長代) (城北団地) 分子網結晶成長高精度システム設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
11月13日	施設基盤部安全衛生管理室長 (教育学生支援部教務課長見)	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
12月1日	施設基盤部安全衛生管理室長 (城北団地) 工学部3号館屋外汚水管路工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
12月7日	施設基盤部長 (城北団地) 第一体育館等改修工事	本格調査として00611調査を実施。
12月7日	施設基盤部長 (城北団地) 教育学部4号館改修工事	立会調査として00610調査を実施。
1月25日	施設基盤部安全衛生管理室長 (城北団地) 情報処理センター周辺掘削工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
1月29日	施設基盤部長 (城北団地) 交通製造施設設置工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
1月29日	施設基盤部長 (城北団地) 駐車場アスファルト舗装工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
1月29日	施設基盤部長 (城北団地) 施設改修工事	本格調査として00611調査を実施。
1月29日	施設基盤部長 (城北団地) 西側門埋設工事	立会調査として00610調査を実施。
2月2日	施設基盤部長(財務部長代) (重信地区) 敷地内の電柱替え工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
2月16日	施設基盤部安全衛生管理室長 (東長戸田町) 東長戸農宿合カーミラー取扱工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
2月21日	施設基盤部長 (城北団地) 理学部総合研究棟(Ⅰ期)等改修機械設備工事	工事地点の1ヶ所は既掘範囲の再掘削、1ヶ所は周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、立会調査として00614調査を実施。他の、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、1ヶ所は既掘範囲の再掘削であり、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、立会調査として00615調査を実施。
2月21日	施設基盤部長 (城北団地) 理学部総合研究棟(Ⅱ期)等改修電気設備工事	10ヶ所の工事地点の中で3ヶ所については、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響があり、調査必要と判断し、立会調査として00614調査を実施。他の、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、1ヶ所は既掘範囲の再掘削であり、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、立会調査として00615調査を実施。
2月28日	施設基盤部長 (博多団地) 総合研究棟改修機械設備工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。

表3 2006年度発掘調査一覧

調査番号	調査種別	調査地	道 路	工 事 名	調査担当	調査期間	面積面積
00601	試掘調査	持田	持田	教育学部附属中学校校舎新設工事	田崎・三吉	2006.4.3~4.7	46.5m ²
00602	立会調査	柳味	柳味	農学部下水道水漏れ修理工事	田崎	2006.5.13	0.5m ²
00603	立会調査	柳味	柳味	農学部筑紫内電柱立て替え工事	田崎・三吉	2006.8.21	0.7m ²
00604	本格調査	持田	(MCD-1)	教育学部附属中学校校舎新設工事	田崎・三吉	2006.8.23~9.29	292m ²
00605	試掘調査	重寺		農学部附属農業高等学校梁実校舎新設工事	田崎・三吉	2006.9.29	35m ²
00606	範囲調査	重寺		2006年度総括調査	田崎・三吉	2006.9.29	2,750m ²
00607	立会調査	重信		医学部及び附属病院敷地内の電柱建て替え工事	田崎・三吉	2006.11.9~11.10	18m ²
00608	本格調査	柳味	柳味 (TRM-8)	総合研究施設改修工事	田崎・三吉	2006.12.4~2007.1.26	42m ²
00609	立会調査	柳味	柳味	農学部附属農業高等学校ボイラー室新設工事	吉田	2006.12.21	29m ²
00610	立会調査	城北	文京	教育学部4号館耐震改修工事	吉田	2007.1.26	12m ²
00611	本格調査	城北	文京 (BNK-30)	宮前川架橋取扱工事	吉田	2007.2.5~2.8	17.7m ²
00612	立会調査	城北	文京 (BNK-31)	教育学部2号館耐震改修工事	田崎・三吉	2007.2.8~2.26	25m ²
00613	立会調査	城北	文京	屋外施設整備工事	田崎・三吉	2007.2.19~2.23	8m ²
00614	立会調査	柳味	柳味	総合研究施設改修機械設置工事	吉田	2007.2.26~3.2	21.6m ²
00615	立会調査	城北	文京	理学部施設研究棟構造修改(Ⅰ期)電気設備工事	田崎・三吉	2007.3.7	5.4m ²

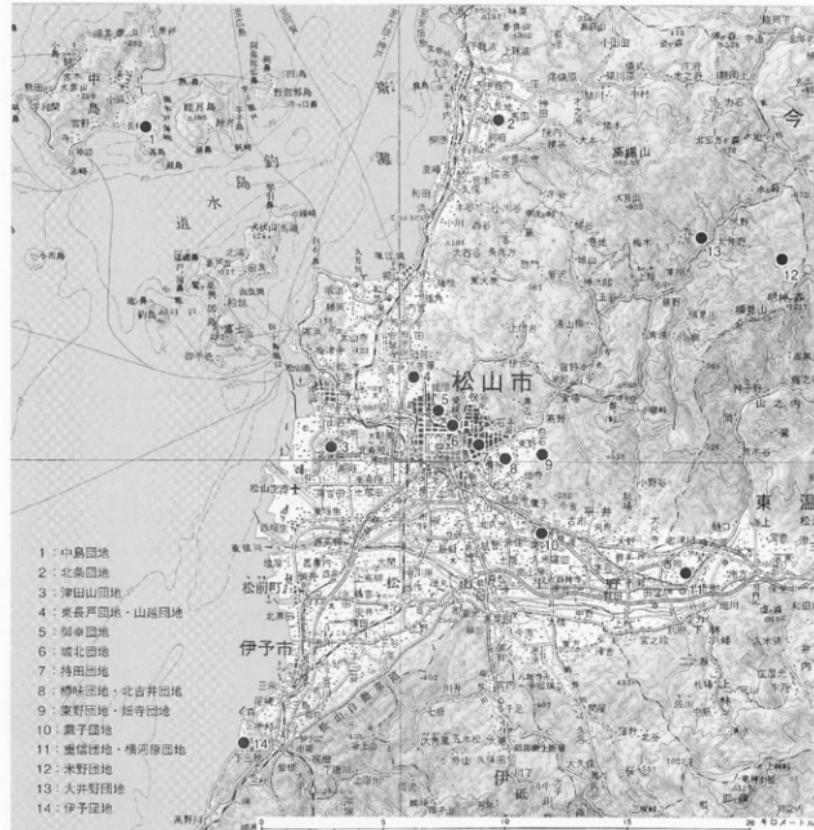


図1 愛媛大学主要団地位置図（縮尺 1/200,000）（平成17年4月1日国土地理院発行 1:200,000松山を加工）

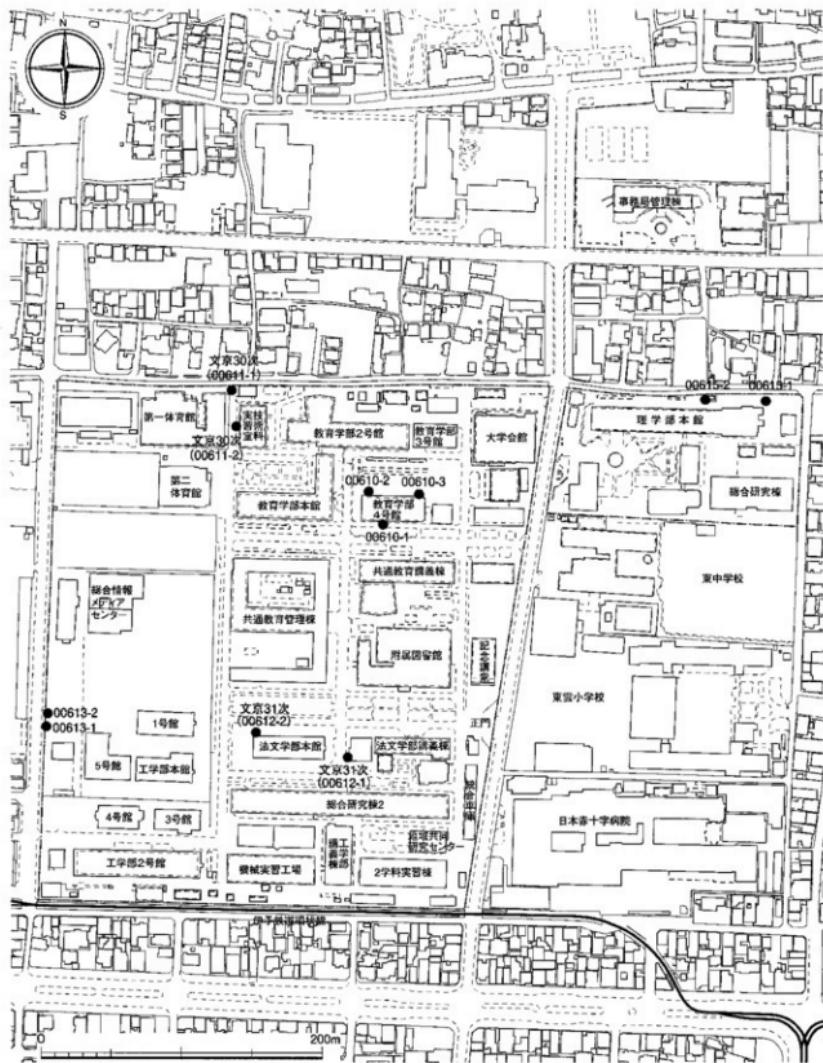


図2 城北団地における2006年度調査地点（縮尺 1/3,500）

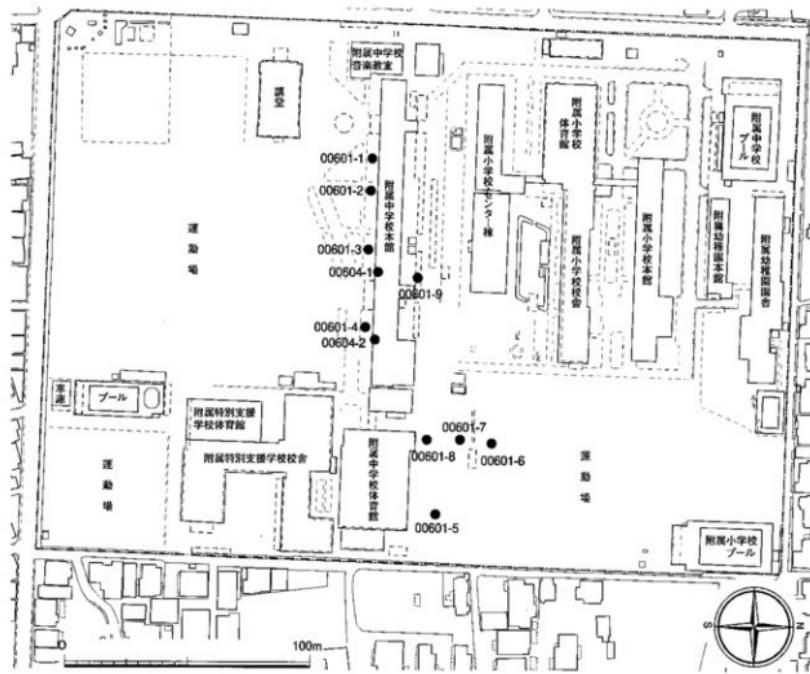


図3 持田団地における2006年度調査地点（縮尺1/2,000）

して入学式に配付資料に同封してもらっている。また、新任教員については、人事課を通じて研修時に配付している。また、インフォメーションセンターや各学部窓口等にも配置している。

(吉田)

3) Web を利用した広報活動

埋蔵文化財調査室ホームページを通じて、公開講座「文京遺跡から学ぶ弥生時代のムラの生活」関連情報や、2006年度に実施した大学構内遺跡の発掘調査情報を随時公開し、調査室の調査・研究活動の情報発信に努めている。また、文京遺跡31次調査で3次元カメラを用いて発掘調査の撮影を行うなど、文京遺跡をはじめとした大学構内遺跡の利活用に関わるコンテンツ作成を進めている。

(三吉)

4) 公開講座の開催

前年度に引き続いだ、2006年度も法文学部において文京遺跡を中心とした公開講座を開催した。内容は以下の通りである。

11月18日（土）

田崎博之「分銅形土製品－顔を写した呪術具」

11月25日（土）

吉田 広「青い小玉と緑の管玉－身を装う」

12月2日（土）

三吉秀光「紡錘車－暮らしの中の糸づくり・布づくり」

12月9日（土）

下條信行「鏡－装いと威信」

12月16日（土）

田崎・吉田・三吉「討論－弥生人の装いと呪術」

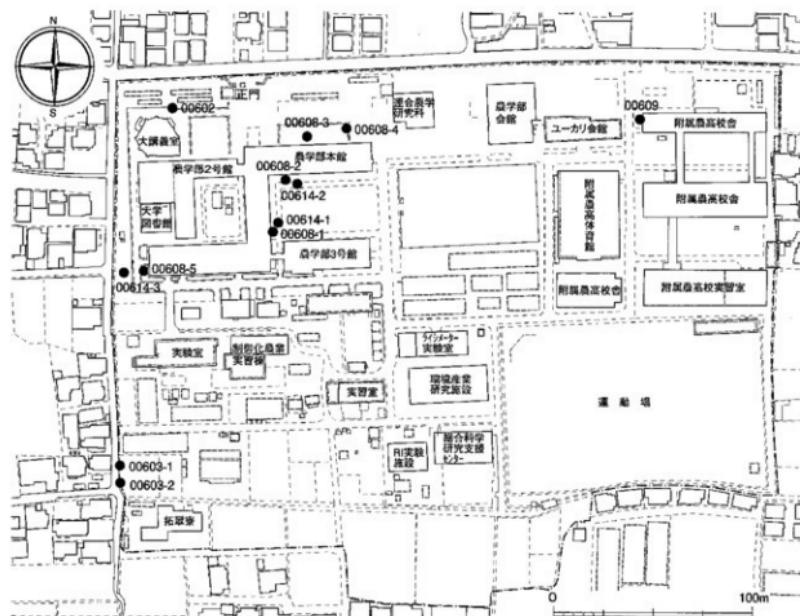


図4 植味団地における2006年度調査地点（縮尺 1/2,500）

参加者は必ずしも多くはないが、各回とも実物資料を持ち込んでの、内容的にも充実した講座を提供できたと自負している。公開講座終了後のアンケート結果も好評で、公開講座の継続的な実施が要望されている。

年度末には、公開講座の内容やアンケートの結果、寄せられた質問への回答をまとめ、記録集『愛媛大学公開講座 文京遺跡から学ぶ弥生時代のムラ』を刊行した。
(吉田)

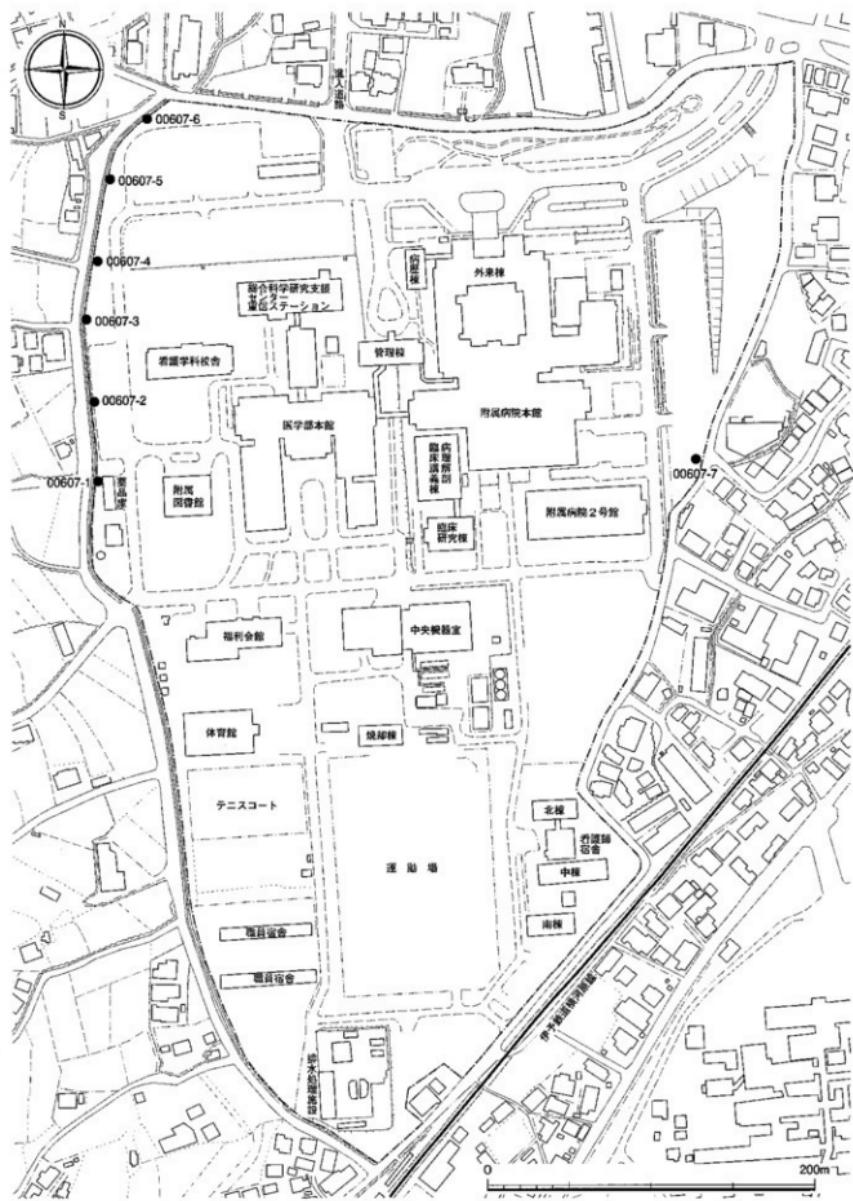


図5 重信団地における2006年度調査地点（縮尺1/3,000）

表4 2006年度調査室・調査室資料利用一覧

申請年月日	利 用 者	利 用 資 料	目的	利 用 内 容	
4月1日	愛媛大学法文学部、教員	麝子遺跡・博峰遺跡出土資料	教育 研究 借用 研究 借用 研究 借用	借用 研究 借用 研究 借用 研究 借用	
4月13日	松野町教育委員会、職員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用 研究 借用	研究 研究 借用 研究 借用	
4月13日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡10次調査出土資料	教育 研究 借用	教育 研究 借用	
4月13日	愛媛大学教育学部、教員	文京遺跡出土資料	教育	教育	
4月13日	松山市在住個人(2名)			施設見学	
4月14日	愛媛大学法文学研究科・修了生	源藏文化財調査室所蔵図書	研究	研究	
4月19日	愛媛大学法文学研究科・修了生	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究	研究	
4月19日	伊予市教育委員会・職員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	研究 研究 借用	
4月19日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡10次調査出土資料	教育 研究 借用	教育 研究 借用	
4月20日	香川県埋蔵文化財センター・職員			施設見学	
4月25日	徳島大学理・文化系調査室、教員	文京遺跡体験学習関連資料	研究 研究 借用	資料送付 資料送付 借用	
4月26日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡10次調査14次調査出土資料	教育 研究 借用	教育 研究 借用	
5月2日	愛媛大学附属中学校、教員	附屬中学校実習記録	教育	資料送付	
5月10日	愛媛深埋蔵文化財センター・職員			施設見学	
5月24日	大阪大学法文学部、教員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
5月26日	室内庁斎藤郎、職員	文京遺跡開発刊行物	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
5月27日	上郡町教育委員会、職員	海生時代文京遺跡の文献	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
5月27日	横浜市歴史博物館、学芸員	文京遺跡の歴史文献	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
5月27日	香川県埋蔵文化財調査室、職員	文京遺跡開発刊行物	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
5月28日	足野市教育委員会・職員	文京遺跡に関する文献	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
5月31日	奈良県立橿原考古学研究所、職員	文京遺跡開発文献	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
5月31日	愛媛大学法文学部、教員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	资料编写 资料编写 借用	
6月5日	佐野町教育委員会・職員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	资料编写 资料编写 借用	
6月7日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡出土品生土器	研究 研究 借用	资料编写 资料编写 借用	
6月14日	愛媛大学法文学部、教員	旧歴史学研究所保管資料須恵器	研究 研究 借用	资料编写 资料编写 借用	
6月20日	出云市教育委員会・職員	文京遺跡資料	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
6月20日	今治市教育委員会・職員	文京遺跡文献	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
6月23日	鳥取県埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡文献	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
6月24日	八幡浜市在住個人	文京遺跡開発文献	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
6月24日	福山市教育委員会・職員	文京遺跡文献	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
6月30日	出版社(青木書店)	文京遺跡14次調査地形図製品・実測図	出版 出版	掲載 掲載	
7月7日	松山市埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡25次調査資料	研究 研究 借用	资料利用 资料利用	
7月22日	徳島市埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡出土石器	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
7月22日	山口大学埋蔵文化財資料館、教員	文京遺跡出土石器	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
7月22日	香川県埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡出土石器	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
7月22日	山口大学人文学部、教員	文京遺跡出土石器	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
7月22日	広島県教育委員会・職員	文京遺跡出土石器	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
7月23日	広島県教育委員会・職員	文京遺跡出土石質	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
7月24日	愛媛大学法文学研究科・修了生	文京遺跡出土石質	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
7月28日	四国中央市教育委員会・職員	文京遺跡出土石質	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
8月4日	香川県教育委員会・職員	文京遺跡出土石疊・土傾	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
8月7日	香川県大川広域行政組合・職員	文京遺跡出土石質	研究 研究 借用	热販・写真撮影 热販・写真撮影	
8月9日	伊予市教育委員会・職員	文京遺跡10次調査出土資料	展示 展示 借用	实物 实物 借用	
8月10日	愛媛深埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡開発文献	研究 研究 借用	资料利用 资料利用 借用	
8月16日	山口県立博物館・学芸員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	文献搜查 文献搜查 借用	
9月11日	愛媛大学法文学部・学生	文京遺跡13次調査出土須恵器	研究 研究 借用	借用 借用 借用	
9月19日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡出土土器	研究 研究 借用	写真撮影 写真撮影 借用	
9月25日	松野町教育委員会・職員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	资料送付 资料送付 借用	
9月29日	松山市考古館・学芸員	文京遺跡24次調査出土鏡片	研究 研究 借用	借用 借用 借用	
10月3日	愛媛県埋蔵文化財博物館・学芸員	伝統社会研究会保存資料	研究 研究 借用	热販 热販 借用	
10月4日	伊予市教育委員会・職員	文京遺跡10次調査出土生土器	研究 研究 借用	借用 借用 借用	
10月5日	愛媛大学法文学研究科・修了生	文京遺跡10次調査出土生土器	研究 研究 借用	借用 借用 借用	
10月13日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡出土石器	研究 研究 借用	借用 借用 借用	
11月4日	松山市役所	文京遺跡記録	調査研究 調査研究	調査研究 調査研究	
11月6日	東京都埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡出土資料	研究 研究 借用	热販 热販 借用	
11月18日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡出土分塑型土製品	教育 研究 借用	借用 借用 借用	
11月22日	愛媛大学法文学部、教員	文京14次調査土質	教育 研究 借用	借用 借用 借用	
11月25日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡出土指輪・管玉・ガラス小玉	教育 研究 借用	借用 借用 借用	
12月2日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡出土土器	教育 研究 借用	借用 借用 借用	
12月5日	徳島県・内閣官房・教員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	借用 借用 借用	
12月6日	島袋大学埋蔵文化財調査室、教員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	施設見学 施設見学 借用	
12月8日	岡山県古代吉備文化センター・職員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	热販 热販 借用	
12月9日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡10次調査出土鏡	教育 研究 借用	借用 借用 借用	
12月11日	愛媛大学法文学部、教員	文京遺跡18次調査出土資料	研究 研究 借用	实物 实物 借用	
12月18日	皇室龍馬・教員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	借用 借用 借用	
12月18日	宮崎大学・教員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	借用 借用 借用	
12月25日	愛媛大学法文学部・学生	文京遺跡10・13・20次調査出土石器	研究 研究 借用	热販・実測・写真撮影 热販・实测・写真摄影 借用	
2007年	1月6日	愛媛深埋蔵文化センター・職員	文京遺跡出土資料	研究 研究 借用	热販 热販 借用
1月6日	四国中央市教育委員会・職員	文京遺跡出土資料	研究 研究 借用	热販 热販 借用	
1月6日	香川県埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡出土資料	研究 研究 借用	热販 热販 借用	
1月6日	徳島大学教育学部・教員	文京遺跡出土資料	研究 研究 借用	热販 热販 借用	
1月6日	松山市考古館・学芸員	文京遺跡出土資料	研究 研究 借用	热販 热販 借用	
1月27日	今治市教育委員会・職員	文京遺跡出土資料	研究 研究 借用	情报提供 情报提供 借用	
1月28日	松野町教育委員会・職員	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	热販 热販 借用	
3月15日	愛媛大学法文学部・学生	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	研究 研究 借用	热販 热販 借用	
3月22日	愛媛大学法文学研究科・大学院生	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	文献希望 文献希望 借用	
3月22日	愛媛大学法文学部・学生	埋藏文化財調査室所蔵図書	研究 研究 借用	文献希望 文献希望 借用	

II 2006年度実施の発掘調査

2006年度には、工事によって埋蔵文化財に影響が及ぶと判断した14件の発掘調査を実施した。また、畠寺団地で確認調査を実施した。団地ごとに、城北団地5件、畠味団地5件、重信団地1件、持田団地2件、畠寺団地2件（うち1件は確認調査）である。この中で、本格調査は3件、試掘調査2件、立会調査9件、

確認調査1件である。本格調査は、持田構内遺跡1次調査（調査番号:00604）、柳味遺跡8次調査（調査番号:00608）、文京遺跡30次調査（調査番号:00611）に加え、前述したように00612調査については文京遺跡31次調査とした。

（田崎）

00601（持田団地）教育学部附属中学校校舎新設工事に伴う調査

調査地点 松山市持田町1丁目5番22号
愛媛大学持田団地
調査面積 46.5m²
調査期間 2006年4月3日～4月7日
調査の種別 試掘調査
調査担当 田崎博之・三吉秀充
依頼文書 施設基盤部施設整備課長発事務連絡
(平成18年3月27日付)

1 調査にいたる経緯

2006年3月24日、施設基盤部施設整備課長から、教育学部附属中学校校舎の改築計画について報告があった。耐震工事の内容、校舎改築に伴って南側にオープン廊下を拡張すること、代替教室とするプレハブ校舎を建設することなどの改築計画が説明され、これに対応して現地に赴き位置や範囲を確認し、調査予算・日程などの協議を進めた。その結果、

- ①耐震補強工事のため校舎建物余掘り範囲を把握すること
 - ②校舎拡張部分における埋蔵文化財の有無を確認すること
 - ③代替教室とするプレハブ校舎建設敷地における埋蔵文化財の有無を確認すること
- を目的として、試掘調査を早急に実施することを確認した。

2 調査の記録

（1）調査地点の位置と基本層序

今回の調査地点は9ヶ所である。校舎の南側4ヶ所

と北側1ヶ所に、建物余掘り範囲の把握と建て直しに伴う拡張部分における埋蔵文化財の有無の確認を行うため1～4・9トレンチを設定した。体育館北側の小学校運動場のプレハブ校舎の建設予定地には5～8トレンチを設定した（図3・6）。

さて、これまで附属小学校・中学校・特別支援学校がある持田団地では、10数回の試掘・確認調査を実施してきた。しかし、調査範囲は狭く、団地全体にわたる基本層序を設定するにいたっていなかった。今回、既往の調査成果と、団地東側で実施された松山環状線（岩崎）道路建設に伴う発掘調査の成果をあわせて、
I層：表土・造成土層
II層：水田・畠に利用された耕作土層と母材土壤の自然堆積層（洪水層）から構成される土層群
III層：石手川の埋没中州にあたる砂礫層
の基本層序を設定することとした。

今回の報告は、この基本層序に沿って行う。また、II層部分では、各トレンチで最上層に持田団地造成直前の水田層を確認できた。さらに、9トレンチを除いて、1ないし3層の水田・畠に利用された耕作土層と、その母材土壤である自然堆積層（洪水層）を検出できた。最上層の持田団地造成直前の水田層をII-1層とし、以下II-2・II-3層とした。また、水田・畠に利用された耕作土層にはa、その母材土壤である自然堆積層（洪水層）にはbの略号を追加している。さらに、II-1～3層を細分できる調査トレンチもあり、上部から①・②・③・・・・の層名を与えている。これはI・III層でも同様である。以上、今回調査の1～9トレンチでの各層位と基本層序の関係は、図7の



図6 00601・00604 (持田団地構内遺跡1次) 調査地点位置および南北地形断面図 (縮尺 1/1,200、1/120)

基本層序	1トレンチ	2トレンチ	3トレンチ	4トレンチ	5トレンチ	6トレンチ	7トレンチ	8トレンチ	9トレンチ
I	I-① I-②	I-① I-②	I-① I-②	I-① I-② I-③	I	I	I	I	I
II	II-1a II-1b-① II-1b-② II-1b-③	—	II-1a II-1b	II-1a II-1b	II-1a-① II-1a-②	II-1a-① II-1a-②	II-1a-① II-1a-②	II-1a-① II-1a-②	II-1a-① II-1a-②
III	II-2a-① II-2a-② II-2b	II-2a-① II-2a-② II-2b	II-2a-① II-2a-②	II-2a —	II-2a-① II-2a-②	SD-1 SD-2 II-2-3a-①	II-2-3a-①	II-2-3a	—
IV	II-3a-① II-3a-②	II-3a-① II-3a-②	II-3a	II-3a-① II-3a-② II-3a-③	II-3a-① II-3a-②	II-2-3a-①	II-2-3a-②	II-2-3a	—
V	II-① II-② II-③ II-④	II-① II-②	II-① II-②	II	II-① II-② II-③ II-④ II-⑤	II-① II-② II-③	II-① II-②	II-① II-②	II-① II-②

図7 持田団地構内遺跡における基本層序と00601調査各トレンチ土層との関係

ように整理できる。

(2) 各トレンチの調査記録

[1トレンチ] (図8-1、写真1・2)

中学校校舎建物余掘り範囲を把握するため、建物南側4ヶ所に調査トレンチを設定した。1トレンチは、その中でもっとも西側に位置する。基本層序のI～III層を確認できた。I層の表土・造成土層は、下半部は下層のII-1a層が一部小さな塊として巻き込まれている。I-②層とした。

II層では、II-1～II-3層を確認できた。II-1層は、水田層のII-1a層と、その母材土壤である自然堆積層のII-1b層に細分できる。II-1a層は、暗青灰色砂質シルトで、粗砂や小砾が多く混じる。II-1b層は、砂礫が非常に多く混じり、ラミナが部分的に観察される自然堆積層で、暗青灰色砂質シルトのII-1b-①層、青灰色砂質シルトのII-1b-②層、にぶい黄色砂質シルトのII-1b-③層から構成される。トレンチ西壁断面では、II-1b層を切って振り込まれた小穴を確認できた。近世～近代の陶器片が出土している。以上、II-1層は团地造成直前の近代の水田層である。

II-2層は、水田・畠に利用されたと考えられるII-2a層と、母材土壤である自然堆積層(洪积層)の

II-2b層に分層できる。II-2a層は、攪拌を受けて土壤化が進む砂礫混じりの暗灰白色砂質シルト質土のII-2a-①層と、砂礫混じりの灰黄色砂質シルト質土で部分的にやや粘性をおびるII-2a-②層に分層できる。II-2a-②層が黄色みをおびるのはマンガンが沈着しているためで、II-2a-①層は水田耕作土、II-2a-②層は床土部分と考える。II-2b層はトレンチ北半部にみられる小砾混じりの灰白色砂質シルト層で、ラミナ層が確認できた。

II-3層は、水田・畠に利用されたと考えられるII-3a層だけで構成される。上部のII-3a-①層は、砂礫が多く混じる灰黄色砂質シルト質土で、攪拌が著しく土壤化が進む水田層である。II-3a-②層はトレンチ南端で確認され、砂礫が多く混じる灰黄色砂質シルト質土で、やはり土壤化が進む。II-3a-①層と比べて黄色みがやや弱い。水田層の一部と考えた。

III層は、III-①～III-④層から構成される。III-①層は上層のII-3a層の影響を受けてにぶい黄色を呈する細砂層、III-②層は灰色細砂層で、部分的ににぶい黄色細砂のレンズ状ブロックが塊状にみられる。III-①・②層は全体として水平に堆積する。III-③層は径5～10cmの砂岩や花崗岩の扁平な円錐を主体として灰白色粗砂が混じる疊層、III-④層は灰白色の細砂・粗砂と径5cmほどの扁平な砂岩や花崗岩の円錐が水平

に堆積する。

【2トレンチ】(図8-2、写真1・3)

1トレンチから東へ12m離れた位置に2トレンチを設定した。1トレンチと同様に、基本層序のI～III層を確認できた。I層下部には、下層のII-1層の小塊をまき込んだI-②層がみられる。

II層はII-1～II-3層から構成される。2トレンチのII-1層では、水田層にあたるII-1a層はみられず、灰黄色粗砂が多く混じる自然堆積層であるII-1b層だけが確認できた。本来、水田耕作土層が堆積していたと考えられるが、削平されたものと考える。

II-2層は、砂礫混じりのシルト質土であるII-2a層と、小塊混じりの灰白色砂質シルトのII-2b層に分層できる。II-2a層は、砂礫混じりの灰白色砂質シルト質土であるII-2a-①層と、砂礫混じりの黄色砂質シルト質土のII-2a-②層から構成される。土壤化が進み攪拌を受けた水田耕作土層である。II-2a-②層は、砂礫は少なく粘性をややおびる。マンガンが沈着しているため黄色みをおびた土色であるが、II-2a-①層とはほぼ同質の土層で、床土層と判断した。II-2b層は土壤化がほとんどみられず、ラミナ層が部分的に確認できる。II-2a層の母材土壤である自然堆積層（洪流水層）である。

III層はIII-①～III-③層から構成される。III-①層は灰黄色細砂で、径5cmほどの円礫が混じる。1トレンチのIII-①層に対応する堆積物である。III-②層は灰白色的粗砂層、III-③層は径10～15cmの扁平な円礫を主体として灰白色的粗砂が混じる疊層である。

【3トレンチ】(図8-3、写真1・4)

中学校校舎南側のほぼ中央に設定したトレンチである。2トレンチの東側23mに位置する。基本層序のI～III層を確認できた。I層下部には、II-1a層の小塊をまき込んだI-②層がみられる。

II層はII-1～II-3層から構成される。II-1層は、II-1a層とII-1b層に分層できる。II-1a層は、暗青灰色砂質シルト質土で、粗砂や小礫が非常に多く混じる。土壤化が進む持田団地造成直前の旧水田層である。II-1b層は、II-1a層の影響を受けて暗青灰色を呈する砂質シルトである。1・2トレンチで確認できたII-2b層はみられない。II-2層は、砂礫混じりの砂質シルト質土層で、土壤化が進み攪拌を受けた暗灰白色の水田耕作土層であるII-2a-①層と、マンガンが沈着して灰黄色を呈する床土層にあたるII

-2a-②層に細分できる。II-3a層は、砂礫が多く混じる灰黄色砂質シルト質土で、土壤化が進む水田層である。

III層はIII-①層とIII-②層から構成される。III-①層はにぶい黄色細砂層で、III-②層は灰色ないし灰白色の粗砂や細砂が混じる径5cmほどの扁平な砂岩・花崗岩円礫の砂礫層である。

【4トレンチ】(図8-4、写真5・6)

中学校校舎南側に設定したトレンチでもっとも東側に位置する。基本層序のI層～III層を確認できた。I層は、真砂と瓦礫のI-①層、掘り返しを受けたI-②層、下部のII-1層が掘り返され攪乱されたI-③層からなる。

II層は、I～3トレンチと同じく、II-1層～II-3層に分層できる。II-1層は、水田層であるII-1a層、その母材土壤である自然堆積層のII-1b層とともに、土質・土色は1～3トレンチと同様である。II-2層では水田耕作土層にあたるII-2a層だけを確認できた。砂礫混じりの黄褐色砂質シルト質土層である。II-3層は、II-3a-①～II-3a-③層から構成される。II-3a-①層は部分的にしかみられないが、砂礫が少量混じる黄褐色砂質シルト質土、II-3a-②層は砂礫混じりの黄褐色シルト質土である。

4トレンチのIII層は、經砂に径1～15cmの円礫が混じる砂礫層である。上部のII-3層の影響を受けて灰黄色を呈する。

【5トレンチ】(図8-5、写真7～10)

体育館北側の小学校運動場に計画されている代替教室プレハブ建設予定地に設定した南北18.2mのトレンチである。南端部はゴミ穴で攪乱されていた（写真10）が、基本層序のI層～III層を確認できた。

I層は運動場に盛られた真砂土と腐植土層である。

II層はII-1層～II-3層から構成される。II-1層は、水田耕作土にあたる砂礫が多く混じる緑灰色砂質シルト質土のII-1a-①層と、床土層にあたる灰色みがやや強いにぶい黄橙色砂質シルト質土のII-1a-②層からなる。

II-2層も、水田耕作土にあたるII-2a-①層と、床土層であるII-2a-②層に細分できる。ともに砂礫が多く混じり、II-2a-①層は黄灰色シルト質土、II-2a-②層はマンガンが沈着したにぶい黄色を呈

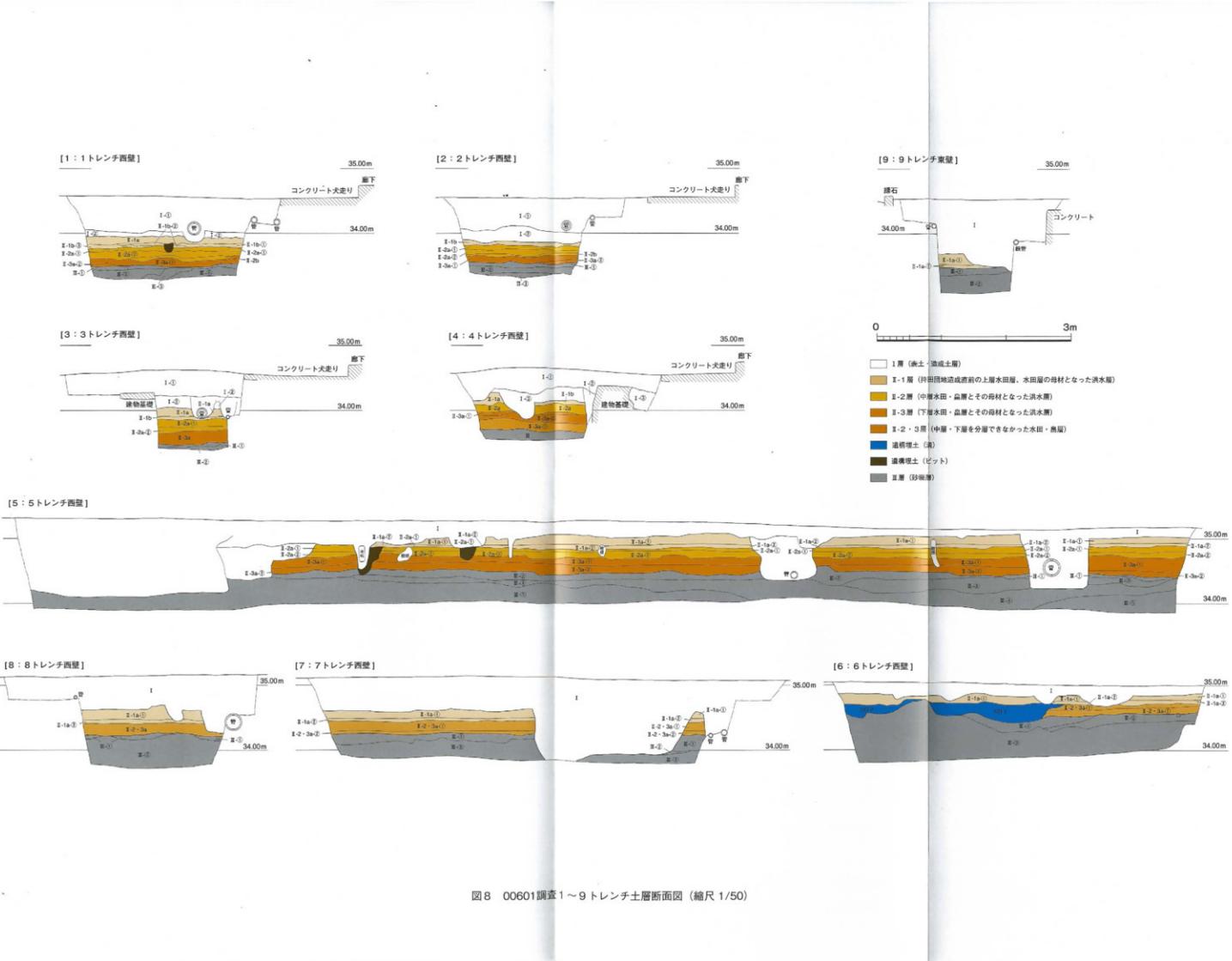




写真1 00601調査1～3 トレンチ遠景（西から）

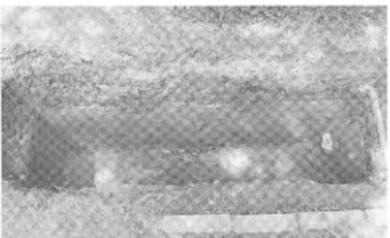


写真2 00601調査1 トレンチ西壁土層



写真3 00601調査2 トレンチ西壁土層



写真4 00601調査3 トレンチ全景および西壁土層
(北東から)



写真5 00601調査4 トレンチ全景（北東から）



写真6 00601調査4 トレンチ西壁土層



写真7 00601調査5 トレンチ全景（南から）

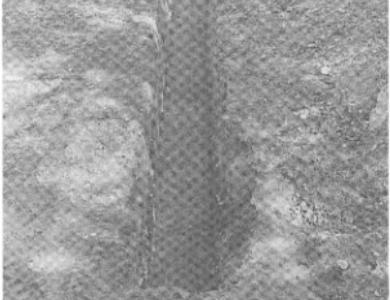




写真8 00601調査5 トレンチ西壁北端部土層



写真9 00601調査5 トレンチ西壁中央部土層



写真10 00601調査5 トレンチ西壁南端部土層



写真11 00601調査6 トレンチ全景および西壁土層
(南東から)



写真12 00601調査7 トレンチ全景 (南東から)



写真13 00601調査8 トレンチ西壁土層 (南東から)



写真14 00601調査9 トレンチ全景および東壁土層
(北西から)

する。

II-3層も同様で、水田耕作土にあたるII-3a-①層は砂礫混じりの黄灰色シルト質土、床土層のII-3a-②層は砂礫混じりのにぶい黄色シルト質土である。II-2a層を掘り込んだ小穴を2ヶ所で確認した。

III層は、III-①層～III-⑤層から構成される。III-①層は黄灰色～にぶい黄色の細砂層。III-②層は部分的に粘質土の薄いレンズ状ブロックがみられるにぶい黄色細砂層。III-③層は灰色の粗砂・小礫を主体とする砂礫層。III-④層・III-⑤層は、径5～10cmの扁平な花崗岩円礫に、灰白色の粗砂・小礫がレンズ状ブロックで挟まる疊層である。III-⑤層には、灰白色の粗砂・小礫がレンズ状ブロックとなって多くみられる。

【6トレンチ】(図8-6、写真11)

小学校運動場の南半部中央に5トレンチと平行させて長さ30mほどのトレンチを設定しようとしたが、遊具があるため、ほぼ南北方向に3つのトレンチを設けることとし、北側から6～8トレンチとした。

6トレンチで、表土層のI層下で、上下2枚の水田層を確認できた。上部の水田層は、5トレンチでも出土している持田団地造成直前の水田層で、II-1a層とした。耕作土層にあたるII-1a-①層と、床土層にあたるII-1a-②層から構成される。下部の水田層は、5トレンチのII-2a層もしくはII-3a層に対応する水田層で、判断がつかなかったのでII-2・3a層と呼ぶことにした。耕作土層にあたるII-2・3a-①層と、床土層にあたるII-2・3a-②層から構成される。

また、トレンチ壁面の観察で、II-2・3a層上面から落ち込む溝を確認できた。SD-1・2としたが、ともに東西方向にのびる水路である。SD-1の埋土は親指先大の礫が点々と混じる黄灰色砂質土、SD-2の埋土は粗砂を主体とする黄灰色砂質土で、ともに土壤化は弱い。

II-2・3a層の下部にはIII-①～III-③層が堆積する。III-①・III-②層は上部のII-2・3a層の影響を受けてマンガンが沈着する。III-①層は黄灰色砂層。III-②層は親指先大の円礫が点々と混じるにぶい黄色砂礫層。III-③層は灰白色的砂礫層で、拳大の砂岩の円礫を主体として、粗砂のレンズ状ブロックが縦状にみられる。

【7トレンチ】(図8-7、写真12)

7トレンチは6トレンチの南側に設定した。6ト

レンチと同じく、表土層のI層下で、上下2枚の水田層を確認できた。上部の水田層は、持田団地造成直前の水田層で、6トレンチのII-1a層と対応する。耕作土層にあたるII-1a-①層と、床土層にあたるII-1a-②層から構成される。下部の水田層は、5トレンチのII-2・3a層に対応する水田層で、耕作土層にあたるII-2・3a-①層と、床土層にあたるII-2・3a-②層に分層できる。III層は、砂礫混じりのにぶい黄色砂質シルトのIII-①層、灰褐色微細砂層のIII-②層、灰白色の砂礫層のIII-③層からなる。III-③層は6トレンチのIII-③層と対応する。

【8トレンチ】(図8-8、写真13)

7トレンチの南側、中学校体育館北西角の北側に設定したトレンチである。基本層序のI～III層を確認できましたが、II層は、6・7トレンチと同じく、持田団地造成直前の水田層であるII-1a層と、その下層の水田層のII-2・3a層で構成される。II-1a層は、耕作土層にあたるII-1a-①層と、床土層にあたるII-1a-②層に分層できる。III層は、最上部に小礫混じりのにぶい黄色砂質シルトのIII-①層が堆積し、下部は灰白色砂礫層のIII-②層で、6トレンチのIII-③層に対応する。

【9トレンチ】(図8-9、写真14)

当初、中学校校舎北側の建物余掘り範囲を明らかにするため、建物に沿って調査区を設定しようと予定していたが、自転車置き場が並び、既設の配管も多く、建物沿いではなく、自転車置き場の間際にトレンチを設けることとし、9トレンチとした。攪乱が著しく、I層がかなり厚いが、地表下85cmで持田団地造成直前の水田層であるII-1a層があらわれた。II-1a層の下層はIII層となる。III層は、小礫混じりのにぶい黄色細砂層のIII-①層、砂岩や花崗岩の円礫を主体とする疊層のIII-②層に分層できる。

3 調査のまとめ

今回の調査では、校舎南側に1～4トレンチを設定して校舎建物余掘り範囲を把握することに努めたが、調査範囲が狭いため、余掘り範囲を確認することはできなかった。各トレンチと校舎建物との間に幅1.2mほどのコンクリート走り部分があり、建物余掘りの範囲はその中に収まるものと考えられる。以上の1～4トレンチを含めて、今回設定した9ヶ所の調査トレンチは、持田団地のほぼ中央部分に位置する。各ト

レンチの調査結果から、広い範囲にわたって水田層である基本層序Ⅱ層が広がることを確認できた。このⅡ層は、9トレンチを除いて、2ないし3層から構成される。最上層のⅡ-1層は持田団地造成直前の水田層であるが、Ⅱ-2・Ⅱ-3層の時期は出土遺物がほとんどなく、時期を判断できない。

しかし、団地東側で行われている松山環状線(岩崎)道路建設に伴う発掘調査I-1～4区では、近代の水田層下で15世紀後半を前後する2層の水田・畠が出土している(図6)。その出土標高は、小学校運動場の5トレンチのⅡ-2a・Ⅱ-3a層とほぼ共通する。また、6～8トレンチのⅡ-2・3a層も同様である。いずれも、当該期の水田層である可能性が高い。さらに、6トレンチで出土した東西にのびる2条の溝は、層序関係からⅡ-2・3a層に伴う水路と判断できる。

一方、中学校校舎南側の1～4トレンチでも、持田団地造成直前の水田層であるⅡ-1層の下層で、2枚の水田層が出土している。これらの地点は小学校運動場と比べて70cmほど低く、松山環状線(岩崎)道路建設に伴う発掘調査で確認されている15世紀後半を前後する水田・畠との直接的な関係は明らかでない。しかし、Ⅱ層の堆積相が5～8トレンチと共にすることから、やはり当該期の水田層である可能性が高いと考えられる。

このように、今回の調査成果から、少なくとも持田団地中央部分には、15世紀後半を前後する水田・畠層が広がっていると推定される。

4 調査後の対応

調査終了後、調査結果を施設基盤部に報告し、4月28日には施設整備課長と協議・調整を行った。その結果、以下の対応をはかり、埋蔵文化財の保護に努めることを確認した。

①耐震補強工事は、建物外壁に密着させて補強を行う計画であるが、掘削範囲を狭めるように工事計画を変更すること。

②改築に伴う校舎拡張工事範囲は、1～4トレンチの調査結果から、15世紀後半を前後する水田・畠層が広がっている可能性が高く、掘削深度が1mをこえるため、工事に先立って発掘調査が必要であること。

③校舎改築に伴うプレハブ校舎の建設が計画されている小学校運動場は、5～8トレンチの調査結果から15世紀後半を前後する水田・畠層が広がっている可能性が高い。プレハブ校舎の建設予定地では、この水田・畠層は地表下60cmであらわれると考えられる。工事に伴う掘削を地表下60cmまでに収める計画に変更すること。

④校舎改築に伴っては、配管の付け替えなどの諸工事が想定される。これらについても、掘削深度を浅くすることや、既設の配管路を利用することによって、埋蔵文化財に影響が生じないように配慮すること。

(田崎)

00602 (樽味団地) 農学部上水道水漏れ修繕工事に伴う調査

調査地点 松山市樽味3丁目5番7号

愛媛大学樽味団地

調査面積 0.5m²

調査期間 2006年5月13日

調査の種別 立会調査

調査担当 田崎博之

依頼文書 農学部長発事務連絡
(平成18年4月3日付)

明し至急修繕工事を行いたい旨、埋蔵文化財調査室に連絡があった。既設の管路部分の再掘削であるが、周辺の調査成果から地表下40cmほどで古墳時代～中世の遺構面があらわれるため、立会調査を実施した。

2 調査の記録(図4・9、写真15・16)

調査地点は樽味団地北西角の自転車置き場南側である。水漏れをおこしている地点を掘削したところ、地表下20cmほどで井水管があらわれ、上水道ではなく井水管の連結部分が水漏れしており、修繕工事による掘削では埋蔵文化財には影響がないことを確認した。

(田崎)

1 調査にいたる経緯

4月3日、農学部用度係から、樽味団地農学部の大講義室北側で上水道が水漏れをおこしていることが判



写真15 00602調査風景（西から）



写真16 00602調査漏水管確認状況

00603 (樽味団地) 農学部敷地内電柱立て替え工事に伴う調査

調査地点 松山市樽味3丁目5番7号
 愛媛大学樽味団地
 調査面積 0.7m²
 調査期間 2006年8月21日
 調査種別 立会調査
 調査担当 田崎博之・三吉秀光
 依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
 (平成18年7月19日付)

1 調査にいたる経緯

財務部企画課資産管理チームを通じて、四国電力から農学部敷地内の四国電力所有の電柱を調査したところ老朽化のため建て替えが必要となり、現有の電柱から1.5m離れた場所に電柱を新たに設置したい旨連絡があった。周辺の調査状況や掘削深度から、埋蔵文化財への影響が予想されるため、立会調査を実施することにした。

2 調査の記録

調査地点は、樽味団地南西部に位置する(図4・

10)。電柱建て替えに伴って2ヶ所のトレンチを設定し、樽味団地全域における基本層序のIV層上面まで人力で掘り下げて調査を進めることとした。北側を1トレンチ、南側を2トレンチとした。

【1トレンチ】(図10、写真18)

現地表下40cmまで瓦礫を伴ったI層が堆積する。I層の下にはII層が約28cm堆積し、II層直下、現地表下68cmでIV層を検出した。IV層上面を精査したが、遺構は検出できなかった。出土遺物はない。

【2トレンチ】(図10、写真19)

現地表下64cmまで瓦礫を伴ったI層が堆積し、直下でIV層を検出した。IV層はあざやかなオレンジ色を呈した砂疊混じりのシルト層である。

3 調査のまとめ

1トレンチでは表土層であるI層下でII層とIV層、2トレンチではI層直下でIV層があらわれ、弥生時代～中世の遺物包含層である基本層序III層は確認できなかつた。調査区周辺では、II層の水田の耕作によって、III層が削平されている可能性が高い。
 (三吉)

00604 (持田団地) 教育学部附属中学校校舎新築工事に伴う調査 (持田団地構内遺跡1次調査)

調査地点 松山市持田町1丁目5番22号
 愛媛大学持田団地

調査面積 292m²
 調査期間 2006年8月23日～9月29日

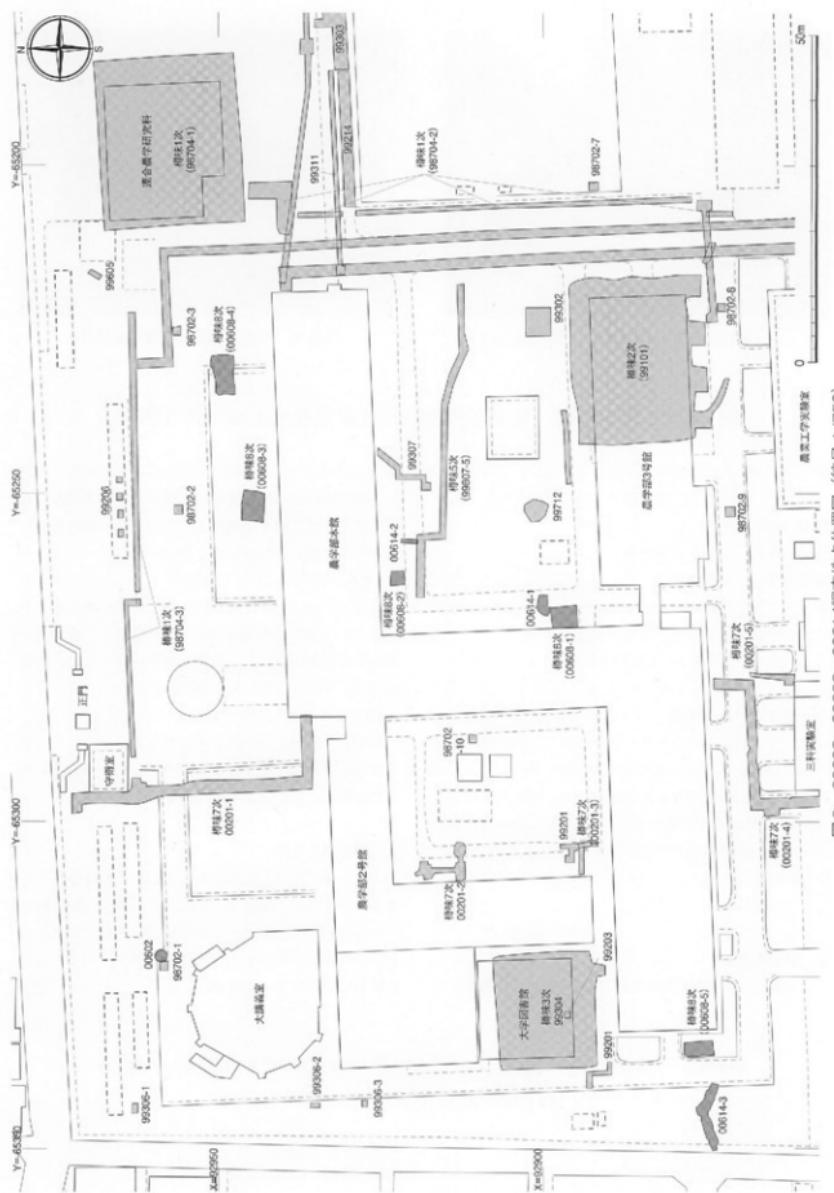


图 9 00602·00608·00614 调查点位置图 (缩尺 1/750)



図10 00603調査地点位置および1・2トレンチ土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/50）



写真17 00603調査地全景（北から）

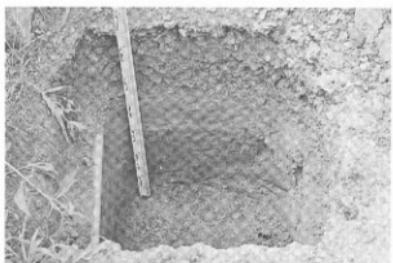


写真18 00603調査1トレンチ完掘状況（北から）



写真19 00603調査2トレンチ完掘状況（南から）

調査の種別 本格調査
調査担当 三吉秀充・田崎博之
依頼文書 教育学部附属中学校長発事務連絡
(平成18年7月4日付)

1 調査にいたる経緯

教育学部附属中学校校舎の改築工事については、2006年4月に試掘調査（調査番号:00601）を実施し、調査結果を施設基盤部に報告し、できるだけ埋蔵文化財に影響がおよばないように協議を重ねてきた。しかし、校舎改築に伴って南側にオープン廊下を拡張することとなり、この工事については掘削深度が深いため、2地点で工事範囲の全面を本格調査することとなった。2地点のうち西側の調査区をI区、東側の調査区をII区とした。I区の調査面積は230m²、II区は62m²を測る（図3・6）。

2 調査の記録

調査は、8月23日にI区の調査に着手したが、重機で表土層を除去した後、校舎解体に伴う工事の進捗状況の遅れから、8月末まで発掘調査を一時中断した。9月1日に調査を再開し、9月29日に調査を終了した。

調査では、任意の基準点を設定し、5mグリッドを組み、測量・遺物の取り上げを行った。調査期間内に任意の基準点に対して平面直角座標系第IV系による基準点測量を行い、今後周辺地域における調査に対応できるようにした。なお、調査で作成した遺構図に関しては、任意の基準点から平面直角座標系へ対応させていた。遺物に関しては、任意の基準点に基づいた取り上げ単位を踏襲しており、平面直角座標系の基準点による区割りとは対応していない。

今回の調査では、試掘調査の予想通り、近世段階の水田層4層ならびに水田に付設された溝などが出土した。

（1）基本層序

持田団地では、00601調査の結果を踏まえ、既往の調査成果と団地東側で実施された松山環状線（岩崎）道路建設に伴う発掘調査の成果をあわせて、持田団地全域の基本層序を設定している。

I層：表土・造成土層

II層：水田・畠に利用された耕作土層と母材土壌の自然堆積層（洪水層）から構成される土層群

III層：石手川の埋没中州である砂礫層

今回の調査は、00601調査3・4トレンチと重複し、基本層序I～III層を確認できた。

（2）I区の調査

1) II-1（上層水田）層

II-1層は調査区全面にわたって分布する。II-1層は、調査区東部では層厚約20cmを測るもの、南西部では近現代の造成土であるI層によって削平を受け、層厚約7cmにとどまる。II-1層は、II-1-①（耕作土）層とII-1-②（床土）層とからなる。上述のようにII-1-①層は大幅な削平を受けており、水田耕作土層でも下部にあたるものと考えられる。調査では、水田層の時期比定を目的として、上部層からの掘り込みの有無に注意しながら、慎重に掘り下げを行った。その結果、出土遺物には、近代の陶磁器片が混じっていることから、II-1層は近代まで下る可能性が高い。

2) II-2-②層・II-3-②層上面検出構造（中層水田）

II-1層を掘り下げ後、II-2層上面の精査ならびに土層断面における精査を行った結果、II-2層上面は、ほぼ水平堆積をし、小さな凹凸があるものの、上部層からの削平によって水田の畦畔はすでに削平されていることが明らかになった。そこで、調査区全面にわたって展開するII-2-②層、すなわち水田床土層上面まで掘り下げを行い、犁痕等の耕作痕跡の検出を試みた。しかし、調査区西壁土層ラインより西部では、II-2層の下部に展開するII-3層内の水田床土層、すなわちII-3-②層上面まで掘り下げを行ってしまった。これは調査最終段階の土層断面図作成時に気づいたものである。よって、調査段階に作成した図面並びに写真はII-2-②層上面検出構造とII-3-②層上面検出構造とが混在することになってしまった。調査区土層断面図の所見から、平面直角座標系Y=-66132ラインより東の調査区東部では、II-2-②層上面検出構造、すなわち中層上部水田しか存在しておらず、検出した犁痕はII-2-②層上面検出構造（中層上部水田）に伴うものである。一方、平面直角座標系Y=-66132より西で検出した犁痕は、II-3-②層上面検出構造、すなわち中層下部水田に伴う可能性が高い。

II-2-②（耕作土）層は、径1cm大の角礫を含む砂礫混じりのオリーブ灰色土である。部分的にマンガンの沈着層が見られる。水田の畦畔が残存していないことを確認した後、耕作土層を手掘りで掘り下げ、床土

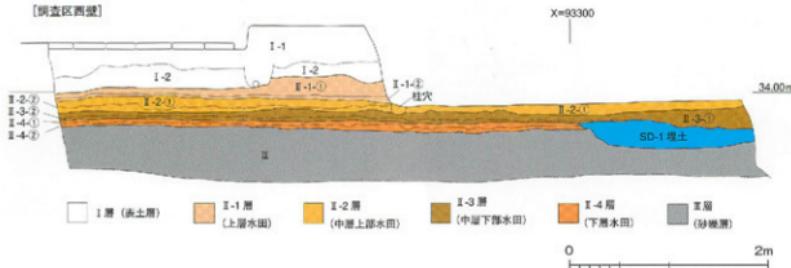


図11 00604調査I区西壁土層断面図（縮尺1/50）

層上面で遺構精査を行ったところ、調査区全面で犁痕が出土した。

犁痕は、南北方向を主軸とする犁痕と東西方向を主軸とする犁痕が出土した。東西方向を主軸とする犁痕は、調査区全面で確認できた。一方、南北方向を主軸とする犁痕は、調査区西侧ではほとんど見られない。このことから、南北方向を主軸とする犁痕の有無は、水田の区画に対応している可能性もある。しかし、前述のように、犁痕は同一面での検出ではない。さらに、南北方向を主軸とする犁痕が少なくなるのが、平面直角座標系Y = -66132付近であり、ちょうど遺構検査時の不整合ラインにあたる。II-2-②層上面検出水田（中層上部水田）では、犁痕は南北方向・東西方向を主軸とし、II-3-②層上面検出水田（中層下部水田）では、犁痕は東西方向を主軸としていたと考えておく。

犁痕を詳しく見ると、切り合い関係から南北方向を主軸とする犁痕が古く、東西方向を主軸とする犁痕が新しい。南北方向を主軸とする犁痕は、東西方向を主軸とする犁痕に比べてやや浅い。犁痕は、全長0.4m～9m強、幅は10～15cmを測る。断面はU字状を呈し、深さは6～13cm程度である。犁痕の埋土は、オリーブ黄色シルト質土で、径1～2mmの砂粒や炭化物の小片を多く含んでいる。

以上、水田に伴う畦畔や溝は確認できなかったものの、東西方向および南北方向を主軸とする犁痕から、現在の東西南北方向とほぼ同じ方向軸で水田が区画されていたと考えられる。

主な出土遺物には、調査区中央部の床土層から近接して銅鏡が2枚出土しており、1枚は無背の洪武通宝である。

3) II-4-②層上面検出遺構（下層水田）

II-4-①層上面で遺構検出を試みたが、上部層における水田耕作に伴う削平を受けており、畦畔などは確認できなかった。そこで、床土層上面に掘り込まれた犁痕の検出を目的として、層厚3～14cmを測るII-4-①層（下層水田耕作土層）を掘り下げ、II-4-②層上面で、犁痕、溝（SD-1）、人の足跡を検出できた。

犁痕は、東西方向を主軸とするものと南北方向を主軸とするものが確認できた。大半は東西方向を主軸とし、南北方向を主軸とする犁痕は、調査区中央部で散見される程度である。犁痕の方向から、現在の東西南北とほぼ同じ方向で水田が区画されていたと考えられる。

犁痕は、全長0.4～2.9m、断面U字状を呈し、深さ1～3cmを測る。犁跡の幅には、20cm前後の広いものと10cm前後の狭いものとの2種類が見られ、広いものは相対的に浅い。埋土は水田耕作土であるII-4-①層と同じオリーブ灰色砂質シルト質土である。

調査区北側で、東西方向に走る溝（SD-1）が出土した。調査区内で検出した東西の総延長は23.2mに及ぶ。後述のII区の調査区東壁でもSD-1を確認しており、総延長は50m以上となる。溝の北半分は、附属中学校校舎建設時の掘り返しによってすでに破壊されており、溝幅については不明である。II-4-①層掘り下げ段階では確認できなかったが、調査区中央土層観察用畦の精査中に、SD-1が当初素掘りの溝として開削され、その後溝が埋没し、再度掘り返され、石積みの溝が築かれていることを確認した。

改修前のSD-1は、検出幅約1.8m、深さ約25cmを測り、改修後の溝より一回り大きい。まず、ラミナが



写真20 00604調査 I 区の表土層除去作業



写真21 00604調査 I 区南壁土層



写真22 00604調査 I 区中層水田床土層上面での犁跡検出状況



写真23 00604調査 I 区中層水田床土層上面で出土した犁跡



写真24 00604調査 I 区下層水田面の SD- 1 と犁跡
(西から)



写真25 00604調査 I 区 SD- 1 の土層断面

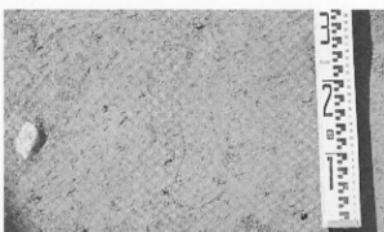
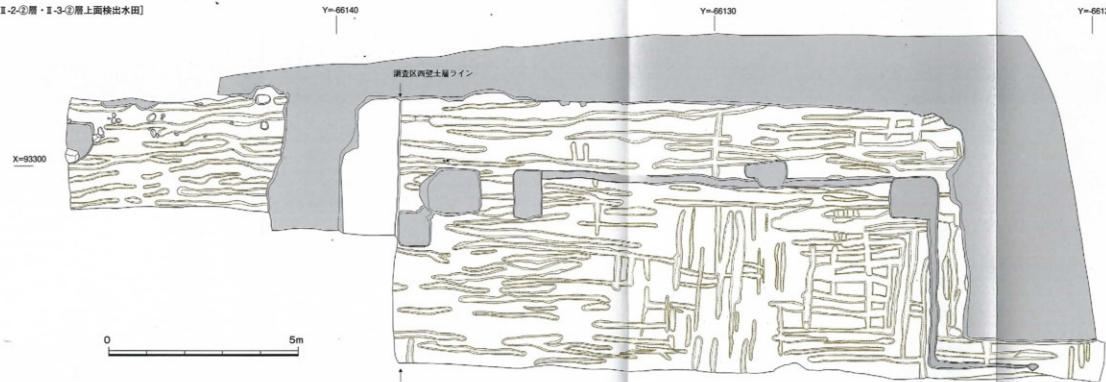
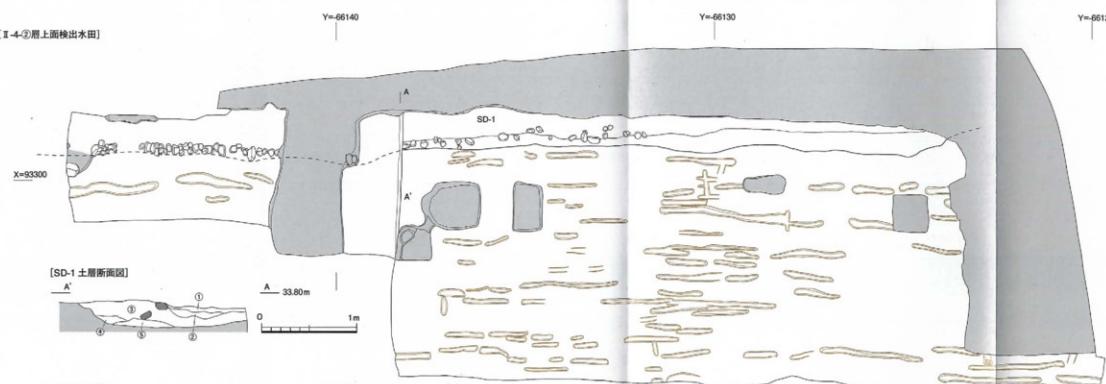


写真26 00604調査 I 区下層水田層の床土層上面で出土した足跡

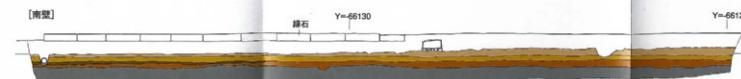
[II-2-②層・II-3-②層上面検出水田]



[II-4-②層上面検出水田]



[西部南望]



■	I層 (表土層)
■	II-1層 (上層水田)
■	II-2層 (中層上部水田)
■	II-3層 (中層下部水田)
■	II-4層 (下層水田)
■	II-5層 (下部分離層)

図12 00604調査I区実測図 (縮尺 1/100, 1/40)

発達したオリーブ灰色細砂層である⑤層が溝底に部分的に堆積する。この時点で流水は弱まり、明黄褐色砂質シルトである④層が堆積する。色調は、隣接する水田床土層の浸透に起因すると考えられる。さらに流水が弱くなり、径1mm以下の小礫が点々と混じるオリーブ灰色砂質シルトである③層が堆積し、溝は完全に埋没してしまい、溝としての機能が停止する。その後、溝の埋土を掘り返し、溝が再度構築される。

改修後のSD-1も、北側は攪乱によって欠損する。検出最大幅で1.1m、深さ13cmの溝である。北側は欠損のため不明だが、溝の南縁に沿って1辺30cm未溝前後の花崗岩や砂岩の円礫を用いた石列が設けられる。まず、1辺20~30cmの比較的大きな石を等間隔に並べ、それらの石の隙間に1辺10~15cmの小型の円礫

を充填し、石列が作られている。溝埋土には部分的にしかラミナが形成されておらず、溝の流れは間欠的だったと推定される。そのため、水流が弱くなり、ラミナが少量見られるオリーブ灰色砂質土である②層が溝の端に堆積した後、さらに小礫を多く含んだオリーブ灰色砂質シルトである①層が堆積し、完全に溝としての機能が停止する。調査区西部における溝底レベルは約33.538m、調査区東部における溝底レベルでは約33.568mを測り、東側が約3cm高くなる。よって東から西へ水が流れていったと考えられる。

調査区南東部で人の足跡が出土した。長さは23cmを測り、形状から右足と考えられる。

4) Ⅲ層（砂礫層）

下層水田床土層除去後、調査区南壁ならびに調査区



図13 00604調柾Ⅱ区実測図（縮尺1/100）



写真27 00604調査Ⅱ区表土層除去状況（東から）



写真28 00604調査Ⅱ区南壁土層（北東から）



写真29 00604調査Ⅱ区完掘状況（北から）

中央土層観察畦に沿って、L字形に幅1mの深掘り調査区を設定し、水田層下部に広がる自然河川に伴う堆積層(砂礫層)を部分的に掘り下げた。現地表下から1.3m地点まで掘り下げたものの、出土遺物はない。以下、自然河川の堆積層が続くものと考えられる。

(3) Ⅱ区の調査

I区から東へ約60m離れた地点にⅡ区を設けた。Ⅱ区は、調査区下端で南北約5m、東西約11mの長方形の調査区である。調査区南東部を除く調査区内の約3/4は、貯水槽設置などに伴う搅乱が水田下部の砂礫層にまで及んでおり、以下の調査は行わなかった。大規模な搅乱を免れた調査区南東部も管路設置に伴う掘り返しによって、遺跡が破壊されている。調査区南壁にそったわずかな範囲で、水田層を確認したにとどまる。南壁ではI区で確認されたⅡ-1層(上層水田)・Ⅱ-2層(中層水田)・Ⅱ-4層(下層水田)の3層の水田層が確認できた。I区で確認したⅡ-3層に対応する層は見られなかった。遺物はⅡ-4-①層中から土師器・須恵器片が少量出土している。

3 調査のまとめ

これまでの試掘調査・立会調査の成果から、持田団地構内遺跡には、中世～近世の水田が展開していることが知られていた。しかし、小規模調査しか行われておらず、水田の実態は不明であった。今回の調査では、遺構ならびに出土状況の明確な遺物が出土したことにより、水田の具体相を明らかにすることができた。

まず、水田に伴う用水路や犁痕が出土したことから、中層・下層水田とともに水田区画の方向が現在の東西南北方向とはほぼ同じであることが明らかになった。

水田の時期に関しては、試掘調査では近世以前の可能性を考えていたが、今回の調査で出土した遺物の検討から、江戸時代に位置づけられることが明らかになった。

水田層の下部に展開する自然河川は、出土遺物がいため、時期の特定はできない。しかし、水田層中から出土した遺物には、中世以前のものがほとんど見られないことから、現段階では、自然河川堆積作用が弱まった中世段階以降に、水田開発が始まったと推定される。

(三吉)

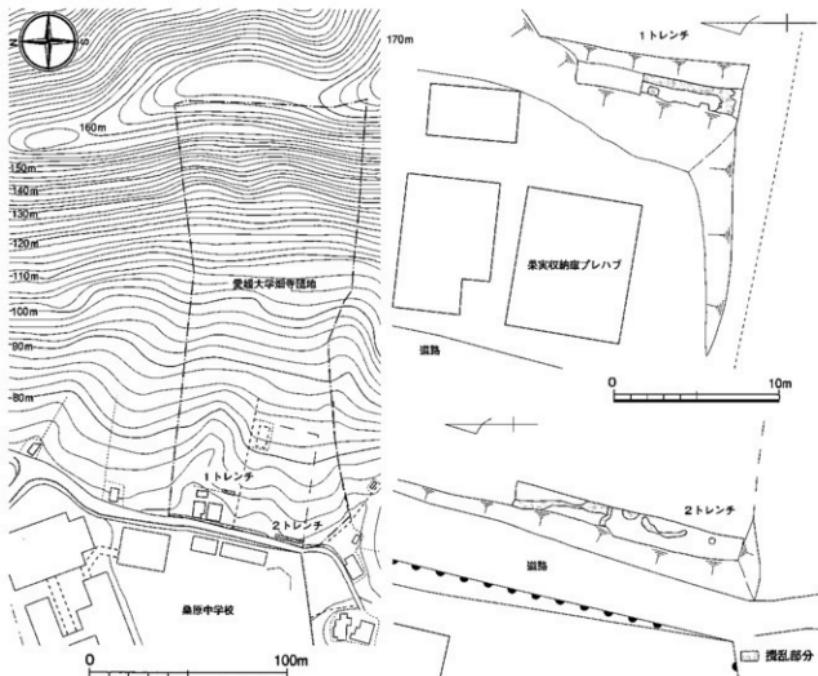


図14 00605調査地点配置および1・2トレンチ実測図（縮尺1/2,500、1/300）

00605（畠寺団地）農学部附属農業高等学校果実収納庫新営工事に伴う調査

調査地点 松山市畠寺町丙47番2号

愛媛大学畠寺団地

調査面積 35m²

調査期間 2006年9月29日

調査の種別 試掘調査

調査担当 田崎博之・三吉秀充

依頼文書 施設基盤部施設整備課長発事務連絡
(平成18年9月27日付)

1 調査にいたる経緯

2006年4月、施設基盤部から、畠寺団地に所在する附属農業高等学校の果実収納庫新営工事に伴い、敷地

内斜面の削り取りを行いたいとの旨、報告があった。これまで畠寺団地では調査が行われておらず、埋蔵文化財の状況は不明だったことから、4月21日、附属農業高等学校と施設基盤部の担当者とともに現地に赴き現状を確認した。その結果、畠寺団地は埋蔵文化財包蔵地でないものの、団地北西側に竹ヶ谷遺跡が位置することを確認できた。竹ヶ谷遺跡は、1983年、松山市立桑原中学校建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代の貯蔵穴や古墳時代中・後期の古墳群が発見されている。隣接する畠寺団地内にも、遺跡が存在することが推定されたため、試掘調査を実施するとともに、今後の団地内における工事へ対応するため確認調査（調



写真30 00605調査1 トレンチ遠景（西から）



写真31 00605調査1 トレンチ完掘状況（南から）



写真32 00605調査1 トレンチ北端部の完掘状況
(南から)



写真33 00605調査1 トレンチ北端の掘乱場
(東から)



写真34 00605調査2 トレンチ遠景（北から）



写真36 00605調査2 トレンチ完掘状況（北から）



写真35 00605調査2 トレンチ遠景（南から）

査番号：00606）を実施することとした。

2 調査の記録

附庸農業高等学校の果実収納庫新築工事では、団地北西角にある旧果実収納庫の東側の崖面の切り取りとともに、団地南西角部では道路の幅員を拡張する必要が生じた。果実収納庫の東側の崖面の切り取り部に1トレンチ、団地南西角部の道路幅員の拡張部に2トレンチを設定した（図14）。なお、本調査で用いるレベルは、松山市作成の都市計画図に表示された桑原中学校校庭内の標高地を利用してしている。

【1トレンチ】（図14、写真30～33）

1トレンチは、旧果実収納庫の東側の崖の上面に、長さ6.1m×幅1.3～2.4mの台形状に設定した。現地表下約9cmまで重機によって掘り下げたところ、和泉砂

岩の風化岩盤層である明黄褐色砂質土層があらわれた。その上面で精査を行ったが、トレンチ北端付近で、径50～60cmの長楕円形状に広がる炭化物の集積を確認できた。しかし、ガラス小片などが出土したため掘削と判断した。その他に、遺構・遺物は出土していない。

【2トレンチ】（図14、写真34～36）

2トレンチは、1トレンチから南西へ30m離れた地点に位置する。1トレンチ同様、東から西へのびる丘陵尾根線に対して直交する方向に、長さ14m、幅1.4～1.7mのトレンチを設けた。現地表下約15cmまで、重機によって掘り下げを行ったところ、1トレンチと同じく、浅黃砂質土の丸いブロックが混じった和泉砂岩の風化岩盤層である明黄褐色砂質土層があらわれた。この上面を精査したが、樹木根跡などしか検出できず、遺物も出土していない。（三吉）

00606（畠寺団地）2006年度確認調査

調査地點 松山市畠寺町丙47番2号

愛媛大学畠寺団地

調査面積 2.750m²

調査期間 2006年9月29日

調査の種別 確認調査

調査担当 田崎博之・三吉秀光

00605調査として試掘調査を実施した畠寺団地から北西方向にのびる尾根線上には、竹ヶ谷遺跡が位置する。前述したように、竹ヶ谷遺跡は、1983年に発掘調査が行われ、弥生時代の貯蔵穴や古墳時代中・後期の古墳群が発見されている。隣接する畠寺団地内にも遺跡が存在する可能性を考え、00605調査終了後に、

2006年度の境内遺跡確認調査として、畠寺団地の地表面調査を行うこととした。

畠寺団地は、現在、団地東半部は雑木林、西半部は段々畑状に地形を削平し、果樹園として利用されている。そこで、段々畑状に削平された団地西半部を対象として、表面地形の観察、遺物の表面採集を中心とした地表調査を実施した。しかし、段々畑の造成に伴って、旧地形の大半は削平され、採集された遺物は近世の陶磁器片だけである（写真37・38）。ただし、団地北西端の果実収納庫北側には、小さな高まりが見られることから、古墳などの可能性も残されている。今後、工事を行う際には、立会調査などの対応が必要である。（三吉・田崎）

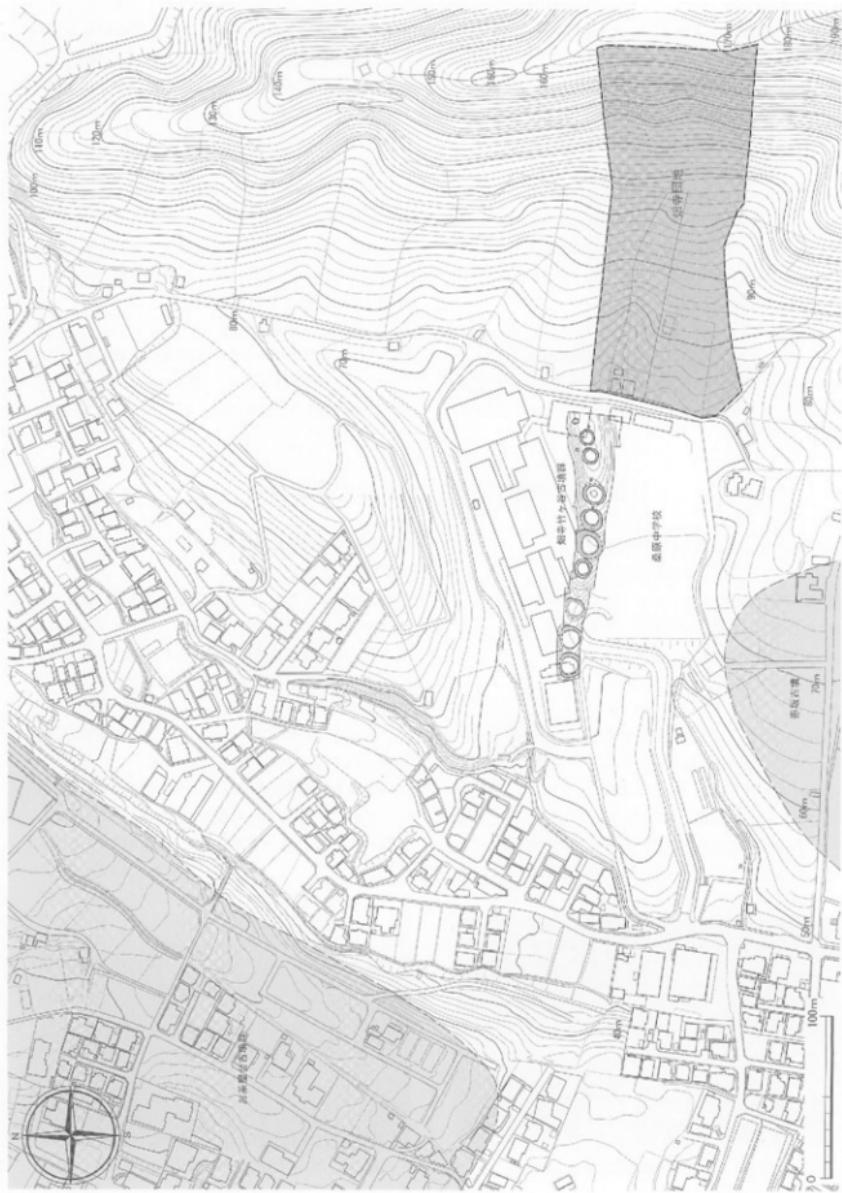


写真37 00606調査畠寺団地全景（西から）



写真38 00606調査畠寺団地頂部から西を望む

図15 煙寺国地周辺地形および墓跡分布（縮尺1/3,000）



00607 (重信団地) 医学部及び附属病院敷地内の電柱建て替え工事に伴う調査

調査地点 東温市志津川
 愛媛大学重信団地
 調査面積 18m²
 調査期間 2006年11月9日～11月10日
 調査の種別 立会調査
 調査担当 田崎博之・三吉秀充
 依頼文書 財務部長発事務連絡
 (平成18年7月3日付)

1 調査にいたる経緯

平成18年6月、医学部および附属病院敷地内における電柱建て替え工事計画が、財務部から報告・説明された。周辺における既往の調査結果から、重信団地北西部の6ヶ所および団地東部の駐車場南端の1ヶ所の電柱建て替えに關しては、埋蔵文化財への影響が考えられることから、立会調査を実施することとした。

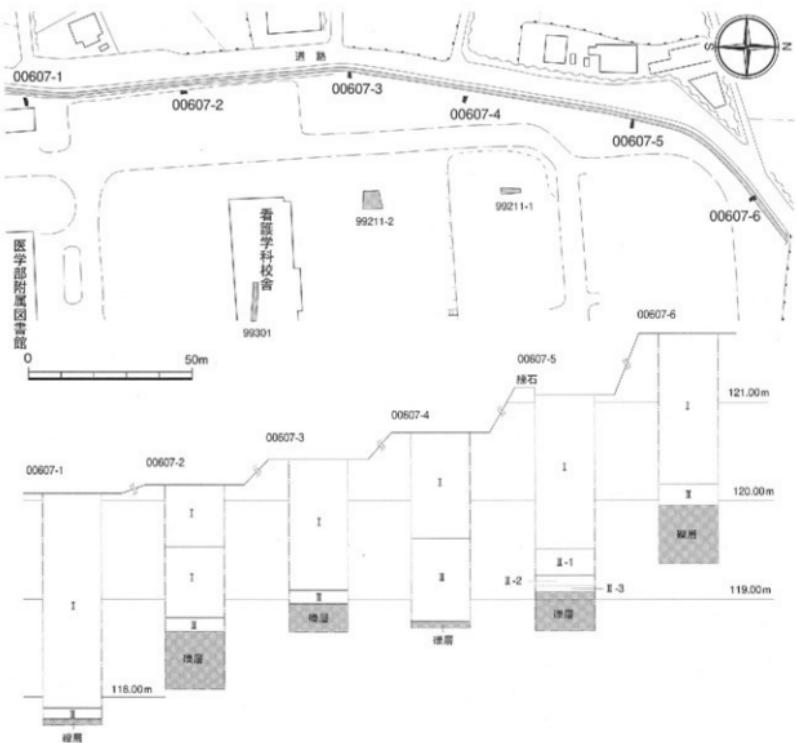


図16 00607調査1～6 トレンチ配置および土層柱状図（縮尺1/1,500、1/50）



図17 00607調査7 トレンチ配置および土層柱状図（縮尺 1/1,500、1/50）

2 調査の記録

重信団地西部の6ヶ所の電柱建て替えを南から北に向けて順に1～6トレンチとし、団地東側の駐車場南端の電柱建て替え地点を7トレンチとして調査を進めた（図5）。

【1トレンチ】（図16、写真39・40）

1トレンチは重信団地内西部の薬品庫の西側に位置する。現地表下約2mまで造成土がつづく。I層の下層には、暗オリーブ色できめの細かいシルト質土のII層が20cmほどの厚さで堆積する。水田層と考えられる。II層の下層では砂礫層があらわれ、現地表下2.2mの地点までつづく。遺物は出土していない。

【2トレンチ】（図16、写真41・42）

2トレンチは、看護学科校舎の西約35m、1トレンチから北へ50mの地点に位置する。現地表下約1.35mまで造成土であるI層が続き、その下層で暗オリーブ色シルト質土のII層があらわれた。水田層である。II層直下では、径5～20cmの大円礫混じりの灰白色砂礫層が、現地表下約2.1mまでつづく。

【3トレンチ】（図16、写真43・44）

3トレンチは、2トレンチから北へ50m離れた地点に位置する。現地表下1.32mまで造成土が続き、直下で径1mm大の砂礫が少量混じる灰白色シルト質土のII層があらわれた。厚さは14cmほどを測る。II層は、部分的に鉄分が沈着して赤みをおび、水田層と考えた。II層の下層には、径2～10cmの大円礫層が出土した。円礫層を現地表下1.75mまで掘り下げたが、遺構・遺物は出土しなかった。

【4トレンチ】（図16、写真45・46）

4トレンチは、3トレンチから北東へ35mの地点に位置する。現地表下1.08mまで造成土のI層がつづき、その下層で径1mm～径3cmの円礫が混じる灰白色シルト質土のII層があらわれた。II層は、下半部に鉄分が沈着して全体に赤みをおびており、水田層と考えられる。層厚は約65cmを測る。下半部は円礫が多くなる。II層からは、土師器塊あるいは皿の口縁部縁片が1点出土している。しかし、細片のため時期は明らかでない。II層の下層は、現地表下1.91cmまで径1～3cm大



写真39 00607調査1 トレンチ遠景（南西から）

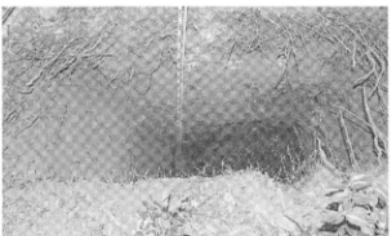


写真40 00607調査1 トレンチ北壁土層



写真41 00607調査2 トレンチ遠景（南東から）



写真42 00607調査2 トレンチ西壁土層



写真43 00607調査3 トレンチ遠景（北から）

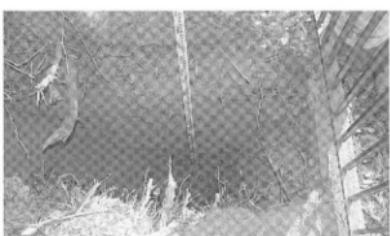


写真44 00607調査3 トレンチ南壁土層



写真45 00607調査4 トレンチ遠景（南から）

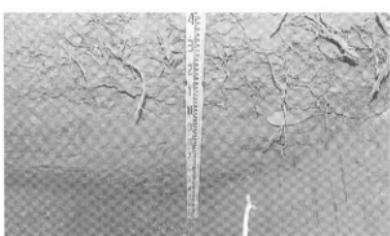


写真46 00607調査4 トレンチ南壁土層



写真47 00607調査5 トレンチ遠景 (南東から)

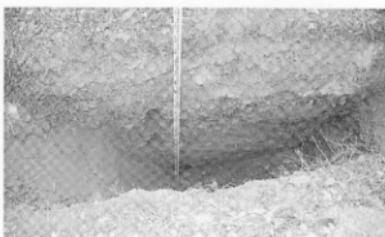


写真48 00607調査5 トレンチ北壁土層



写真49 00607調査6 トレンチ遠景 (東から)



写真50 00607調査6 トレンチ北壁土層



写真51 00607調査7 トレンチ遠景 (西から)



写真52 00607調査7 トレンチ西壁土層

の円碟層がつづく。

【5トレンチ】(図16、写真47・48)

5トレンチは、4トレンチから北東へ50mの地点に位置する。現地表下157mまで造成土のI層がつづき、その直下で灰黄色シルト質土のII層があらわれた。上質の特徴から水田層と判断したが、II-1～II-3層に分層できる。II-1層は、約27cmの厚さを測り、上半部は灰黄色シルト質土で、径2～3mmの砂礫が少量混じる。下半部は鉄分が沈着して赤みをおびた浅黄色シルト質土である。上半部は水田耕作土層、下半部は

床土層である。II-2層は、約10cmの厚さを測る。上半部は、灰黄色シルト質土で、径1～2mmの砂粒や径1cm大の円碟が少量混じる水田耕作土層。下半部は浅黄色シルト質土の床土層である。II-3層は、径1～3mmの砂礫が混じる上半部が灰黄色シルト質土の水田耕作土層で、下半部は浅黄色シルト質土で床土層である。層厚は約7cm。II層の下層は、現地表下2.08mまで砂礫層がつづく。砂礫層の上部は灰黄色砂層、下部は径3cm大の角碟が混じる灰黄色砂層である。

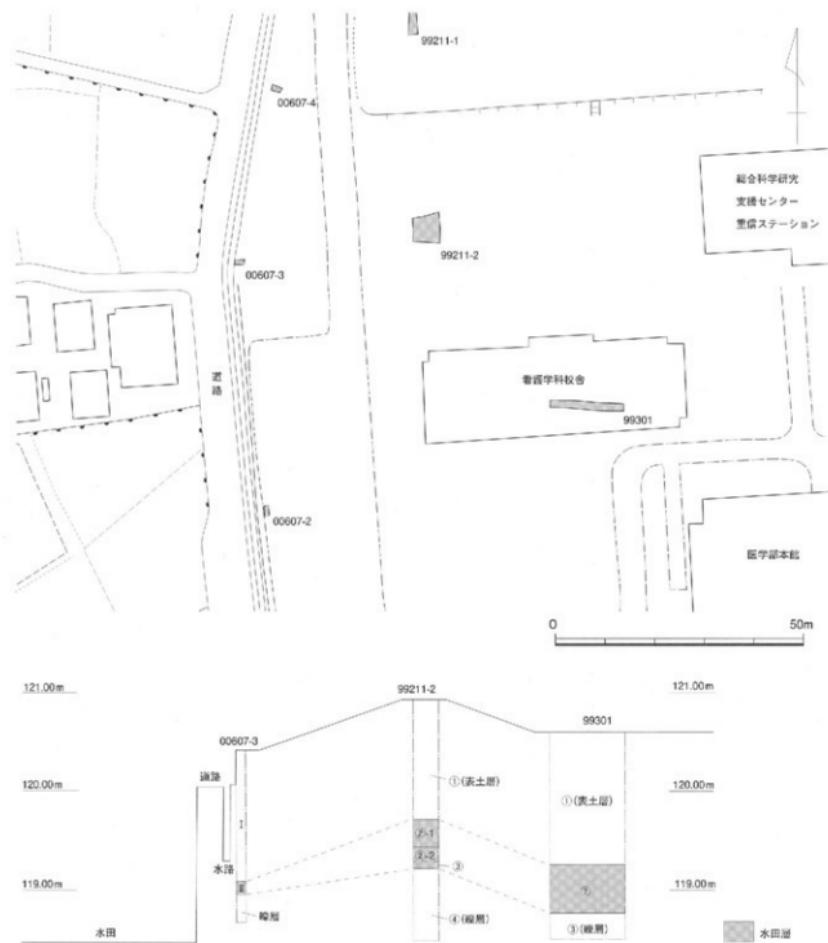


図18 99211・99301・00607調査区地形断面図（縮尺 1/1,000、1/50）

【6トレンチ】（図16、写真49・50）

6トレンチは、重信団地北西部にあたり、5トレンチから北東へ40m離れた地点に位置する。現地表下1.53mまで造成土のI層がつづき、その下層で灰白色～浅黄色のシルト質土であるII層があらわれた。II層

の層厚は約22cmの堆積で、上半部は径3cm大の円礫が混じる灰白色シルト質土、下半部は浅黄色シルト質土で、径3cm前後の円礫が混じる。上半部は水田耕作土層、下半部は床土層である。II層下は現地表下2.33mまで径2～10cm前後の円礫からなる円礫層がつづく。

円礫の隙間にはオリーブ黄色砂が混じる。

[7トレンチ] (図17、写真51・52)

7トレンチは、重信団地東部の駐車場南東端に位置する。現地表下0.95mまで造成土のⅠ層がつづき、その直下で径2~10cmの円礫が混じる灰白色シルト質土のⅡ層があらわれた。Ⅱ層は約45cmの厚さで、鉄分・マンガンの沈着層が縞状にみられる。複数の時期の水田層からなるものと考えられる。Ⅱ層の下層では、現地表下2.18mまで、径5~10cmの円礫層がつづく。円礫の隙間にはオリーブ黄(5Y6/3)色砂層が挟まる。

3 調査のまとめ

各トレンチとともに、造成土のⅠ層下で水田層であるⅡ層、さらに下層で円礫・砂礫から構成される疊層や砂疊層を確認できた。最下層の疊層や砂疊層は重信川の旧河川堆積物である。問題はⅡ層の水田層の時期で

ある。今回確認できたⅡ層に対応する水田層は、これまでの小規模調査でも存在が確認されている。しかし、水田層から出土した遺物はほとんどなく、その時期は不明のままであった。今回の7ヶ所のトレンチ調査でも、4トレンチの水田層中から出土した土師器細片のみである。そこで、この水田層の時期を検討するために、今回調査の3トレンチ、1992年度に実施した9921・99301調査の成果に基づいて地形断面を作成した(図18)。今回調査の3トレンチのⅡ層は、9921・99301調査2トレンチでは②層にある。西側にある現在の水田面と比較すると、50~80cm前後高い位置にある。こうした水田面の高低差と、今回の4トレンチのⅡ層中から土師器細片が出土していることを考えれば、重信団地北西部で見られる旧水田層は、医学部・附属病院建設直前、近・現代まで使用されていた水田の可能性が高い。

(三吉)

00608 (樽味団地) 総合研究棟改修工事に伴う調査 (樽味遺跡8次調査)

調査地点 松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地

調査面積 42m²

調査期間 2006年12月4日~1月26日

調査の種別 本格調査

調査担当 田崎博之・三吉秀充

依頼文書 施設基盤部施設整備課長発事務連絡

(平成18年7月7日付)

1 調査にいたる経緯

2006年6月、施設基盤部から、樽味団地における総合研究棟改修工事計画について報告があり、埋蔵文化財調査室では既往の調査成果を検討し、以下の申し入れを行った。

- ①耐震補強の地中梁補強工事については、掘削範囲を建物建設時の余掘り内に収めること
- ②耐震補強工事に伴う樹木伐採は地表下30cmまでの掘削にとどめること
- ③避雷針改修工事に伴う接地局の埋設箇所は、建物建設時の余掘り範囲に収めること
- ④実験排水管改修に伴う検水槽の設置および排水管更生工事では、検水槽の設置位置を建物建設時の

余掘り範囲にできるだけ収め、排水管更生も既設管路内に収めること

これを受けて、11月中旬に、施設基盤部から具体的な工事計画が報告されるとともに、耐震補強の地中梁補強工事の掘削範囲を建物建設時の余掘り内に収めるため、その範囲を確認する発掘調査が必要なこと、どうしても余掘り内に収まらない検水槽の設置地点があることが説明された。そこで、計画の協議・調整を進め、12月上旬に建物建設時の余掘り範囲を確認し、1月中旬に検水槽の設置地点を発掘調査することとした。

2 調査の記録

今回の調査地点は、農学部本館東側での建物建設時の余掘り範囲確認のために設定した1・2区と、検水槽の設置地点の3~5区である。当初計画通り、1・2区は12月中旬、3~5区は年明けの1月に着手した(図9)。

(1) 基本層序と出土遺構の概要

樽味団地では、既往の調査成果に基づき、遺跡全体にわたる基本層序を上位からⅠ~Ⅴ層に区分している。

- I層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。
 II層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。
 III層：遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層。
 IV層：黄褐色系のシルト層で、下部には礫が混じる。
 V層：IV層下の花崗岩を主体とする砂礫層ないし礫層。

今回の調査では、後述するように1区ではIII層の2次堆積層を確認できたが、以外の調査区ではII層は削平されていた。また、調査区が狭いため、深掘りができず、V層は確認していない。

3・4区では、IV層上面で土壠、溝、柱穴、杭穴、その他の小穴が出土した（表5）。埋土が黒褐色シルト質土を主体とする遺構と、灰色みをおびる暗褐色シルト質土を埋土とする遺構の2者がある。これまでの樽味遺跡での調査成果から、埋土が黒褐色シルト質土を主体とする遺構は弥生時代～古墳時代、灰色みをおびる暗褐色シルト質土を埋土とする遺構は古代後半～中世と考えられる。出土した遺構には、1～43の連番の遺構番号を付し、遺構の種別を示す遺構略号を冠している。

（2）1区の調査

1区は、農学部本館南北棟の余掘り範囲を確認するために、建物の東側に設定した。建物沿いに設定した調査区では、建物壁から2.6mまで建物建設時の余掘りがおよんでいることを確認できた。その一方で、調査区の東壁沿いでは樽味団地における基本層序のII～IV層を確認できた。時間的余裕もあったので、III層の精査とIV層上面での遺構検出を行った（図19、写真53・54）。

1区では、現地表下70cmで、樽味団地造成以前の水田層であるII層があらわれた。II層は、径1mm前後の礫が少量混じるシルト質土で、上半部は灰色、下半部はマンガンが沈着してオリーブ黄色を呈する。上半部は水田耕作土層、下半部は床土層にあたる。II層の直下では、灰黄色のシルト質土層があらわれた。土質の特徴は、樽味団地の基本層序III層と共通する。人力で精査したが土師器の碎片が数点出土したのみである。灰黄色となっているのは、上層のII層

の影響を受けているためと、中世段階に掘り返しがあつたためと考えた。III層の下層は浅黄色シルト質土層で、樽味団地の基本層序IV層に対応する。

（3）2区の調査

2区は、農学部本館東西棟の余掘り範囲を確認するために、建物南側の壁面から2m離れた位置に設定した。しかし、現地表下1.27mまで掘り下げたが、客土された真砂土層がつづく。調査範囲内は余掘り範囲に収まっていると判断した（写真53・55）。

（4）3区の調査

3区は、農学部本館東西棟の北側に設置される検水槽部分にあたる。東西長4.4m、南北幅3.3mの調査区である。造成土である表土層のI層を掘り下げると、

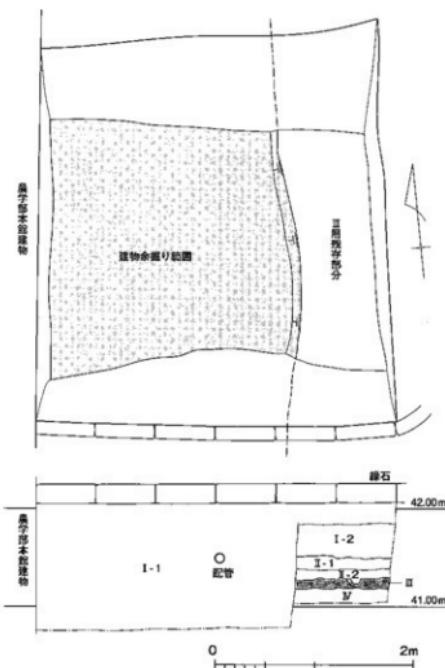


図19 00608（樽味遺跡8次）調査1区実測図（縮尺1/50）



写真53 00608調査1・2区遠景（北東から）



写真54 00608調査1区全景（南から）



写真55 00608調査2区全景（北から）



写真56 00608調査3・4区遠景（北東から）



写真57 00608調査3区遺構検出状況（西から）



写真58 00608調査3区完掘状況（西から）



写真59 00608調査4区遺構検出状況（西から）



写真60 00608調査4区完掘状況（東から）

表5 00608(樽味遺跡8次) 調査出土遺構一覧

調査区	土 壤	溝	柱穴・杭穴	その他の遺構
1区			出土遺構なし	
2区			出土遺構なし	
3区	1 (SK-1)	1 (SD-2)	7 (SP-5・7・8・10~13)	小穴15 (SP-3・4・6・9・14~20・40~43)
4区	-	-	13 (SP-22・23・25~28・30・31~34・36・38・39)	小穴4 (SP-21・24・29・37) 性格不明の遺構1 (SX-32)
5区			出土遺構なし	

樽味団地造成以前の水田層であるⅡ層、さらに現地表下60cmほどでⅣ層があらわれた。3区では基本層序Ⅲ層はみられない(図20、写真56~58)。

Ⅱ層は、上半部の径1~2mmの粗砂や礫が多く混じる灰色シルト質土であるⅡ-1層、下半部の明黄褐色シルト質土のⅡ-2層からなる。Ⅱ-1層は水田耕作土層、Ⅱ-2層は灰土層である。

Ⅳ層の上面では、土壤1(SK-1)、溝1(SD-2)、柱穴・杭穴7(SP-5・7・8・10~13)、その他の小穴15(SP-3・4・6・9・14~20・40~43)を検出した。また、小穴の中で、SP-5・7・8・10~13は、立柱痕跡が伴う柱穴や杭穴である。しかし、これらとともに掘立柱建物や構列を構成する柱穴や杭穴は、調査範囲が狭く確認できなかった。また、3区で出土した遺構の中で、SK-1・SP-15・18・19などの埋土は黒褐色シルト質土を主体とするが、他は灰色をおびる暗褐色シルト質土である。これまでの樽味遺跡での調査成果から、埋土が黒褐色シルト質土を主体とする遺構は弥生時代~古墳時代、灰色をおびる暗褐色シルト質土を埋土とする遺構は古代後半~中世と考えられる。以下、土壤、溝、柱穴・杭穴を報告する。

【土壤】

SK-1 東西幅125mの隅丸長方形の土壌で、調査区の北東部で南半部を検出した。SP-5に切られている。埋土は、砂礫が少量混じる黒色シルト質土を主体とする。サラサラした質感で、クロボク土を母材とするものと考えられる。また、Ⅳ層のにぶい黄褐色シルトの径2~10mmの小塊が多く混じる。調査区の北壁面で埋積状況を確認できた。①層は、黒色シルト質土で、径1~5mmのⅣ層の小塊が多く混じる。②層は、褐灰色~黒色のシルト質土で、径1~3mmのⅣ層の小塊を含むが、①層と比べて小塊は少なめである。③層は、

褐灰色シルト質土を主体としながら、Ⅳ層のレンズ状ブロックが多く挟まる。③層が土壌内に流れ込んだ後、①・②層で人為的に埋め戻されたものと考えられる。

【溝】

SD-2 SK-1の南側で出土した東西にのびる溝である。溝と言っても、長さ90cm、幅14~21cmの短く細い溝状遺構である。SP-6と切り合うが、先後関係は明らかにできなかった。東側は調査区外にのびる。また、調査区壁沿いは擾乱部で破壊されている。埋土は、砂礫まじりの暗褐色シルト質土で、小指先大のにぶい黄褐色シルトの小塊が多く混じる。また、埋土上半には、灰色シルト質土の小塊が点々とみられた。

【柱穴・杭穴】

SP-5 調査区北東角に位置するSK-1に切られる柱穴である。18×22cmの長円形の掘り形をもち、ほぼ中央で径7~8cm、深さ18cmの柱痕跡を確認できた。埋土の①層は柱痕跡で、砂礫混じりの暗褐色シルト質土で、小指先大のにぶい黄褐色シルトの小塊が点々と混じる。②層は掘り形埋土で、砂礫混じりの暗褐色砂質シルト質土で、小指先大のにぶい黄褐色シルトの小塊が混じり、その量は①層より多い。

SP-7 調査区南東部に位置する。南西側を擾乱部で破壊されているが、径33cmほどの円形の柱穴と考えられる。掘り形の中央やや北東よりで径12cm、深さ9cmの柱痕跡を確認できた。埋土は、全体にやや黒みが強く、砂礫が比較的多く混じり、SD-2の埋土に近い土質である。①層は柱痕跡で、暗褐色シルト質土。径1~2mmのにぶい黄褐色シルト塊が点々と混じる。②層は掘り形埋土で、暗褐色シルト質土。親指先大のにぶい黄褐色シルト塊が多く混じる。

SP-8 調査区南東角で出土した16×19cmの長円形の柱穴である。掘り形のほぼ中央で径7~8cm、深さ16cmの柱痕跡を検出した。①層は黒褐色シルト質土の柱痕跡。②層は掘り形埋土で、黒褐色シルト質土に、径1cmほどのにぶい黄褐色シルトが多く混じる。そのため、全体として暗褐色の土色となっている。

SP-10 調査区南東部に位置し、擾乱部の底面で全形を検出できた。短径37cmの不整円形の柱穴である。掘り形の中央西よりで、径17cmの柱痕跡が出土した。埋土の特徴はSD-2と共通する。①層は柱痕跡で、暗褐色シルト質土。径1~2mmのにぶい黄褐色シルトや、灰色シルト質土の小塊が点々と混じる。②層は掘り形埋土。①層と比べて、暗褐色シルト質土や灰色シ

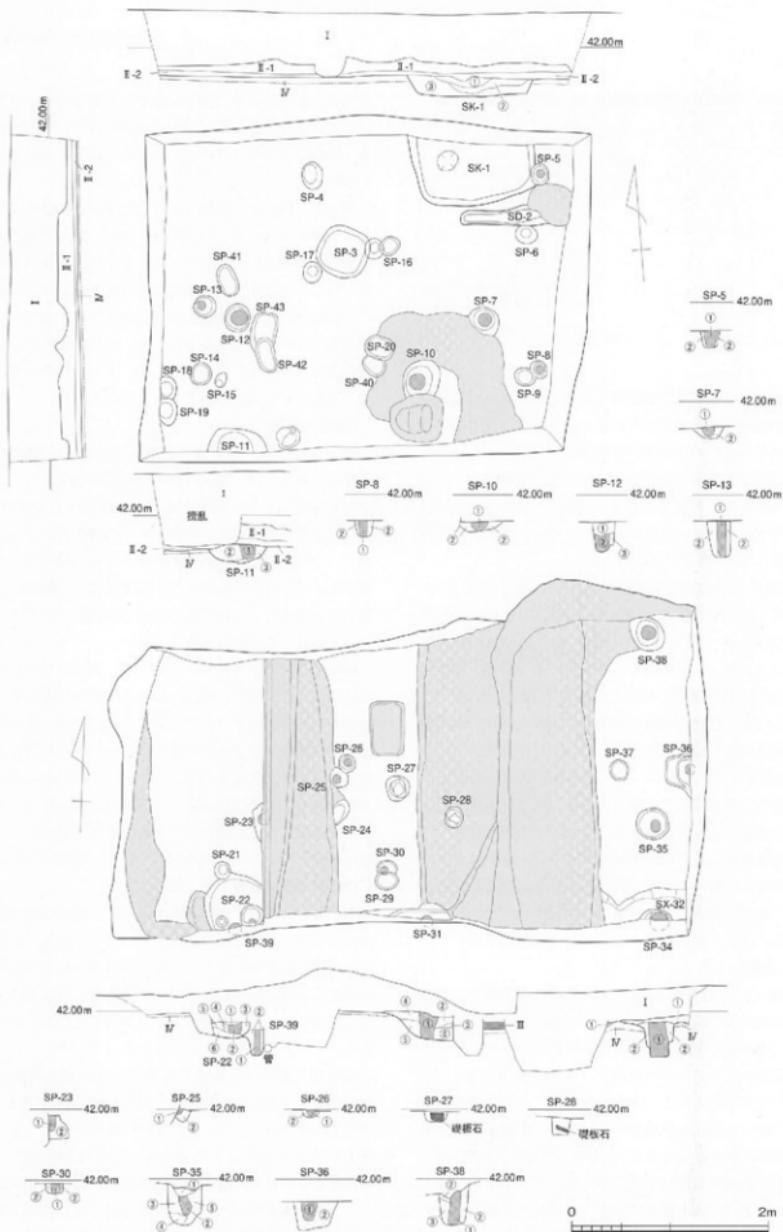


図20 00608(梅味遺跡8次)調査3・4区実測図(縮尺1/50)

ルト質土の小塊の量が格段に多い。

SP-11 調査区南西角の調査区壁際に位置する。平面的には検出できなかったが、土層断面観察で柱痕跡を確認できた。①層は柱痕跡で、砂礫が混じる暗褐色シルト質土。上半部に径1~2mmのにぶい黄褐色シルト質土の小塊が多く混じる。②・③層は掘り形埋土。②層は、暗褐色シルト質土で、径1mm~1cmのにぶい黄褐色シルト質土の塊が混じる。また、下半部を中心として灰色シルト質土の小塊が多く混じる。③層は暗褐色シルト質土。径1mm前後ににぶい黄褐色シルトの塊が少量混じる。

SP-12 調査区西半部に位置する25×28cmの掘り形をもつ柱穴である。中ほどまで掘り下げた時点で、掘り形の東よりで径16cmの柱痕跡を確認できた。①層は、暗褐色シルト質土で、径1~3cm大のにぶい黄褐色シルト質土の塊が非常に多く混じる。柱が抜き取られた後に流入した土層である。②層は柱痕跡。暗褐色シルト質土で、径1cm以下のにぶい黄褐色シルト塊が少量混じる。また、炭化物片が少量出土。③層は掘り形埋土で、暗褐色シルト質土。にぶい黄褐色シルトが縞状に混じる。

SP-13 調査区西半部のSP-12の西側に位置する。径22~23cmの円形の掘り形をもち、掘り形の中央西よりで径8~9cm、深さ36cmの先端が尖り気味の杭痕跡を確認できた。①層は杭痕跡で、微細砂が混じる黒褐色シルト質土である。径2mm大のにぶい黄褐色シルトの小塊が混じる。②層は砂礫混じりの黒褐色シルト質土で、径1~5mm大のにぶい黄褐色シルトの塊が多く混じる。

(5) 4区の調査

4区も、農学部本館東西棟の北側に設置される検水槽部分にあたる。調査に着手した当初は、東西9m、南北7m幅で調査区を設定した。ところが、重機を用いて表土層であるI層を掘り進めたところ、トレーナーの東西で既設の配管路があらわれた。これらの配管路は、検水槽設置に支障となるため、まず東部で出土した散水管の付け替えを行い、調査区を東側へ3m拡張し、検水槽設置面積を確保することとなった。以上のような経緯によって、4区は最終的に東西12m、南北7mの調査範囲となつた(図20、写真59・60)。

道路面下、約26cmまで瓦礫を伴ったI層がつづき、直下でIV層を検出した。IV層上面で、柱穴・杭穴13(SP

-22・23・25~28・30・31・34~36・38・39)、その他の小穴4(SP-21・24・29・37)、性格不明のⅢ層の落ち込みであるSX-32が出土した(ただし、造構番号33は欠番)。調査区が狭いこともあり、出土した柱穴・杭穴と掘立柱建物や槽列を構成すると考えられるものは確認できなかった。また、柱穴・杭穴の埋土は、大きく灰色(SP-21)、灰褐色(SP-24・25・26・27・28・29・35・37)、暗褐色~黒褐色(SP-22・23・30・31・34・36・38)の3者に分類できる。以下、柱穴・杭穴と性格不明の遺構SX-32を報告する。

[柱穴・杭穴]

SP-22 調査区南西部で出土した残存径約60cmの柱穴である。当初、一つの造構と考えて掘り進めたが、調査区南壁精査中に2つの柱穴が重複していることに気がついた。東側をSP-39、西側をSP-22とした。そのため、SP-22として取り上げた遺物には、SP-39の遺物が混じっている。

SP-22は深さ16cmを測る。SP-39を切る。SP-22の埋土は6層からなる。①層は暗褐色シルト質土に明黄褐色土の丸いブロックが混じる。②層は柱痕跡で黒色シルト質土である。柱痕跡の直径は14cmを測る。③~⑥層は掘り形埋土である。③・④層は黒褐色シルト質土を主体とし、明黄褐色砂質土の丸い小塊が少量混じる。⑤層は黒~灰褐色シルト質土を主体とし、明黄褐色砂質土の塊が少量混じる。⑥層は明黄褐色砂質シルト質土を主体として、黒色シルト質土のブロックが少量混じる。土師器片が2点出土している。

SP-23 調査区西部で出土した残存径40cmの柱穴である。柱穴の大半は攪乱分で破壊されている。深さは24cmを測る。埋土は、柱痕跡である①層と、掘り形埋土層である②層からなる。①層は黒褐色シルト質土。②層は黒褐色シルト質土。灰色あるいは明黄褐色の砂質シルトのレンズ状ブロックが少量混じる。

SP-25 調査区中央部で出土した径20cmの柱穴である。深さ13cm。SP-26に切られる。埋土は、柱痕跡である①層と、掘り形埋土である②層からなる。①層部分は径8cmの柱痕跡で、灰褐色シルト質土。②層は灰褐色シルト質土を主体として、径2~3mmの明黄褐色土の丸い塊が混じる。土師器片が3点出土している。そのうちの1点は土師器皿の底部片であるが、時期は不明である。

SP-26 調査区中央部で出土した径18cmの柱穴である。深さ7cmを測る。SP-25を切る。埋土は、柱痕

跡である①層と、掘り形埋土である②層とからなる。①層部分は径9cmの柱痕跡で、灰褐色シルト質土。②層は灰褐色シルト質土を主体として、明黄褐色土の丸い小塊が少量混じる。瓦器片が1点出土している。

SP-27 調査区中央部で出土した径24cm前後の柱穴である。深さ10cm、埋土は、灰褐色～暗褐色シルトで明黄褐色土の丸い塊が混じる。柱穴底面には、長辺20cm、幅14cm、厚さ9cmの花崗岩の扁平な割石が据えられており、礎板と考えられる。

SP-28 調査区中央部で出土した径19～22cmの柱穴で、深さ18cmを測る。埋土は灰褐色シルトで、暗褐色色シルトの丸い小塊が混じる。柱穴底面からやや浮いた状態で、長辺10cm、幅8cmの割石が出土した。礎板と考えられる。出土遺物は土師器縫片が2点出土している。

SP-30 調査区中央南部で出土した径21cm前後の柱穴である。深さ10cm、埋土は、柱痕跡である①層と、掘り形埋土の②層とからなる。①層の柱痕跡は径9cm前後で、暗褐色シルト質土で埋まる。②層は灰褐色シルト質土を主体として、小指先大の炭化物片が少量混じる。SP-29に切られる。土師器縫片が4点出土している。

SP-31 調査区中央南壁に接して出土した残存径70cm以上の柱穴である。深さは29cmを測る。当初、3つの遺構(SP-31、SK-32・33)が切り合うものと考えていた。遺構完掘後、調査区南壁を利用した遺構埋土の精査の結果、一連の遺構であることを確認できた。埋土は、柱の抜き取り痕跡である①層と、掘り形埋土の②～⑥層に分層ができる。①層は黒褐色シルト質土。①層の西は上下に直線的にのびるのに対して、東は上部で東側へ屈曲する。このことから柱を東側へ抜き取ったことが考えられる。柱抜き取り痕跡は径20cmを測る。②層は黒褐色シルト質土で、明黄褐色土の丸い小塊が少量混じる。③層は暗褐色シルト質土で、明黄褐色土の丸い小塊が混じる。④層は灰褐色シルト質土を主体として、明黄褐色土のレンズ状ブロックが少量挟まる。⑤層は暗褐色シルト質土で、明黄褐色土の丸い塊が混じる。⑥層は、暗褐色シルト質土を主体として、明黄褐色土の大きな丸い塊が多く混じる。

SP-34 調査区南東部で出土した径40cm前後の柱穴である。深さ40cmを測る。遺構検出時、調査区南東隅を中心に灰褐色シルト層の広がりが見られた。灰褐色シルト層は8cmほど堆積しており、これを取り除く

とSP-34の掘り形を検出できた。埋土は、柱の抜き取り痕跡である①層と、掘り形埋土である②層からなる。柱の抜き取り痕跡である①層は、暗褐色シルト質土で、明黄褐色土の小塊が少量混じる。抜き取り痕の底面で径17cmの柱径を復元できる。②層は、暗褐色シルト質土で、明黄褐色土の大きな塊が混じる。土師器片2点と古墳時代の須恵器底部片1点が出土している。

SP-35 調査区東部で出土した径34cmの柱穴である。深さ42cmを測る。埋土は、柱抜き取り後の流入土である①層、柱抜き取り痕跡である②層、掘り形埋土である③～⑤層からなる。①層は、灰褐色シルト質土で、明黄褐色土の塊が少量混じる。②層は、灰褐色シルト質土で、径1～3mmの明黄褐色土の丸い塊が多く混じる。③層は、灰褐色シルト質土が主体で、明黄褐色土の径1～3mmの丸い塊が混じる。④層より、明黄褐色土の塊の割合は少ない。④層は灰褐色シルト質土。⑤層は、灰褐色シルト質土を主体とし、明黄褐色土の長さ5cm前後のレンズ状ブロックが挟まる。土師器片が4点出土しているが、2点は土師器皿底部片である。

SP-36 調査区東部、東壁に沿って検出した径55cmの柱穴である。深さ30cm。柱穴の東半分は、調査区外へのびる。埋土は、柱抜き取り痕跡である①層と、掘り形埋土である②層からなる。①層は暗褐色シルト質土で、明黄褐色土の塊を少量含んでいる。②層は、①層と同様な土質であるが、明黄褐色土の割合は少ない。1個体分の土師器が出土している。

SP-38 調査区北東部で出土した径30cmの柱穴である。深さ42cmを測る。埋土は、柱痕跡である①層と、掘り形埋土である②③層からなる。①層は暗褐色シルト質土で、柱痕跡の径は16cmを測る。②層は暗褐色シルト質土で、径1～5mmの明黄褐色砂質土の塊が混じる。③層は②層に近いが、明黄褐色砂質土の塊が多い。土師器片1点、鉄滓1点が出土している。

SP-39 調査区南壁に接して出土した径24cmの柱穴である。深さ26cm。径6cmの柱痕跡を確認できた。①層は柱痕跡で、暗～灰褐色シルト質土。②層は掘り形埋土で灰褐色シルト質土である。

【性格不明の遺構 SX-32】

調査区南東部で検出した。当初、土壤として調査を進めたが、掘り形は深さ約8cmと浅いことから、落ち込み状の遺構と考えた。埋土は灰褐色シルト質土である。底面でSP-34が出土した。SX-32はSP-34に先行

する遺構である。

(6) 5区の調査

5区は、農学部本館の南側東西棟の西端部に設置される横水槽部分にある。重機を用いて造成土のI層を掘り下げる、現地表下65cmで、調査区の西端でIV層が部分的にあらわされた。したがって、建物建設時の余掘り範囲は、建物壁面から西側へ3.5mまでおよんでいることになる（図21、写真61・62）。

3 調査のまとめ

今回の調査では、1・2・5区からは遺構・遺物は

出土していない。これに対して、3・4区では土塁、溝、柱穴・杭穴などを確認できた。出土遺物が少なく、個々の遺構の時期は確定できないが、中世に比定できる遺構が中心となるものと考えられる。樽味田地内では、これまで樽味遺跡1・2次調査地点を中心とする14～16世紀の集落遺跡が確認されている。今回の調査地点の北東側に位置する樽味遺跡1次調査地点ではL字状の溝が調査され、2次調査では掘立柱建物群を溝や柵列で囲む方形区画が調査されている。今回、出土した遺構は、こうした中世集落を構成するものである。

（田崎・三吉）



図21 00608（樽味遺跡 8次）調査5区実測図（縮尺1/50）



写真61 00608調査5区遠景（北東から）



写真62 00608調査5区全景（南から）

00609 (樽味団地) 農学部附属農業高等学校ボイラー室新設工事に伴う調査

調査地点 松山市樽味3丁目5番地

愛媛大学樽味団地

調査面積 2.9m²

調査期間 2006年12月21日

調査種別 立会調査

調査担当 吉田 広

調査補助 宮崎直榮

依頼文書 施設基盤部施設整備課長発事務連絡
(平成18年10月23日付)

1 調査にいたる経緯

樽味団地全体へ暖房供給を行っているボイラー施設が老朽化したため、ボイラー室の新設が計画され、埋蔵文化財調査室に報告された。施設基盤部と協議し、配管の埋設では工法を調整することで埋蔵文化財に影響の及ばないように計画の変更がなされたが、ボイラーブロー用滞留槽設置については、工法等の検討・調整をしてもなお、埋蔵文化財に影響の及ぶ可能性が高いと判断された。また、植栽や既設樹・電灯等の空



図22 00609調査地点位置図 (縮尺 1/1,000)

際に設置するため、確保できる平面積・容積が確定できない状況があった。このため、滞留樹設置に伴う掘削工事に際して、立会調査を実施することとした。

2 調査の記録

調査地点は、附属農業高等学校北校舎の西側の植栽内である（図22、写真63）。南西隅を既設電灯（99904調査5トレンチ）、東辺を校舎外壁に接して調査区を設定した。造成土であるⅠ層を掘り下げると、調査区の南西隅部の一部に博味園地基本層序のⅡ層があらわれ、遺物包含層である基本層序Ⅲ層も調査区南西隅部で約50×60cmの直角三角形形状に残ることを確認でき、Ⅲ層の精査を進めることとした。

Ⅱ層は、現地表下約50cmであらわされる。黄褐色から暗灰黄色の砂質土

で、1mm前後の砂粒と1cm大の炭化物粒を少し含み、鉄分の沈着が斑状にやや認められる。下部の10cm前後は、5mm前後のマンガン粒の沈着が多く、やや粘性を増す。約45cmの厚さである。Ⅱ層からは土器片1点が出土した。下層の現地表下約95cmではⅢ層があらわれる。層厚は15cm弱。黒褐色シルト質土で、下層の黄橙色シルト質土を5mm以下の粒状に少し含み、しまりが強い。西壁に接して北東側を搅乱部で破壊された小穴1基が出土した。小穴の埋土は、Ⅲ層と比べて2mm前後の黄橙色シルト質土粒の混じりが多い。Ⅲ層および小穴から遺物は出土していない。以下のⅣ層は、黄橙

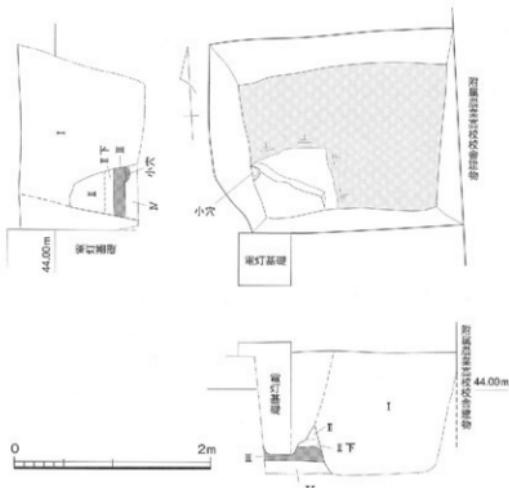


図23 00609調査実測図（縮尺1/50）

色のシルト質土で、5mm前後のマンガン粒の沈着が多く、土質はしまっている（写真64）。

3 調査のまとめ

今回の調査区および隣接する99904調査5トレンチでは、基本層序Ⅲ層が良好に残存していた。周辺でも、99904調査3・4トレンチや99707調査2トレンチで、同様に現地表下100cm前後の深さにⅢ層が存在する。附属農業高等学校校舎の西部一帯に埋蔵文化財が良好に残存していることを確認できた。（吉田）



写真63 00609調査地点近景（南西から）

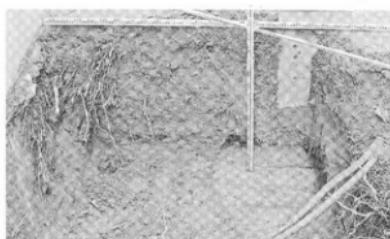


写真64 00609調査区完掘状況（北から）

00610 (城北団地) 教育学部4号館耐震補強工事に伴う調査

調査地点 松山市文京町3番
愛媛大学城北団地
調査面積 19m²
調査期間 2006年1月26日
調査種別 立会調査
調査担当 吉田 広
調査補助 宮崎直栄
依頼文書 施設基盤部施設基盤部長発事務連絡
(平成18年12月7日付)

1 調査にいたる経緯

城北団地第一体育館等の教育学部周辺施設の改修工

事の一環として教育学部4号館の耐震補強工事が行われることとなった。工事内容は、4号館南壁際中央部と、北壁際東西両端部への耐震補強プレース設置で、これに伴う掘削計画は、建物各1スパンにあたる東西約7.0m、建物外壁から1.2mの範囲を現地表下130cmである。周辺の既往調査の成果から、埋蔵文化財に影響が及ぶ掘削深度である。しかし、00404調査2トレチ、教育学部4号館南辺東部の余掘りが建物外壁から南に2.85mまで及ぶことが確認されており、南壁際中央部は建物建設時の余掘り範囲にはいると判断した。建物北側も、この余掘り範囲を適用できる可能性が高いが、なお確定はできず、掘削工事に際して立会

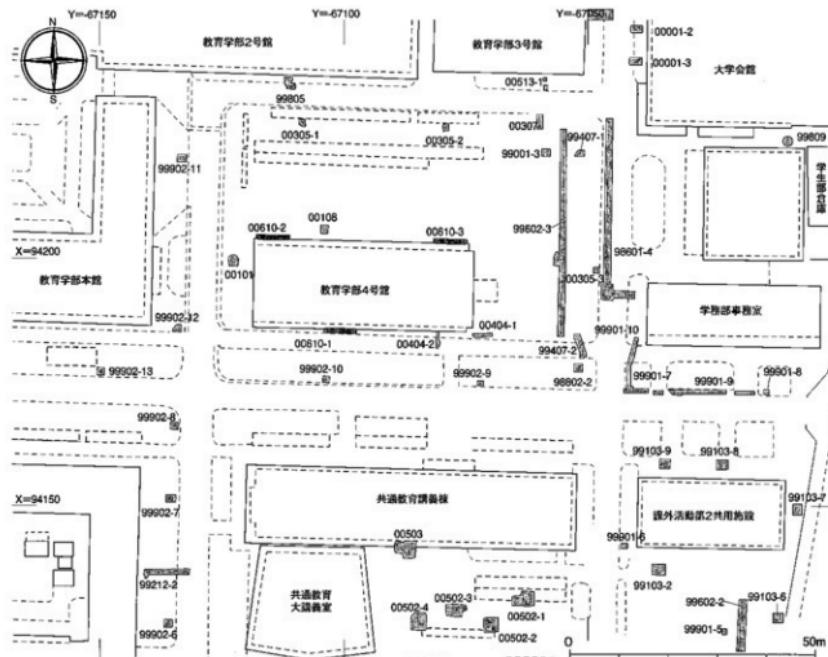


図24 00610調査地点位置図 (縮尺 1/1,000)

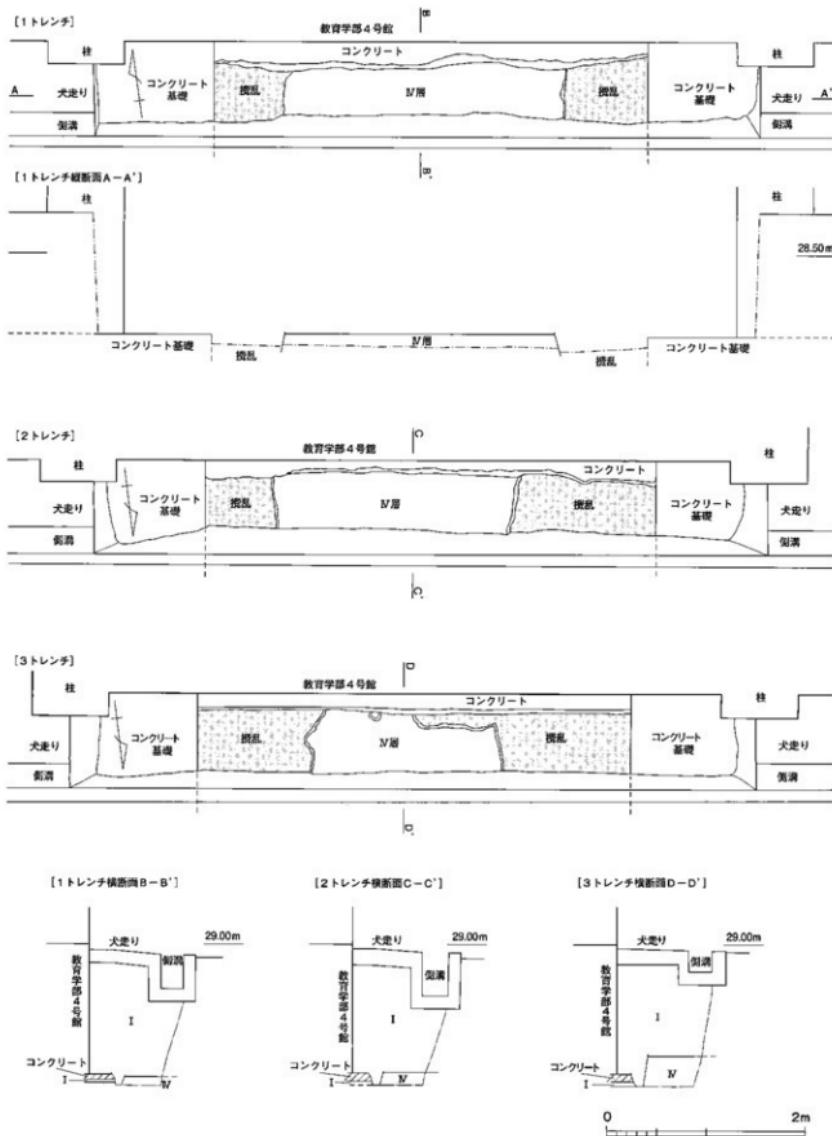


図25 00610調査実測図（縮尺 1/50）

調査を実施することとした。

2 調査の記録

調査にあたって、掘削済みの4号館南側の工事地点で工事内容を確認したところ、城北団地基本層序IV層が掘削底面にあらわれた。状況の詳細を確認・記録するため、この地点も調査対象として1トレンチとし、北西側を2トレンチ、東部を3トレンチとした（図24）。

【1トレンチ】（図25、写真65・66）

4号館南側、西から3スパン目の壁際に設定した調査区で、東西6.75m・南北すなわち外壁から1.0mの範囲である。先記したように、既に現地表下約120cmまで掘削が行われており、まずは掘削壁及び底面を清掃し、土層の状況を確認した。建物柱部は外壁から約90cm拡張した基礎をもち、その余掘りが掘削面でなお70～80cmあり、それ以外の底面にIV層が残っていた。さらに、柱部以外の外壁基礎下にも、10cm前後のコンクリート層・擾乱土層を挟んでIV層の残存がうかがえた。以上から、教育学部4号館建設においては、浮基礎の柱部は現地表下120cmを超えた掘削を行ったが、その他は現地表下120cm前後の掘削に留まったと推定できることになる。

1トレンチでは、掘削がなお10cm前後必要あることが工事業者から示されたため、繩文土器を包含することがあるIV層については、工事必要範囲内を手掘りで調査することとした。

この地点のIV層は明黄褐色砂質土で、1mm以上の砂粒・砂礫はほとんど含まず、粘性がほとんどなく砂質が強い。しまりも強い。1cm前後の斑状に鉄分が沈着し、5mmの大マングン粒の沈着も少し見られる。現地表下135cmまで掘り下げたが、遺物は出土しなかった。

【2トレンチ】（図25、写真67～69）

4号館南側、西端スパンの壁際に設定した調査区で、東西6.85m・南北1.0mの範囲である。1トレンチ同様、現地表下約120cmの外壁基礎コンクリート面とほぼ同じ高さに、東西約2.5m幅でIV層の残存を確認した。

以後、工事に必要な深度約135cmまで、手掘りによりIV層を掘り下げた。

この地点のIV層は、にぶい黄色砂質土で、1トレンチよりもやや色調は暗めである。また、1mm前後の白色砂粒を少し含み、1トレンチより砂質はやや強く、しまりはやや弱い。1cm前後の斑状に鉄分が少し沈着し、5mmの大マングン粒の沈着がわずかに見られる。遺物は出土していない。

【3トレンチ】（図25、写真69・70）

4号館北側、東端スパンの壁際に設定した調査区で、東西7.0m・南北1.0mを測る。重機掘削から立ち会い、1・2トレンチ同様、現地表下約120cmの外壁基礎コンクリート面と同じ高さ、東西約2.0m幅にIV層の残存を確認した。その上で、現地表下約135cmまで手掘りによりIV層を精査した。

この地点のIV層は、にぶい黄色砂質土で、1トレンチよりは2トレンチに土質は近い。1mm前後の白色砂粒をやや含み、1・2トレンチより砂質がさらに強く、しまりはやや弱い。1cm前後の斑状の鉄分沈着があり、マングン粒の沈着は少ない。なお、残存西部には、0.5mm以下の砂粒を主体とした黄灰色砂質土がトレンチ底面に広がり、同様の砂質層は、トレンチ北壁で、にぶい黄色砂質土の上にも厚さ20cm前後存在していることが認められた。ただし、これも含めて、IV層からの出土遺物はない。

3 調査の成果

施設基盤部に調査で得られた教育学部4号館基礎に関する所見を伝え、施工業者への慎重工事を依頼して調査を終えた。

00404調査2トレンチでは、教育学部4号館南側の余掘りは外壁から2.85mの範囲に及ぶことを確認していた。ただし、その際の掘削は現地表下50cm弱にしか及んでいなかった。今回の調査では、教育学部4号館柱部以外で建設時の掘削は現地表下約120cmにとどまり、以下に繩文時代の遺物包含層であるIV層が良好に残存することを確認できた。

（吉田）



写真65 00610調査1 トレンチ遠景 (南東から)



写真66 00610調査1 トレンチ (西から)



写真67 00610調査2・3 トレンチ遠景 (北東から)

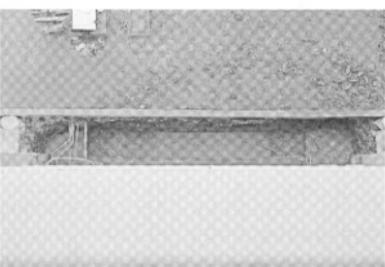


写真68 00610調査2 トレンチ (南から)



写真69 00610調査2 トレンチ (西から)



写真70 00610調査3 トレンチ (西から)

00611 (城北団地) 宮前川架橋取設他工事に伴う調査 (文京遺跡 30次調査)

調査地点 松山市文京町3番

愛媛大学城北団地

調査面積 17.7m²

調査期間 2006年2月5日～8日

調査種別 本格調査

調査担当 吉田 広

調査補助 宮崎直栄
依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
(平成18年12月7日付)

1 調査にいたる経緯

城北地区交通安全対策委員会において、城北団地の駐車・駐輪場等の整備を行うとともに、旧グラウンド東側道路を北側に延長し、第一体育館東側の囲塀を一部撤去して宮前川に架橋し、新たな出入口を設けることが決定された。この決定を受けて、施設基盤部では具体的な工事設計に入ったが、工事に伴い現地表下180cmまでの掘削が必要となり、その旨が埋蔵文化財調査室に報告された。周辺では、西側約60mの文京遺跡9次（調査番号：98706）調査地点で、城北団地の基本層序Ⅳ層から縄文時代後期～晩期の土器が出土している。今回の計画されている掘削ではⅣ層を完全に破壊してしまうことになり、工事面積は狭いが、事前に全面調査を実施することとした。

また、新たな出入口に伴う外灯2基の新設も同時に計画され、いずれも現地表下140cmに及ぶ掘削計画が提示された。架橋工事同様、埋蔵文化財への影響が予想される深さである。架橋基礎部分の発掘調査と一連の調査として、外灯工事地点2ヶ所も同時に調査することとした。

2 調査の記録

架橋工事に伴う工事範囲は、北側囲塀から南北約2m、東西約6mであり、その西側に接して2基の外灯の内1基が設置される計画で、これを一括して1区として設定した。1区は南北2.3m×東西7.0mを測る。一方、もう1基の外灯基礎部分は架橋調査区から南約26mに位置する、南北1.6m×東西1.0mの1.6mの調査区を設定し、2区（外灯調査区）とした（図26、写真71）。

（1）1区の調査

中央の雨水栓及び管路で東西に分断され、表土近くには管路の埋設も少なくない。これらを回避あるいは現行でないことを確認しながら、城北団地基本層序のⅠ層・Ⅱ層を西側から重機により掘削していく。すると、近現代に下るⅢ層とは明確に区別でき、かつ上部を流水性の砂礫層で覆われた土層の堆積が、現地表下約70cmで認められた。近現代以前の水田関連土層と

みられ、近現代の水田層Ⅱ-1層と区別してⅡ-2層とし、これ以下を調査することとした。

水田関連土層の掘り下げ後、調査区南西側ではⅣ層が直接現れ、Ⅳ層上面でSX-1を検出した。ところが、それ以東では当初Ⅲ層は存在しないとしていたものの、後の壁面精査においてⅢ層と判断すべき土層が残ることが判明した。標高27.00mから厚さ10~20cmである。この地点のⅢ層は、暗オリーブ褐色シルト質土で、1mm前後の砂粒を少し含む程度で砂質分が弱く、粘性をおびる。上部を中心に5mm大以下のマンガン粒の沈着が多い。城北団地南部のⅢ層に比べて色調は薄く、土壤化は弱い。Ⅳ層との境も漸移的である。遺物もほとんど含まれない。Ⅳ層上面検出時に出土した中世土師器細片や須恵器片も、後述するSX-2~4に関連する遺物である可能性が高い。

Ⅲ層下では基本層序Ⅳ層があらわれた。Ⅳ層の検出高は南西部が最も高く、標高約27.00mを測る。浅黄色シルト質土で、調査区東部の北壁際で縄文後期の土器片がまとめて出土した。

1) Ⅱ-2層の調査

上記した流水性の砂礫層を手作業で検出するとともに、西壁際で以下の堆積状況を確認するために断面を行った。さらに、壁面の精査から、Ⅱ-2層は①~⑩層に細分できた。①~⑥層と⑦~⑩層の、大きく上下2単位の水田関連土層の堆積である。①~③層と⑦層が覆土層、⑤層と⑧層が水田耕作土層、⑥層と⑨層が床土層である（図27、写真72・73）。

①層は灰色砂質土。調査区東壁でのみ認められた。0.5mm以下の砂粒を主体に、2~5mm大の砂礫を少し含み、高師小僧が発達し、しまりがややある。②層は灰白色砂礫層で、0.5~3mm大の砂粒・砂礫からなり、しまりが弱い。調査区東部を中心にはほぼ全域に広がり、厚さは10cm前後である。③層は灰色砂質土で、1~5mm大の砂粒・砂礫を多く含み、しまりが弱い。調査区北壁で20cm以上堆積する。①~③層は水田覆土であり、これらの下に、水田耕作土の⑥層が広がる。⑤層は灰色砂質土で、0.5~5mm大の砂粒・砂礫を多く含み、部分的には砂粒・砂礫層が嵌入するなど、砂質が強い。ただし、調査区南西側ではしまりがある。⑤層の北側を切って堆積するのが④層で、溝等の理土とみられる。④層は、⑤層とほぼ同質ながら、やや砂粒を多く含み、1cm大の炭化物粒をも含む灰色砂質土。④・⑤層の下には、灰色シルト質土の⑥層が堆積する。

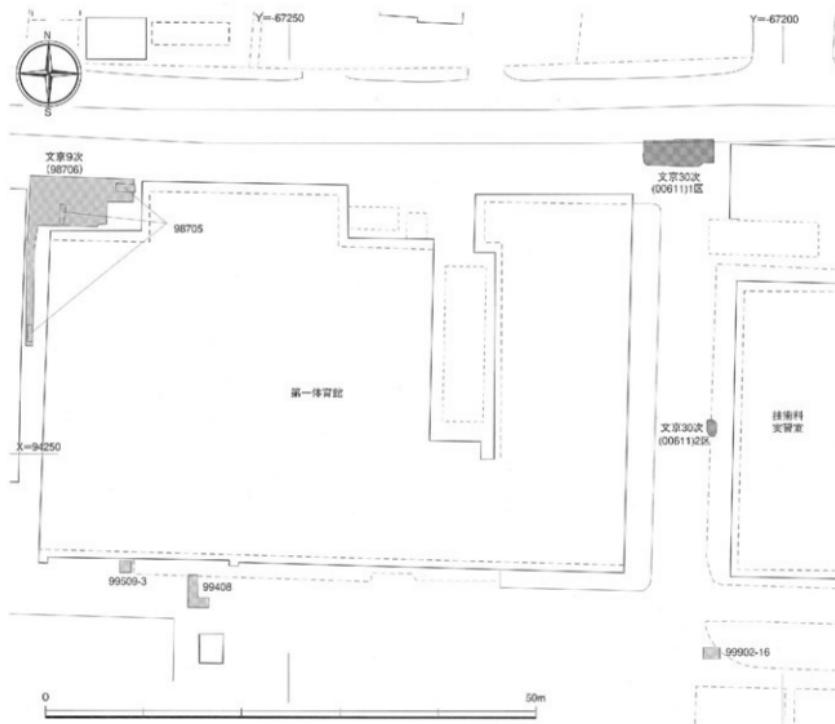


図26 00611(文京遺跡30次)調査地点位置図(縮尺1/500)

20cm前後の厚さで、3mm以下の砂粒・砂礫を少し含み、しまりがある。⑤層との層界には鉄分が沈着し、層中位には5mm前後のマンガン粒の沈着が認められる。水田基盤層である。

⑦層は、0.5~3mm大の砂粒を多く含む灰オリーブ砂質土で、鉄分の沈着が斑状に多くあり、しまりがややある。水田覆土層である。⑧層は、0.5~3mm大の砂粒を少し含む灰色シルト質土。鉄分の沈着があり、しまりがある。水田耕作土層とみられるが、⑦層による削平のため、残存状況はよくない。⑨層は灰色シルト質土で、1~3mm大の砂粒を少し含む。⑩層との層界には鉄分が沈着し、下位には1cm前後のマンガン粒が多く沈着する。しまりがあり、粘性がやや強い。水田床土層である。なお、⑨層と⑩層との間に、砂質の

強い灰色砂質土(⑪層)が一部見られる。

II-2層から遺物は出土していない。

2) Ⅲ層と遺構の調査

Ⅲ層掘り下げ中あるいは後のIV層上面において、性格不明の落ち込み状遺構SX-1~4と小穴SP-5~8が出土した(図27)。Ⅲ層を切ってⅢ層と異なる埋土をもつ遺構と、城北団地南部のⅢ層に類似した埋土の遺構である。SX-1~4が前者に、SP-5~8の小穴が後者にあたる。

SX-1 調査区北西隅部で確認した。最深部は擾乱により不明であるが、北西側へ40cm以上落ち込み、埋土は1~5mm大の角の取れた砂粒・砂礫を主体とする暗灰黄色砂質土(SX-1-①層)で、しまりがややある。また、落ち込み肩部付近の埋土下部には、IV層をベー

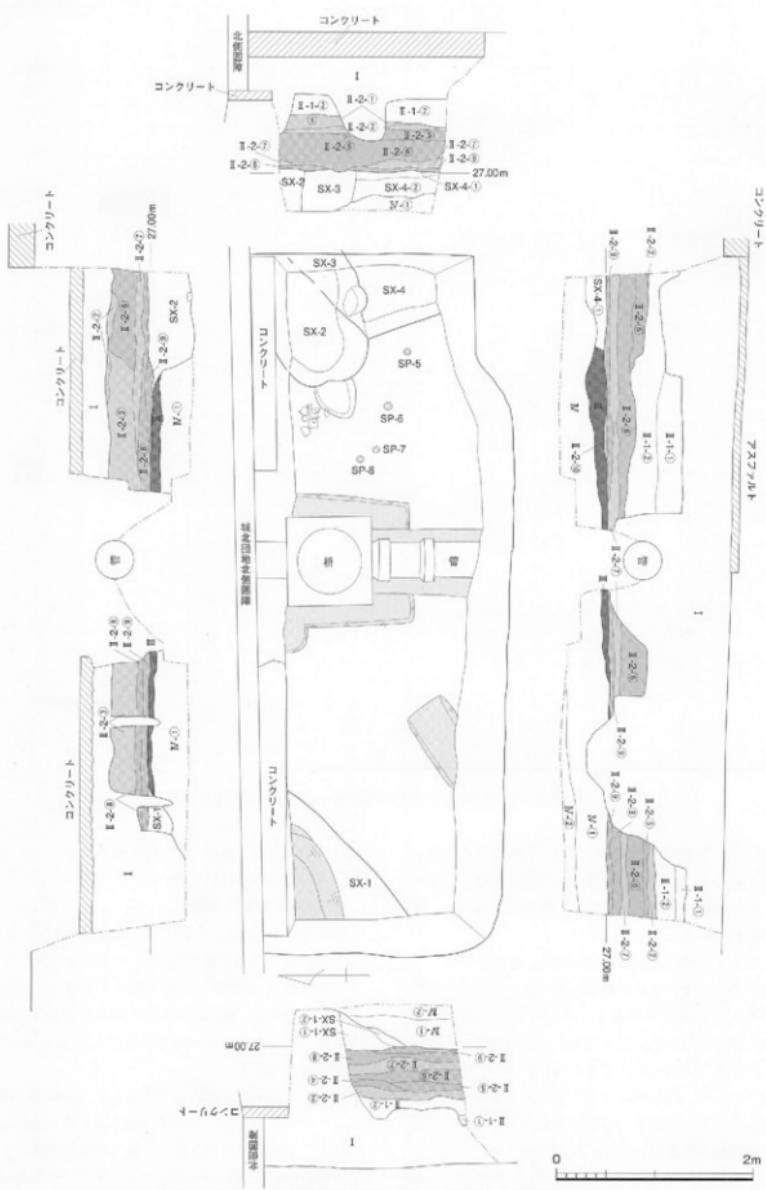


図27 00611 (文京遺跡30次) 調査1区実測図 (縮尺1/50)



写真71 00611調査区遠景（南から）



写真72 00611調査1区上層水田面（東から）



写真73 00611調査1区西壁水田関連土層（東から）



写真74 00611調査1区IV層上面遺構完掘状況
(東から)

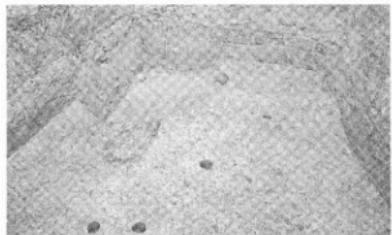


写真76 00611調査1区東半部のIV層上面の検出遺構
(西から)



写真77 00611調査1区IV層中の縄文土器出土状況
(南西から)

スに、1~5mm大の角の取れた砂粒・砂礫を多く含むオリーブ褐色シルト質土(SX-1-②層)がみられる。平面形状は不明ながら、埋土・断面から判断して、溝あるいは自然流路の一端と考えられる。遺物は出土していない(写真75)。

SX-2・SX-3 調査区北東隅で確認した、東西110cm以上・南北80cm以上・深さ約40cmの落ち込みで、調査区外へとつなぐ。当初一体の遺構とみなしていたが、調査区東壁の土層精査から切り合いで確認したため、切られた南側をSX-3として分離した。埋土はともに灰色シルト質土。SX-2は1mm前後の砂粒を少し含み、高齢小僧が多く見られ、粘性が強く、しまりがある。底面付近には、10cm大までの角の取れた扁平な円錐が貼り付き、その間から須恵器片が出土した。一方のSX-3埋土は、SX-2より1mm前後の砂粒の混じりがやや多く、鉄分の沈着は斑状で、粘性・しまりがある(写真76)。

SX-4 調査区南東隅で確認した落ち込み。東壁際50~70cmで、北側をSX-3に切られ、南北約80cm、深さ20cm前後である。埋土は灰色シルト質土で、1mm前後の砂粒をやや、Ⅲ・Ⅳ層のブロックを多く含み、しまりがある。上層のSX-4-①層は、Ⅲ・Ⅳ層のブロックが5cm大までと大きいのに対し、下層のSX-4-②層は3cm以下とやや小さくなる(写真76)。

SP-5 径約7cm・残存深約4cmの小穴である。埋土は黒褐色粘質土でやや砂質は強い。2~3mm大の角張った砂礫を少量、暗褐色粘質土の5mm大ブロックを少量含む。

SP-6 径約7cm・残存深約4cmの小穴で、埋土は黒褐色粘質土でやや砂質は強い。2~3mm大の角張った砂礫を少量、暗褐色粘質土の5mm大ブロックを少量含む。出土遺物はない。

SP-7 径約7cm・残存深約5cmの小穴。埋土は暗褐色粘質土で、1mm大の砂粒をごく少量、黒色砂質土の5mm大ブロックを少量含む。

SP-8 径約7cm・残存深約5cmの小穴である。埋土は暗褐色粘質土で、1~3mm大の砂礫を少量、黒色砂質土の5mm大ブロックを少量含む。

以上の遺構で遺物が出土したのは、SX-2のみである。そのSX-2も埋土の特徴から、出土須恵器の示す古墳時代後期まで遡ることは難しい。SX-3・SX-4とともに、古墳時代よりも新しい時期の遺構と考えておきたい。SX-1については、これらと埋土の特徴

を異にし、時期の詳細は不明とせざるを得ない。他方、SP-5~8は、いずれもⅣ層上面で検出した、この調査区では見られなかった城北団地南部のⅢ層に類似する埋土の小穴で、古墳時代後期に遡る可能性が高い。明確な並び・組み合わせを特定できないが、横列の一部を構成していた杭跡の可能性が高い(写真76)。

3) Ⅳ層の調査と出土遺物

前述したように、比較的近接する9次調査地点でⅣ層から繩文土器が出土しており、Ⅳ層を人力で掘り下げながら精査した。Ⅳ層の検出高は南西部が最も高い。浅黄色シルト質土で、1mm前後の砂粒を少し含む程度で、シルト質が強く、しまりがある。また、5mm前後のマンガン粒の沈着が多い(Ⅳ-①層)。調査区内でも、東寄りほどシルト質が強く、対して西南側は下部で、やや砂質が強くなる(Ⅳ-②層)。全体に本調査区のⅣ層は、砂粒の含みが少なく、シルト質が強い。また炭化物・焼土はほとんど含まず、集中箇所も認められない。

ところが、調査区東部の北壁際で、土器片がまとめて出土した(図28・写真77)。包含土層はⅣ-①層。

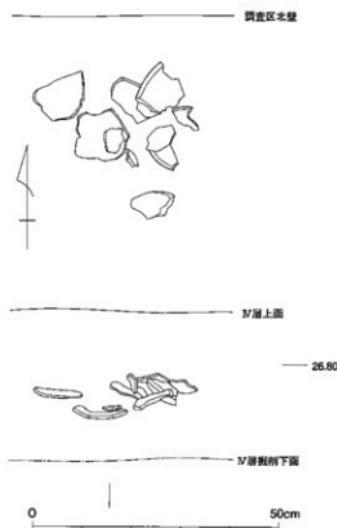
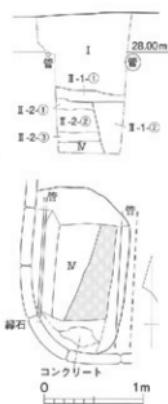


図28 00611(文京遺跡30次)調査区Ⅳ層中遺物出土状況(縮尺1/10)

図29 00611（文京遺跡30次）調査2区実測図
(縮尺1/50)

土器周辺は周囲よりわずかに白っぽく砂質がやや増すが、遺構と認められる平面的な土層の違いは認識できなかった。土器はすべて同一個体で、内外面を丁寧にミガキ仕上げした、縄文後期の鉢とみられる。なお、これ以外にIV層からの出土遺物はない。

（2）2区の調査

1区から南約26m、教育学部技術科実習室西側に位置する（図29、写真78）。表土層は現地表下80cm前後まで、途中調査区東西に管路が埋設されていた。以下、城北団地基本層序のII層となるが、近現代のII-1層は2層に、II-2層は3層に細分できる。II-1-①層は約10cm前後の厚さで、オリーブ褐色砂質土。1～5mm大の砂粒・砂礫を少し含み、粘性がある。II-1-②層は、掘削底面以下まで調査区東半を切り込むオリーブ褐色砂層で、1mm前後の砂粒の含みが多く、部分的にラミナを形成する。また、5cm大のIV層ブロックや2～3cm大の円錐を少し含む。II-2-①層は黄褐色砂質土で、厚さは10cm前後。0.5mm以下の細かな砂粒を含み、シルト質を若干含み、粘性がややある。II-1-①層との層界には鉄分が薄く沈着する。II-2-②層は黄褐色砂質土で、2mm以下の砂粒をやや含み、II-2-①層よりやや砂質が強い。層上部に5mm前後のマンガン粒の沈着がややある。層厚は20cmを超える。II



写真78 00611調査2区完掘状況（南から）

-2-③層は暗灰褐色砂質土で、1～5mm大の砂粒・砂礫を含んで砂質が強く、しまりがややある。厚さ約10cm。この地点のII-2層は、1区のII-2層と比べて砂質が強く、直接の対応は明確でないが、①・③層が耕作土あるいは床土、②層が覆土とみられる。

以上の水田関連土層の下、調査区西半の標高約27.10mでIV層が現れた。1区同様、以下を手作業により調査し、工事に必要な現地表下約140cmまで約12cmを振り下げたが、遺物は出土しなかった。この地点のIV層は黄褐色シルト質土で、1～5mm大の砂粒・砂礫をやや多く含み、しまりが強い。上部に薄く鉄分が、また5mm大のマンガン粒が、上部水田関連土層から沈着している。

電灯への管路埋設については、現地表下40cmの掘削であり、2区および1区の所見から、埋蔵文化財への影響はないないと判断できた。その旨を施設基盤部・施工業者に伝え、以後の慎重工事を依頼し、2区の調査を終えた。

3 調査のまとめ

今回の調査では、近現代の水田層であるII-1層の下に、それを漚る水田層であるII-2層を確認した。1区と2区で対応が明確でないが、近世以前に漚るII-2層が城北団地北縁に広がっているとみられる。同様の水田層は、南側の文京遺跡18次調査および25次調査で面的広がりを確認している。また、周辺調査区の上層対応では、18・25次調査区検出水田層に連なるとみられる水田層あるいは谷状地形は、30次調査区の南では、00002調査4トレンチや99902調査14トレンチに求められる（図30）。そして、99902調査15・16トレンチでは、III層の安定した堆積が存在し、IV層の検出高も30次調査2区が最も高い。したがって、30次調査区

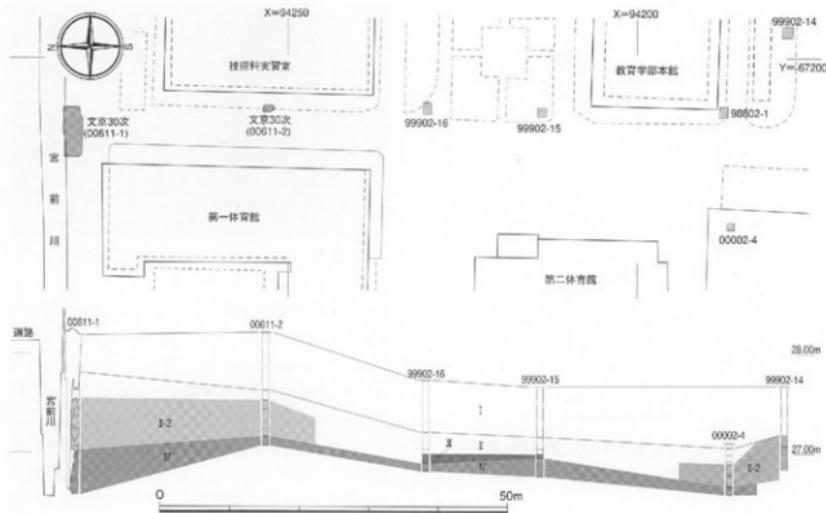


図30 00611 (文京遺跡30次) 調査区周辺土層図 (縮尺1/700、1/50)

検出のII-2層は、18・25次調査区の位置する谷状地形の北側の微高地からその北側斜面に営まれた水田層にあたることになる。同様の水田層は、団地北東隅部の00204調査2トレンチでも確認されており、城北団地北縁一帯が東側から延びる微高地及びその北側斜面にあたると推測できる。

一方、微高地を形成するIV層については、近傍の9次調査地点の成果から、縄文土器出土を予測して調査に臨んだところであり、予想に違わず縄文土器の出土をみた。しかし、出土したIV層は、城北団地南部や東部で遺物が出土する砂粒・砂礫を含んだIV層ではない。

むしろ、その下層にあたる砂粒・砂礫を含まないシルト質土層で、土壤化も認められなかった。また、出土土器周辺の精査でも明確な遺構は認識できず、出土土器は単体であった。シルト質土が堆積する中で、周辺から流れ込んだとみられる。ただし、9次調査地点で比較的豊富な縄文後晩期土器の出土をみるとともに、南側の2区では1区とは異なる特徴のIV層が認められた。周辺の調査面積が限られ明確ではないが、城北団地北部一帯においても縄文土器を包含するIV層が広がっていると予測できる。

(吉田)

00612 (城北団地) 法文学部2号館非常階段取設工事に伴う調査 (文京遺跡31次調査)

調査地点 松山市文京町3番
愛媛大学城北団地
調査面積 8 m²
調査期間 2007年2月19日～2月20日

調査の種別 立会調査
調査担当 田崎博之・三吉秀光
依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
(平成19年1月29日付)

1 調査にいたる経緯

10月18日、法文学部から2号館西側に非常階段の設置と、これに伴う植栽の樹木移植を行う計画が報告された。法文学部、施設基盤部とともに、埋蔵文化財に影響が生じないように、

①非常階段の設置については、北側に近接する00007調査で確認された2号館建設時の余掘り範囲に基礎を収めること

②樹木移植先是法文学部本館西北角の余掘り範囲に収めること

の協議を進めた。しかし、非常階段の設置地点では、設計上、どうしても余掘り範囲から西側1.5mほどの掘削が必要であることがわかり、植栽の樹木移植先も含めて、立会形式で調査を行うこととした。

ところが、非常階段の設置地点では、調査に着手すると、弥生時代の遺構・遺物に加えて、より下層で縄文時代後期の遺構と遺物が出土し、調査期間も長くなつたことから、文京遺跡31次調査として調査次数を付与することとした。

2 調査の記録

調査地点は、法文学部2号館西側の非常階段の設置地点と、樹木移植の移植先地点の2ヶ所である。非常階段の設置地点を1区、樹木移植先を2区とした(図31)。

(1) 1区の基本層序と出土遺構の概要

文京遺跡では、既往の調査成果から遺跡全体にわたる基本層序を上位からⅠ～Ⅶ層に区分している。今回の調査では、基本層序のⅢ層は削平されていたが、Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ層の各層位を確認でき、以下のような堆積土層の構成を観察できる。

Ⅰ層：表土の瓦砾および真砂土からなる造成土。

Ⅲ層：径1mm前後の砂礫が混じる暗褐色シルト質砂質土で、土壤化が進む。弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する土層。

Ⅳ層：明黄褐色～明黄褐色あるいは黄灰色の砂層や砂質シルト層から構成される。IV-3層上面で検出した遺構埋土、そしてIV-3b層下部の土壤化層には炭化物片が集中する。

この中で、IV層は、IV-1～IV-4層に分層でき、さらに細別できる。IV-1層は明黄褐色砂質土。砂性が強くきめも細かい。部分的に粘性をおびる。IV-2a層よりもわずかに粘性をおびる。縄文土器と考えられ

る土器の小片や炭化物がごく少量であるが出土している。

IV-2層は、明黄褐色砂層で、砂質が強くきめも細かい。粘性はない。土器片を含む。IV-2a層とIV-2b層から構成される。IV-2a層は明黄褐色～黄灰色砂。IV-2b層は黄灰色砂質土。IV-2a層に比して、わずかに粘性をおびる。縄文土器と考えられる土器の小片や炭化物がごく少量であるが出土した。

IV-3層は、シルトないしは砂質シルト層である。上面でIV-3層を掘り込んだ土壤や小穴を検出できた。これらは遺構の埋土は土壤化している。埋土中からは縄文後期前半の土器が出土。IV-3層は、上部のIV-3a層と下部のIV-3b層から構成される。IV-3a層は明黄褐色シルト。きめ細かく、やや粘性をおびる。IV-3b層は余掘り壁面では一括しているが、シルトと砂の互層堆積で、調査区西壁面では、以下の複数の堆積土層を観察できた。IV-3a層と比べて粘性が弱い。土質のきめは細かい。土器片を含む。IV-3b層上面から土壤や小穴が掘り込まれている。

また、調査区西壁面では、IV-3b層は、IV-3b①～⑩層から構成されていることを確認できた。IV-3b①層は明黄褐色砂質シルトで、わずかに粘性をおびる。IV-3b②層は黄褐色砂質シルトで、部分的に粘性をおびる。IV-3b③層は黄灰色砂。IV-3b④層は黄灰褐色砂質土で、わずかに粘性をおびる。IV-3b⑤層は明黄褐色砂質シルトで、わずかに粘性をおびる。IV-3b⑥層はわずかに粘性をおびる黄灰褐色砂質土である。

IV-3b⑦・⑧層は土壤化層で、縄文後期の遺物を包含している。調査中には縄文下部包含層と呼称していた。IV-3b⑦層は褐色シルトで、IV-3b⑧層と比べて、褐色が淡い土色であるが、土質は共通する。IV-3b⑧層は褐色シルト質土である。

IV-3b⑨層は、IV-3b⑧層の下部の鉄分が沈着して赤みをおびる部分である。IV-3b⑩層は黄灰色砂層。IV-3b⑪層は褐色砂質土で、明黄褐色砂質土の小塊が混じる。IV-3b⑫層は褐色～黄灰色砂質土で、上層のIV-3b⑧層がしみ込んだ部分にある。IV-3b⑬層は黄灰色砂層。IV-3b⑭層は明黄褐色砂質シルト層である。

IV-4層は、黄灰色～にぶい黄色の砂層である。IV-4層は東西方向の自然流路に伴う堆積物と考えられる。IV-4a層～IV-4c層から構成される。IV-4a

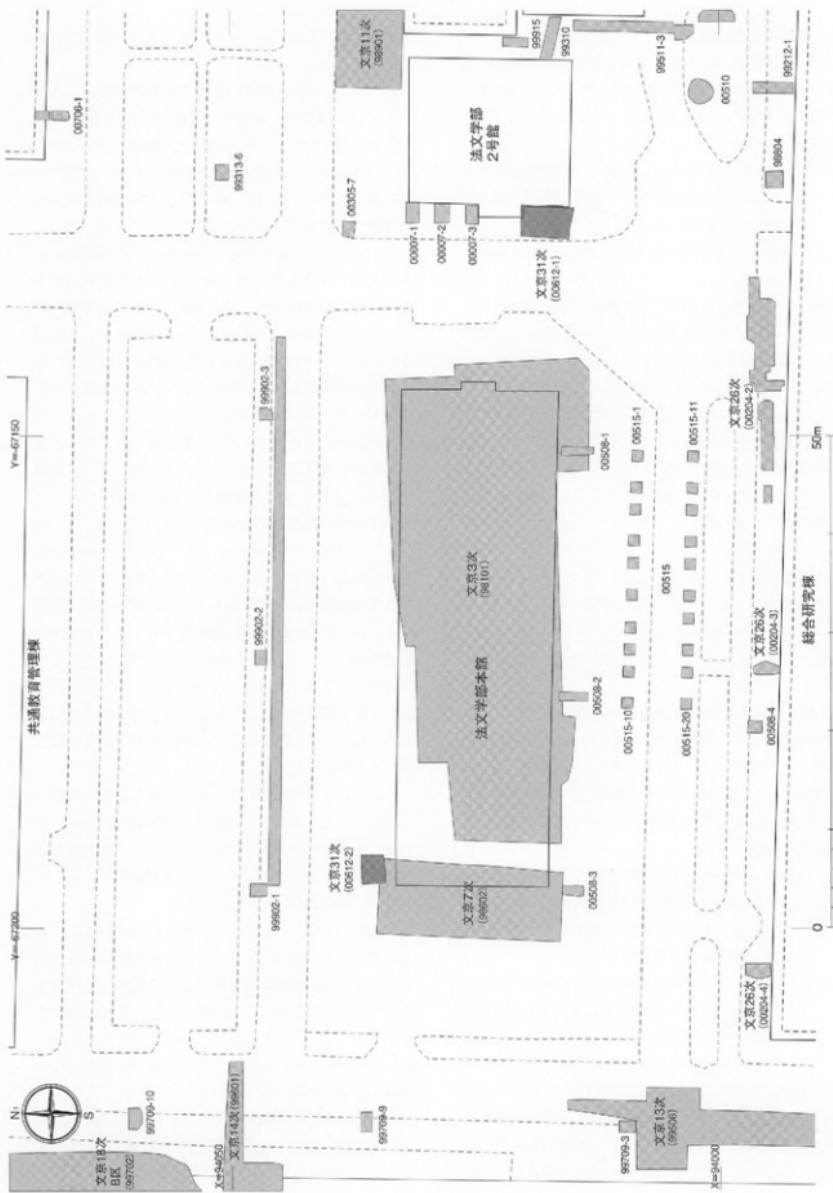


圖31 00612 (文京遺跡31次) 調査地点位置図 (縮尺1/500)

層は黄灰色砂層で、径0.1mmの砂粒からなる。きめ細かい。ラミナが顯著に発達する。東西方向の流路に伴う堆積と考えられる。IV-4b層にはびい黄砂層と黄灰色砂層の互層堆積で、ラミナが顯著に発達する。IV-4a層とともに東西方向の流路に伴う堆積物である。IV-4c層にはびい黄砂層で、きめは細かく、しまりがある。

(2) 1区の出土遺構

調査範囲は狭いものの、IV層上面、IV-3b層上面で遺構が出土し、さらに下層のIV-3b^⑦・^⑧層は縄文後期の遺物包含層である。

1) IV層上面出土の遺構

Ⅲ層の上面を検出す際、その中に弥生土器などの遺物が包含されていることを確認でき、周辺の既往調査の成果からも、弥生時代・古墳時代の遺構があることが予想された（写真81）。しかし、Ⅲ層の掘り下げ中に遺構の輪郭は確認できず、ようやくIV層の上面で柱穴・小穴などを検出できた（図32、写真82～84）。

IV層上面で検出した遺構には1から連番で30までの遺構番号を付し、種別を表す略号を冠している。出土した遺構は、土壙6（SK-1・2・7・16・18・29）、柱穴7（SP-4・5・6・14・15・23・26）、小穴17（SP-3・8～13・17・19～22・24・25・27・28・30）である。いずれもⅢ層と共通して砂疊混じりの暗褐色シルトを主体とする埋土をもち、弥生中期後葉～後期前葉あるいは古墳後期の遺構である。以下、土壙と柱穴を報告する。

[土壙]

SK-1 調査区南端で出土した土壙で、SK-2、SP-3・28に切られる（図33）。推定長軸長90cm、短軸長64cmの不整形を呈し、緩やかに窪み、底面はかなりの凹凸がある。埋土は暗褐色シルト質砂質土で、下部に丸い明黄褐色砂質土塊が少量混じる。

SK-2 調査区南端で出土。東半部の大半を法文学部2号館余掘りで破壊され、南側は調査区外にのびる。SK-1・SP-28を切る（図33、写真85）。掘り形の平面形は緩やかに弧を描き、壁はほぼ垂直に立ち上がる。また、掘り形底面には小さな凹凸があるが、その上部に厚さ10～15cmの明黄褐色砂質土の小塊が混じる暗褐色シルト質砂質土層がみられ、ほぼ平坦な面を造っている。以上から、堅穴式住居跡の一部である可能性もある。埋土上半部はⅢ層と共通する砂疊混じりの暗褐

色シルト質砂質土である。SK-2はⅢ層中位から掘り込んでいるようだが、判然としない。

SK-7 調査区中央の西壁沿いに位置する。幅70cmほどの隅丸方形の小型土壙と考えられる。SK-29に切られる。底面には小さな凹凸がみられる。埋土は暗褐色砂質土層で、明黄褐色砂質土の小塊が点々と混じる。

SK-16 調査区北端の西壁沿いに位置する。ごく一部を確認しただけであるが、壁面がほぼ垂直に立ち上がることから土壙と考えた（図33）。SK-18やSP-17を切る。埋土は暗褐色シルト質砂質土である。底面で柱痕跡をもつ徑21cmの円形の掘り形を確認した。

SK-18 調査区北端の西壁沿いに位置し、SK-16、SP-17に切られる（図33）。SK-16と同じく、ごく一部が出土しただけではあるが、隅丸方形の短辺部と考え、土壙と判断した。底面はかなり凹凸がある。埋土は暗褐色シルト質砂質土で、部分的にびい黄褐色シルトの小塊が混じる。

SK-29 調査区中央の西壁沿いで出土した（図33）。当初SK-7の一部として調査していたが、調査区西壁土層で別個の遺構であることを確認できたので、SK-29とした。SP-6に切られ、SP-30を切る。底面にはかなりの凹凸がある。埋土は暗褐色シルト質砂質土で、部分的にびい黄褐色シルトの薄層が挟まる。

[柱穴]

SP-4 調査区の南半部の西壁沿いに位置する。徑48cmの円形の掘り形をもち、そのほぼ中央で徑20～23cmの円形の柱痕跡を確認できた（図33）。掘り形底面には、柱痕跡底面と対応する円形の窪みがみられる。埋土①層は柱痕跡で、暗褐色シルト質土で、びい黄褐色シルトの親指先大の塊が多く混じる。②層は掘り形埋土で、暗褐色シルトと、びい黄褐色シルトの親指先大の塊が混じりあう。

SP-5 調査区南半部のSP-4の東側に位置する（図33）。徑36～38cmのほぼ円形の掘り形をもつ。掘り形の埋土は、びい黄褐色シルトに暗褐色シルトの小指先大の塊が混じる②層であるが、そのほぼ中央で16×25cmの南北に細長い楕円形の暗褐色シルトに小指先にびい黄褐色シルトがごく少量混じる①層の落ち込みを確認した。柱痕跡かは確定でない。

SP-6 調査区ほぼ中央に位置する。SK-7・29を切る（図33）。24×30cmの長円形の掘り形をもち、その西南よりで13×15cmの柱痕跡を確認した。掘り形底

面に深さ5cmほど窪みを掘り込み、柱を据えている。①層は柱痕跡で、暗褐色シルト。下部には、にぶい黄褐色シルトの薄層が水平に縞状に挟まる。②・③層は掘り形埋土。②層はにぶい黄褐色シルト質土と暗褐色シルトの小指先大の塊が混じりあう。③層は暗褐色シルト質土である。

SP-14 調査区の北半部に位置する（図33）。SP-15を切り、SP-13に切られる。31×41cmの隅丸方形の掘り形をもつ、掘り形の南側の底面を深さ10cmほど掘り窪めて柱を据えている。柱痕跡は径13×16cmを測る。埋土の①層は柱痕跡にあたる暗褐色シルト質砂質土で、下部ににぶい黄褐色シルトの小指先の塊が点々と混じる。②・③層は掘り形埋土。②層は暗褐色シルト質土。③層は暗褐色シルト質土とにぶい黄褐色シルトの小指先大的塊が混じりあう。

SP-15 調査区の北半部に位置し、SP-14に切られる（図33）。43×57cmの長円形の掘り形をもつ。掘り形内では、14×20cm、深さ5cmほどが暗褐色シルト質土となっている。柱痕跡の可能性を考えた。①層は、暗褐色シルト質土に、にぶい黄褐色シルトの小塊が少量混じる。②層も暗褐色シルト質土であるが、にぶい黄褐色シルトの塊が大きめで、かつ量も多い。

SP-23 調査区北端に位置する円形の柱穴である（図33）。径74cmほどの不整円形の掘り形をもつ。SP-26に切られ、SP-24を切る。平面では検出できなかつたが、調査区北壁で斜めに引き倒されたような柱痕跡を確認した。埋土は径1mmほどの砂礫が混じる暗褐色砂質土である。掘り形埋土の上半部は暗褐色シルト質土で、にぶい黄褐色シルトの小塊が少量混じる。下半部は暗褐色シルト質土とにぶい黄褐色シルトの小指先大的塊が混じりあう。

SP-26 調査区北端に位置し、SP-23を切る（図33、写真86）。30×45cmの隅丸方形の掘り形をもち、掘り形の西よりで径14～15cmの円形の柱痕跡を確認した。埋土①層は柱痕跡で、暗褐色シルト質土に、小指先大的ににぶい黄褐色シルト塊がごく少量混じる。②・③層は掘り形埋土。②層は、①層と比べてにぶい黄褐色シルト塊の量が多い。③層には親指先大のにぶい黄褐色シルトの塊が非常に多く混じる。

2) IV-3 b層上面出土の遺構

調査当初、法文学部2号館の余掘り部分を掘り下げ、余掘り壁面を観察したが、IV層内に土壤化層の薄層があることに気がついた。IV層上面での調査を終えてIV

層を掘り下げたところ、IV-3 b層の上面で土壤や小穴を確認できた。いずれの遺構からも繩文土器が出土している（写真87・91）。出土遺構には、101～115の連番の遺構番号を与えている。ただし、103・105は欠番である。土壌4（SK-101、104・108・114）、小穴9（SP-102・106・107・109～113・115）があり、以下では土壤を報告する。

SK-101 調査区中央に位置する。東半部を建物余掘りで破壊されている。長辺97cmの細長い隅丸長方形を呈する土壤である（図33、写真88）。SP-106・107に切られる。底面はやや南にむかって低くなり、小さな凹凸がみられる。埋土は、暗褐色シルト質土で、粘性をおびる。土壤内全面で、繩文土器や炭化物の小片が出土している。

SK-104 余掘り壁面では、SK-101の南側で2ヶ所の土壤化層の落ち込みを確認し、SK-104とSK-105としていた。ところが、平面的に検出したところ、1つの遺構であることがわかり、SK-104とし、SK-105は欠番とした。SK-104は、長さ95cm、幅30cmの溝状の土壤である。底面は南に向かって緩やかに低くなり、かなりの凹凸がある。埋土は暗褐色シルト質土で、粘性をおびる。下半部を中心として炭化物片が多く出土した。なお、北側でSP-115が重複するが、先後関係は不明である（図33）。

SK-108 調査区北半部に位置する長円形の土壤である。長径60cm、短径40cmを測る（図33、写真98）。埋土は明黄褐色シルトの中に暗褐色シルト質土が混じる。南半部を中心として繩文土器や炭化物の小片が出土している。

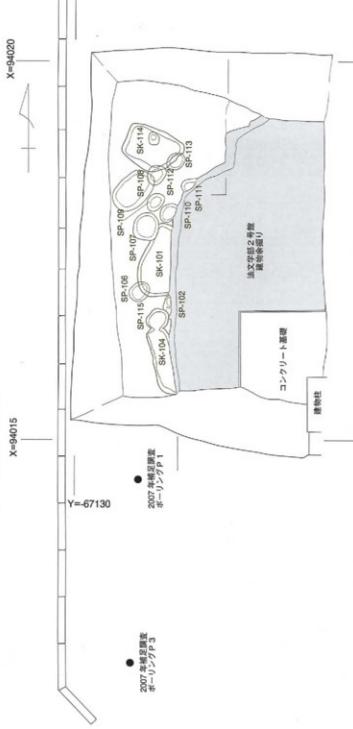
SK-114 調査区北半部に位置する。長辺78cm、短径55cmを測る不整な隅丸方形の掘り形をもつ（図33、写真90）。底面は南半部が低くなり、小穴状の窪みがあるなど凹凸にとむ。埋土は、明黄褐色シルトの中に淡い褐色シルトが多く混じる。繩文土器2点の他、炭化物の小片が出土している。

3) IV-3 b ⑦・⑧層

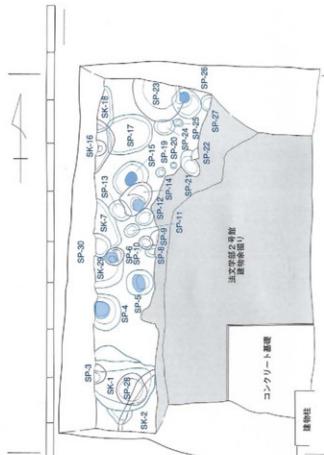
調査区南半部のSK-104を掘り下げ、土壤底面を精査していくと、部分的に土壤化した褐色シルト質土が深く落ち込むことを確認できた。下層に遺構があることを考え、調査区南壁沿いに先行トレレンチを設定したところ、SK-104などのIV-3 b層上面出土の遺構とは異なって、南西方向に向かって落ち込みながら堆積するIV-3 b ⑦・⑧層を確認できた（図32、写真92）。



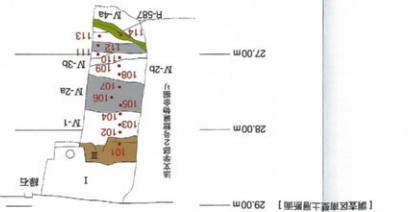
【W-3b 上面出土遺物分布図】



【W-3b 上面出土遺物分布図】



【調査区上面出土遺物分布図】



■ 砂質(含石・含粘土)
○ (文書等)出土地点
△ (文書等)出土地点
● (文書等)出土地点
■ (文書等)出土地点

図32 00612 (文京遺跡31次) 調査1区実測図 (縮尺 1/50)

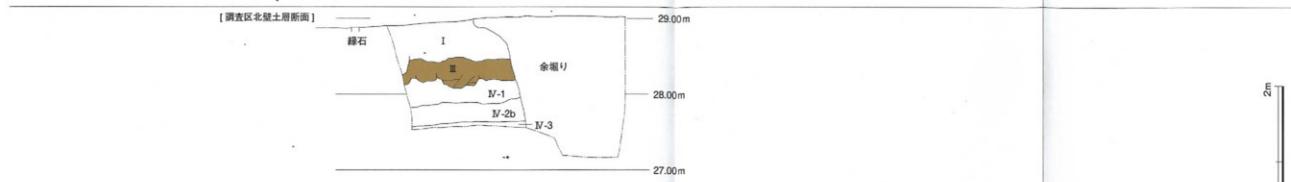




写真79 00612調査1区移植作業



写真80 00612調査1区全景（西から）



写真81 00612調査1区IV層上面の遺構検出状況

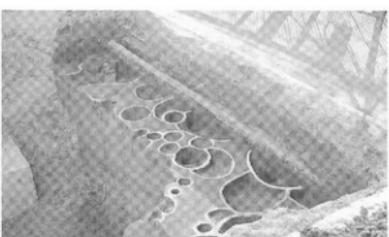


写真82 00612調査1区IV層上面の遺構完掘状況1

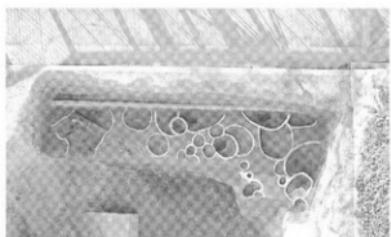


写真83 00612調査1区IV層上面の遺構完掘状況2

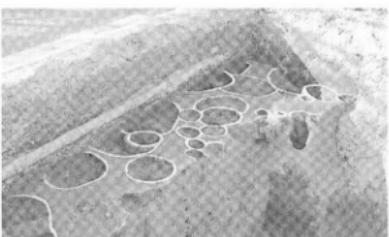


写真84 00612調査1区IV層上面の遺構完掘状況3

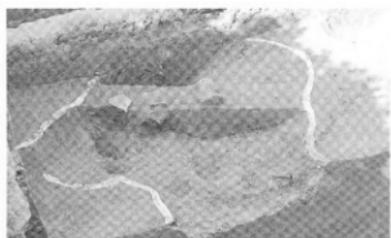


写真85 00612調査1区SK-2遺物出土状況(南東から)

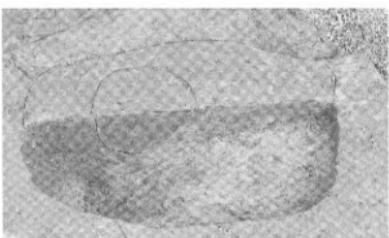


写真86 00612調査1区SP-26土層断面

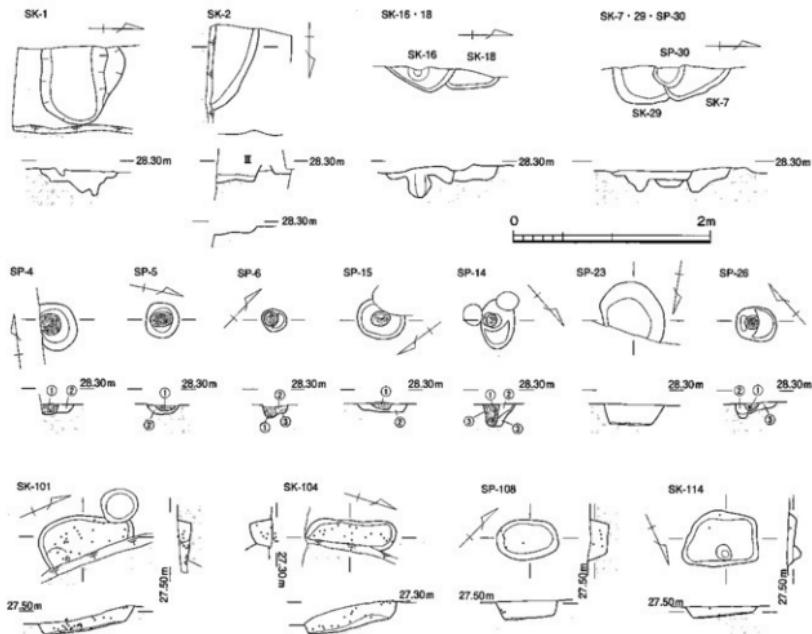


図33 00612（文京遺跡31次）調査造構実測図（縮尺1/50）

このIV-3 b ⑦・⑧層も土壤化した土層で、縄文後期の縄帶文土器が少量であるが比較的まとまって出土した。

(3) 2区の調査

2区は法文学部本館北西角に位置する（写真93・94）。1区の非常階段取扱工事に伴い必要となった樹木の移植先である。法文学部本館建設時の余掘り範囲を確認した上で移植する計画であり、掘削工事に立ち会い、深さ1mまで余掘りの造成土がつづくことを確認した上で移植作業にとりかかった。

3 調査のまとめ

今回の調査は、幅0.8~1.5m、長さ4.6mという狭い範囲ながら、IV層上面で赤生中期後葉～後期前葉ある

いは古墳後期の土壌6と柱穴7、小穴17、IV-3 b層上面で縄文後期の土壌4と小穴9、そして縄文後期の遺物包含層であるIV-3 b ⑦・⑧層が重層して出土した。周辺では、文京遺跡3次調査地点で弥生中期後葉～後期前葉の竪穴式住居跡が出土しており、IV層上面で出土した遺構の一部は、そうした集落に関連するものと考えられる。また、北東に20mほど離れた文京遺跡11次調査地点では、縄文後期の中津式～縄帶文土器の遺物包含層が確認されている。今回の調査で出土したIV-3 b層上面の遺構やIV-3 b ⑦・⑧層の遺物包含層も、一連のものと考えられる。土壤化層が残り、炭化物片が多く出土していることから、プラント・オパール分析を行っている。これも含めて本報告書をまとめたい。

（田崎）



写真87 00612調査1区IV-3b層上面の
遺構完掘状況1

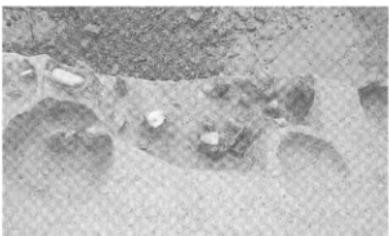


写真88 00612調査1区SK-101遺物出土状況

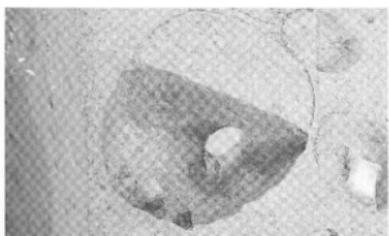


写真89 00612調査1区SP-108遺物出土状況

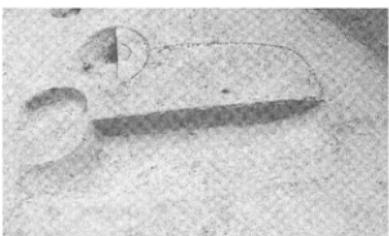


写真90 00612調査1区SK-114土層断面



写真91 00612調査1区IV-3b層上面の
遺構完掘状況2



写真92 00612調査1区西壁土層断面



写真93 00612調査2区遠景（南西から）

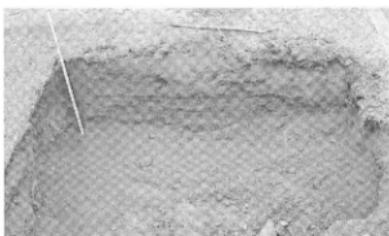


写真94 00612調査2区南壁土層断面

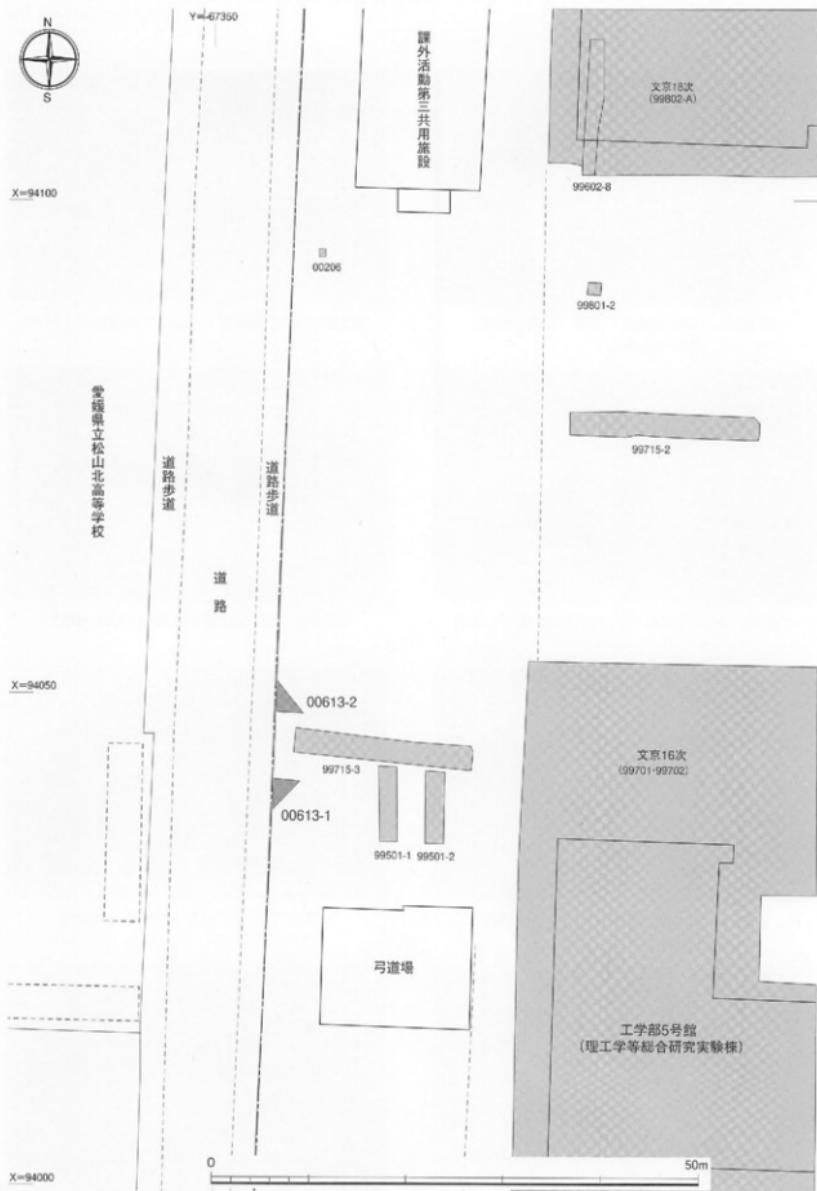


図34 00613調査地点位置図 (縮尺 1/500)



写真95 00613調査区遠景（北東から）



写真96 00613調査1 トレンチ全景（南から）



写真97 00613調査2 トレンチ全景（北から）



図35 00613調査1・2 トレンチ土層断面実測図 (縮尺 1/50)

00613（城北団地）屋外施設等取設工事に伴う調査

調査地点 松山市文京町3番
愛媛大学城北団地
調査面積 8 m²
調査期間 2007年2月19日～2月20日
調査の種別 立会調査
調査担当 田崎博之・三吉秀充
依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
(平成19年1月29日付)

北側を2トレンチとした(図34・35、写真95～97)。

【1トレンチ】

近現代の造成土であるⅠ層が、現地表下0.95mまでつづき、標高26.468mで城北団地全域にわたって設定している基本層序Ⅲ層があらわれた。

【2トレンチ】

1トレンチの北約7mの地点に設けた調査区である。近現代の造成土であるⅠ層が現地表下93cmまでづき、標高26.845mでⅢ層が出土した。

1 調査にいたる経緯

平成19年1月、施設基盤部から城北団地内グラウンドの駐車場アスファルト舗装による掘削工事ならびに駐車場設置に伴う交通規制遮断機基礎による掘削工事の計画が提示された。周辺における既往の調査成果(調査番号99501、99715)から埋蔵文化財への影響が考えられる西側門扉取設工事について、立会調査を実施した。

2 調査の記録

工事地点は2ヶ所で、調査順に南側を1トレンチ、

3 調査後の対応

今回の調査では、城北団地全域で設定している基本層序Ⅲ層の上面を確認できた。Ⅲ層は、調査区西端のブロック塀の基礎部分周辺では破壊されているが、比較的良好な状態で残っている。今後とも、周辺で掘削工事を行う場合には、掘削深度の調整や調査の実施などによって埋蔵文化財の保護に努める必要がある。

(三吉)

00614（樽味団地）総合研究棟改修機械設備工事に伴う調査

調査地点 松山市樽味3丁目5番7号
愛媛大学樽味団地
調査面積 21.6m²
調査期間 2006年2月26日～3月2日
調査種別 立会調査
調査担当 吉田 広
調査補助 宮崎直栄
依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
(平成19年2月21日付)

の後の工事実施段階で、新たな管路埋設工事等を行う必要が生じ、工事内容が報告された。

新規工事は10ヶ所におよび、それぞれについて周辺の既往調査成果から埋蔵文化財への影響を検討した結果、7ヶ所は埋蔵文化財に影響が及ばない深度にとどまること、あるいは既設管路の再掘削であることが確認でき、残る3ヶ所では工事によって埋蔵文化財に影響が及ぶと判断でき、発掘調査を実施することとした。

2 調査の記録

調査地点は、樽味遺跡8次調査1区の北東側、同2区の東側、同5区の西側の計3ヶ所である(図9)。調査順に1～3トレンチとした。

【1トレンチ】

農学部本館南側の中庭南西部に位置する(図36、写真98・99)。樽味遺跡8次調査1区の北東に接する南

1 調査にいたる経緯

樽味団地総合研究棟改修工事の計画策定にあたっては、埋蔵文化財調査室と施設基盤部が事前に協議を行い、埋蔵文化財への影響を最小限にとどめ、その上で工事による影響が及ぶ範囲について事前に樽味遺跡8次(調査番号:00608)調査を行った。ところが、そ

北幅約12m・東西約3mのトレンチである。現地表下約70cmで緑味団地基本層序のⅡ層があらわれた。Ⅱ層は20cm前後の厚さがあり、4層に細分できる。Ⅱ-①層は暗灰黄色砂質土。上部は粘性がやや強いが、下部ほど1~2mmの大粒の砂粒が多く、砂質が強い。Ⅱ-②層は、灰黄褐色粘質シルト。1~2mm大の砂粒をやや多く含む。Ⅱ-③層はにぶい黄褐色粘質シルト。Ⅱ-②層より灰色みが強く、きめが細かい。また土器片を含む。Ⅱ-④層は、褐色粘質土。きめが細かくしまりがある。

Ⅱ層の下、現地表下約90cmでⅢ層となる。ただし、このⅢ層は、Ⅰ層下部に含まれた黒褐色土でなく、色調が薄くよりシルト質の強い暗褐色粘質土である。とくに下部はⅣ層との漸移層あるいはⅣ層上部に含めるべきかもしれない。3~5mm大の角張った砂礫を少量含み、黒褐色シルトの5mm大の丸いブロックがやや多く混じる。中世土器細片が出土している。

このⅢ層を掘り下げる途中で、遺構が出土した。径約20cm、深さ約28cmを測る小穴SP-1である。埋土は、暗褐色砂質土を主体に、褐色粘質シルトの大小ブロックが混在し、黒褐色シルトの5mm大ブロックが多く混じる。中世土器の細片が出土している。

トレンチ東半部では、一部範囲をさらに掘り下げた。その結果、Ⅲ層は厚さ約20cm、標高41.10mでⅣ層があらわれた。Ⅳ層は褐色砂質シルトで、砂礫をほとんど

含まず、きめが細かく、しまりがある。厚さは14cm前後(IV-①層)。以下、やや茶色みが強く、砂質の強い褐色砂質土(IV-②層)がつづく。

[2トレンチ]

1トレンチと同じ中庭の北西部に位置する(図36、写真98・100・101)。樽味遺跡8次調査2区東側に設定した東西幅0.6m・南北2.6mのトレンチである。表土のⅠ層は約30cmで、その下層にⅡ層が30cm前後の厚さで堆積する。Ⅱ層は、グライト化の強いオリーブ褐色粘質土(Ⅱ-①層)、灰黄褐色粘質土(Ⅱ-②層)、褐色粘質土(Ⅱ-③層)に分層でき、Ⅱ-②・③層の下面には鉄分が沈着する。現地表下60cm、標高41.38mでⅣ層があらわれるが、部分的にⅢ層が残る。Ⅲ層は暗褐色粘質土で、2~3mm大の角の取れた砂礫を少量、5mm大の黒褐色シルトの円形ブロックを少量含む。Ⅳ層は1mm前後の砂粒を多く含み砂質の強い褐色シルトで、5mm大のマンガンの沈着がある。2トレンチでは、Ⅲ層から中世土器細片が出土し、攪乱土層からではあるが青磁片も出土した。

[3トレンチ]

3トレンチは、農学部本館の西南隅部の西側、団地西線の植栽内に設定した(図37)。南北幅1.5m前後・東西約11mを測る「く」字形のトレンチである(写真102)。調査区中央部には、東西幅約4mの旧废水槽があり、現地表下200cmまで掘り下げたが、なお攪乱埋

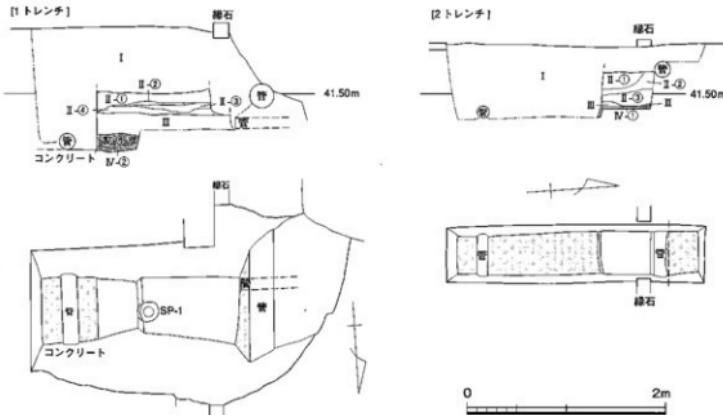


図36 00614調査1・2トレンチ実測図(縮尺1/50)



写真98 00614調査1・2トレンチ遠景（南から）

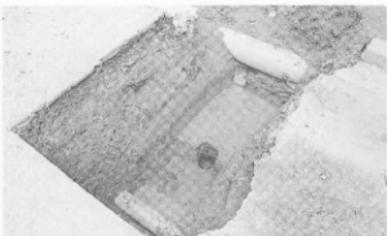


写真99 00614調査1トレンチ（北東から）



写真100 00614調査2トレンチ（北東から）



写真101 00614調査2トレンチ西壁土層（北東から）



写真102 00614調査3トレンチ全景（東から）

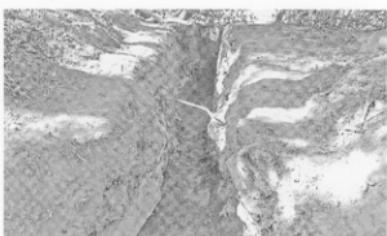


写真103 00614調査3トレンチ西半部（東から）



写真104 00614調査3トレンチ東半部（西から）



写真105 00614調査3トレンチ東端部のIII層出土状況（東から）

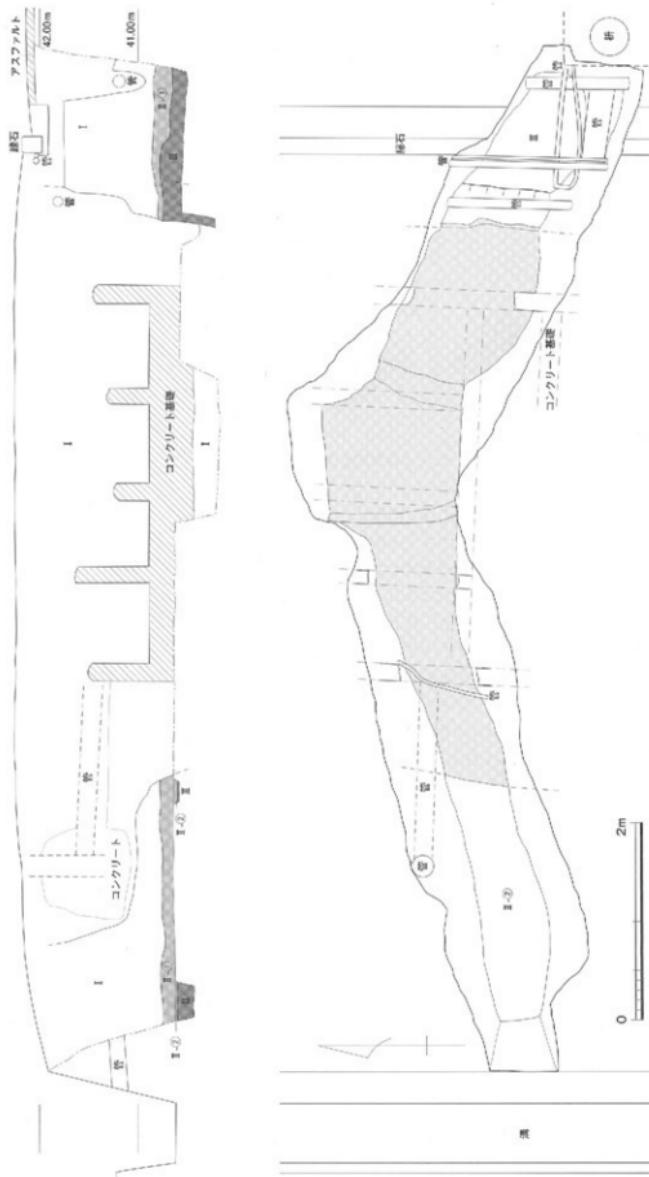


図37 00614調査3 トレーンチ実測図 (縮尺 1/50)

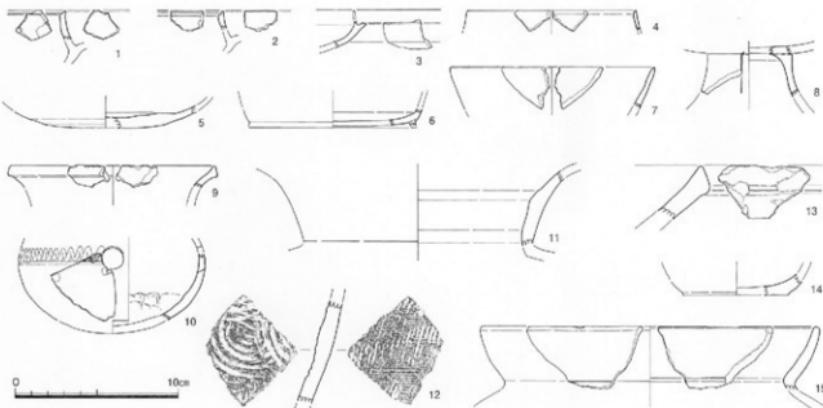


図38 00614調査出土遺物実測図（縮尺 1/3）

め戻し土がつづく。旧廐水槽の掘り形外では、腐植土層以下に、II・III・IV層がブロック状に混在する層が約80cmあり、一部にはIV層が集中して未擾乱層と誤認するような部位もあった。農学部団地造成以前に、大規模な天災返しが行われていることが考えられる。

旧廐水槽の西側では、トレンチ西端から約25mの範囲で、現地表下120~150cm、標高40.8m弱でII-①層が出土した。灰黄褐色砂質土で、径3mm以下の円礫を多く含み、シルト質を若干含むが、砂質が強い。II-①層以下の堆積土層を確認するため、II-①層の一部を東西で掘り下げた。いずれも、薄いII-②層を挟んで、Ⅲ層が現れた。II-②層は黄褐色シルト質土で、砂粒はわずかに含む程度で、粘性がややあり、鉄・マンガン分が少し沈着する。II-①層の床土とみられる。Ⅲ層は暗褐色シルト質土で、砂質を少し含み、5mm前後のマンガン粒が少し沈着する。西端の断削で20cm弱掘り下げたが、下部はIV層に於ける褐色シルトが疊状に多く混在するものの、なおⅢ層が続く（写真103）。

旧廐水槽の東側では、既設の耕や配管のため、調査できた範囲は13m程度に過ぎない（写真104）。縁石上端から約130cm、標高40.85m前後でⅢ層が出土した。この地点のⅢ層は灰黄褐色砂質土で、トレンチ西側より砂質が強い。その下、標高約40.75mでⅣ層があらわれた。Ⅳ層は暗褐色砂質土で、径3mm以下の砂礫・砂粒をやや多く含み、しまりと粘性がある。上面には

上層からの影響で鉄・マンガン分が沈着する。また、5mm前後の炭化物粒や古墳後期～中世の遺物が出土している。Ⅲ層を標高40.50mまで、約20cm前後掘り下げたが、なおⅢ層がつづく（写真105）。

3トレンチでは、旧廐水槽の東側から遺物が出土している（図38）。3・6・10・11・13・14はI・II層、他はⅢ層から出土。小片で図示していないが、Ⅲ層出土遺物にも古墳時代から古代末・中世初の幅があり、一括して説明する。1~13は須恵器。1~4は环身口縁部で、5が环身底部。5世紀末から6世紀代の幅がある。6は环底部で7世紀後半。7は环口縁部であるが、8世紀以降に降るとみられる。8は短脚1段高窓で、3方向透かし。6世紀代か。9は壺口縁部。10は壺体部。孔の一端と、それに切られる沈線1条とクシ指波状文がある。底部は内面に上からの突き出し痕が残り、外面は丁寧なナデが施される。5世紀代に遡る。11は壺頭部。12は壺体部下半片。13は東播系の片口鉢口縁部。11世紀後半。14は土師器环底部。摩滅により底面の調整は確認できない。15は6世紀代の土師器壺口縁部である。

3 調査の成果

今回の調査では、農学部中庭の1・2トレンチでは、Ⅲ層は土壤化が顕著でなく遺物の包含も少なかつたが、SP-1を出土した。一方、団地西縁部の3トレ

ンチでは、中央部に大きく擾乱が及んでいたものの、その東西で安定的なⅢ層が認められ、古墳時代後期から中世に及ぶ遺物が出土した。周辺では、梯状遺跡3次（調査番号：99304）調査で古墳時代中後期の竪穴式住居跡などが出土しており、同様の遺構は、松山市教育委員会の調査により、愛媛大学拠点付近の西側一帯にも広がっていることがわかっている。今回の調査地点付近にも、古墳時代後期を中心として中世に及ぶ遺構が存在するものとみられる。

ただし、3トレンチ東端と、道路を挟んで約4m東の8次調査5トレンチの状況が大きく異なる。報告したように、3トレンチ東端では、Ⅱ層下でⅢ層が出土し、その標高は約40.8mを測る。一部で遺構の立ち上がりを確認し、40.4mまでⅢ層あるいは遺構埋土が続くが、Ⅳ層は確認していない。対して、8次調査5トレンチでは、現地表下65cm、標高約41.5mでⅣ層があらわれ、今回の3トレンチとはⅣ層の検出高に1m以上の差がある。周辺の状況を確認すると、北側約15m

の3次調査南西隅部ではⅡ層下の標高約40.9mでⅢ層とⅣ層が出土し、東側約50mの7次調査4トレンチではⅡ層下の標高約40.7mでⅢ層、標高約40.3mでⅣ層ないしⅤ層が出土している。そして、北東約40mの今回の1トレンチでも、Ⅱ層下の標高約41.3mでⅢ層、標高約41.1mでⅣ層が出土している。つまり、8次調査5トレンチのⅣ層検出高は、周辺旧地形の中でも、かなり突出していることになる。今回の調査と8次調査5トレンチは、調査範囲が狭いので確定はできないが、

- ①今回の調査区が極端に深い遺構内にある
 - ②8次調査5トレンチ周辺だけが局所的にⅣ層が削平を免れている
 - ③8次調査5トレンチで検出されたⅣ層が、今回の3トレンチの旧廐水槽の掘り形外で確認されたⅣ層が集中する天地返し部分である
- などの可能性が考えられる。今後、周辺で調査が行われる際には確認が必要である。
(吉田)

00615（城北団地）理学部総合研究棟等改修（II期）電気設備工事に伴う調査

調査地点 松山市文京町2番5号

城北団地

調査面積 5.4m²

調査期間 2007年2月19日～2月20日

調査の種別 立会調査

調査担当 田崎博之・三吉秀充

依頼文書 施設基盤部長発事務連絡

（平成19年2月21日付）

1 調査にいたる経緯

平成19年2月、施設基盤部から理学部本館付近における外灯設置に伴う外灯基礎工事計画が報告され、周辺の既往調査の結果から、埋蔵文化財への影響が考えられる城北団地地理学部構内北東部の2ヶ所について立会調査を実施した。

2 調査の記録

調査地点は理学部本館北東角付近の1トレンチと本館北側東半の東屋の西側の2トレンチである（図39）。

[1トレンチ]

理学部本館北東角付近に位置する。現地表下1.39m、標高28.81mまで掘り下げを行ったが、真砂土からなる造成土のⅠ層がつづく（図39）。

[2トレンチ]

理学部本館北側、廐棄施設の西に設けたトレンチである。現地表下0.37mまでⅠ層と団地造成直前の水田層であるⅡ-1層がつづく。標高29.81m以下にも洪水砂疊層を挟む2枚の水田層を確認でき、上部の洪水砂疊層と水田層をⅡ-2層、下部をⅡ-3層とした（図39）。

Ⅱ-2層は、Ⅱ-2-①～③層からなる。Ⅱ-2-①層は、径2mm未満の砂疊からなり、小指先大の円礫を含むオリーブ灰色砂疊層である。約30cmの堆積で、水田層を覆う洪水砂疊および水田耕作土の一部と考えられる。Ⅱ-2-②層は、オリーブ灰色シルト質土の水田耕作土層で、径2～3mmの砂疊が混じる。Ⅱ-2-③層は径2～3mmの砂疊が多く混じる褐色シルト質土層で、鉄分・マンガンの沈着により赤褐色を呈する。床土層にあたる。Ⅱ-3層は、径1～2mmの砂疊を含む灰褐色シルト質土の水田耕作土層のⅡ-3-①層と、

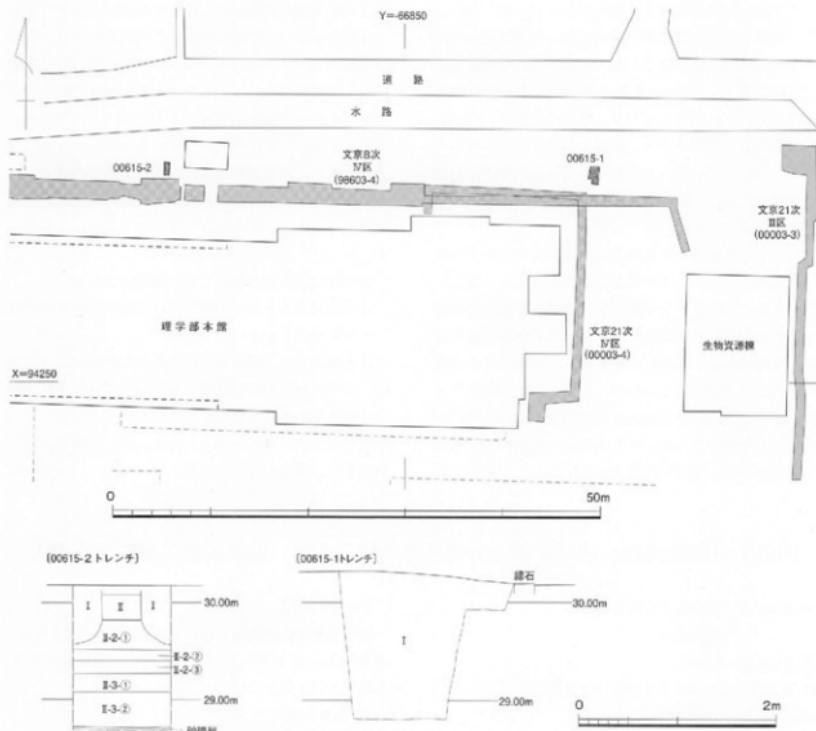


図39 00615調査位置および1・2トレンチ土層柱状図（縮尺1/500、1/50）

褐色シルト質土のII-3-②層から構成される。

II-3層を掘り抜くと、現地表下1.45mで径1~3mmの灰褐色砂礫層があらわれた。ラミナが発達する河川堆積物である。

いずれの層からも出土遺物は出土しておらず、水田の時期は確定できないが、文京遺跡における基本層序II層以下の堆積であることから、近世以前のものと推定される。

3 調査のまとめ

今回の調査では、2トレンチで近世以前の水田層を確認できた。これまで理学部構内南東部で行われた文京遺跡21・24次調査では古代～中世の水田層が出土している。土層の堆積関係から、2トレンチで出土した水田層は、同時期の水田層である可能性が高い。今後周辺における調査で、時期を特定していく必要がある。
 (三吉)



写真106 00615調査1 トレンチ遠景（南から）

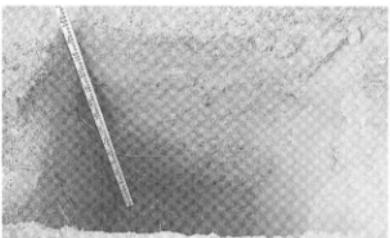


写真107 00615調査1 トレンチ西壁土層

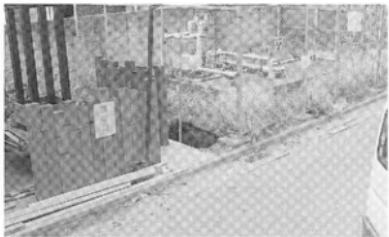


写真108 00615調査2 トレンチ近景（南西から）

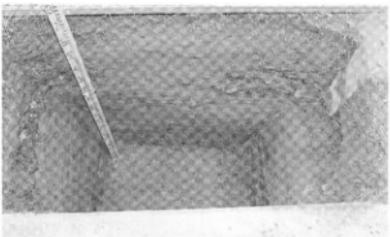


写真109 00615調査2 トレンチ東壁土層

表6 愛媛大学埋蔵文化財調査一覧（2007年12月現在）

調査番号	調査地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(n)	報告・備考
97501	城北	文京	1次	本格	工学部海洋工学科校舎新設工事	19750801～19750824	750	松山市教育委員会調査。松山市報11
98001	城北	文京	2次	本格	工学部資源化学科新設工事	19800708～19800930	600	松山市教育委員会調査。松山市報28
98101	城北	文京	3次	本格	法文学部校舎新設工事	19820110～19820325	800	松山市教育委員会調査。松山市報28
98201	城北	文京	4次	本格	松山市東中学校校舎建設工事	19820803～19820826	750	松山市教育委員会調査。松山市報30
98301	城北	文京	立会	雨水管・污水管・ガス管理設			1,374	
98302	城北	文京	立会	教育学部校舎建設				
98401	城北	文京	5次	本格	工学部危険物貯蔵庫新設工事	19841026～19841028	18	松山市教育委員会調査。松山市報28
98601	城北	文京	6次	本格	城北団地基幹整備	19860100～	99	人類考古学教室開堂。
98602	城北	文京	7次	本格	法文学部校舎新設工事	19860800～19860900	142	人類考古学教室開堂。
98603	城北	文京	8次	本格	基幹整備事業	19861125～19870218	854	人類考古学教室調査。愛大埋文報Ⅱ
98604	柳味	柳味	試掘	連合農学研究科校舎新設計画	19870109		5	愛大埋文報Ⅰ
98605	鷹子	鷹子	試掘	国際交流会館新設計画	19870116		47	愛大埋文報Ⅴ
98701	鷹子	鷹子	1次	本格	国際交流会館新設工事	19870720～19870920	962	愛大埋文報Ⅰ
98702	柳味	柳味	試掘	連合農学研究科校舎新設計画	19870820～19870821		18	愛大埋文報Ⅴ
98703	柳味	柳味	試掘	附属農業高等学校課外活動施設新設計画	19870821		6	愛大埋文報Ⅴ
98704	柳味	柳味	1次	本格	連合農学研究科校舎新設工事	19871028～19871217	684	愛大埋文報Ⅴ
98705	城北	文京	試掘	ブル透り浄化装置増設設計画	19871113		2	愛大埋文報Ⅴ
98706	城北	文京	9次	本格	ブル净化装置増設工事	19880111～19880129	62	愛大埋文報Ⅱ
98801	城北	文京	10次	本格	工学部情報工学科校舎新設工事	19880919～19890303	1,075	愛大埋文報Ⅲ
98802	城北	文京	試掘	基準点等設置計画	19881013		5	愛大埋文報Ⅴ
98803	城北	文京	試掘	工学部講義棟高圧ケーブル埋設計画(その1)	19881208		2	愛大埋文報Ⅴ
98804	城北	文京	試掘	工学部講義棟高圧ケーブル埋設計画(その2)	19881212		1	愛大埋文報Ⅴ
98805	城北	文京	立会	工学部清掃工学科校舎排水施設取扱工事	19890207		6	愛大埋文報Ⅴ
98806	城北	文京	立会	工学部情報工学科校舎排水施設取扱工事	19890209～19890210		3	愛大埋文報Ⅴ
98901	城北	文京	11次	本格	法医学部講義棟身障者用昇降機取扱工事	19890801～19890829	85	愛大埋文報Ⅱ
98902	城北	文京	立会	電波障害用の外線工事	19900330		2	愛大埋文報Ⅴ
99001	城北	文京	試掘	西障工事及び教育学部自転車置場新設計画	19900808		3	愛大埋文報Ⅴ
99101	柳味	柳味	2次	本格	農学部研究実験棟新設工事	19920107～19920228	506	愛大埋文報Ⅳ
99102	津田山		試掘	教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設計画	19910608		13	愛大埋文報Ⅴ
99103	城北	文京	試掘	西障(Ⅱ期)改修及び外灯改修計画	19910821		36	愛大埋文報Ⅴ
99201	柳味	柳味	立会	農学部屋外ガス管改修工事	19920526		6	愛大埋文報Ⅴ
99202	城北	文京	試掘	東側西障改修計画	19920730		3	愛大埋文報Ⅴ
99203	柳味	柳味	試掘	附属性図書館農学部分館新設工事に伴う電気工事計画	19920826		1	愛大埋文報Ⅴ
99204	重信		試掘	医学部附属病院病室新設工事(その1)	19920826		3	愛大埋文報Ⅴ
99205	山越		確認	1992年度構内激強確認調査(その1)	19920828		57	愛大埋文報Ⅴ
99206	柳味	柳味	立会	農学部拓殖寮他自転車置場新設工事(その1)	19920921		3	愛大埋文報Ⅴ
99207	柳味	柳味	立会	農学部拓殖寮他自転車置場新設工事(その2)	19920921		2	愛大埋文報Ⅴ
99208	城北	文京	立会	外灯設備改修工事	19921026		2	愛大埋文報Ⅴ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
99209	持田団地構内		立会	教育学部附属小学校給水設備工事	19921026		11	愛大埋文報V
99210	重信		試掘	医学部附属病院駐車場取設計画	19921027		40	愛大埋文報V
99211	重信		確認	1992年度構内遺跡確認調査(その2)	19930120~19930121		54.6	愛大埋文報V
99212	城北	文京	立会	情報通信設備工事	19930308~19930309		11.8	愛大埋文報V
99213	重信		試掘	医学部附属病院新館工事	19930322		6.8	愛大埋文報V
99214	樽味	樽味	立会	自転車置場取設その他の工事	19930323		3.3	愛大埋文報V
99215	城北	文京	立会	交通規制遮断機取設工事	19930324		2	愛大埋文報V
99301	重信		試掘	医学部看護学科校舎新設工事	19930524		20	愛大埋文報V
99302	樽味	樽味	立会	附属図書館農学部分館新館(樹木移植)工事	19930624~19930625		14	愛大埋文報V
99303	樽味	樽味	試掘	農学部自転車置場取設計画	19930627		80.8	愛大埋文報V
99304	樽味	樽味	3次	本格 附属図書館農学部分館新設工事	19930823~19931006		258.5	愛大埋文報VI
99305	城北	文京	立会	大学会場通り道路整備に伴う(樹木移植)工事	19931109		2	愛大埋文報V
99306	樽味	樽味	試掘	附属図書館農学部分館新館(外灯設置管路)計画	19931124		3	愛大埋文報V
99307	樽味	樽味	立会	城北団地他情報通信電気設備工事(その1)	19931124		7	愛大埋文報V
99308	城北	文京	立会	城北団地他情報通信電気設備工事(その2)	19931125		7.9	愛大埋文報V
99309	持田団地構内		確認	1993年度構内遺跡確認調査(その1)	19931224~19931225		39	愛大埋文報V
99310	城北	文京	立会	情報機器更新電源容量増設工事	19940118		3.7	愛大埋文報V
99311	樽味	樽味	立会	農学部附属図書館新館(配水管設置)工事	19940208~19940215		19.8	愛大埋文報V
99312	樽味	樽味	立会	農学部自転車置場排水管路工事	19940208		29.7	愛大埋文報V
99313	城北	文京	試掘	基幹整備(屋外環境)計画	19940209~19940216		14.8	愛大埋文報V
99314	城北	文京	試掘	工学部研究実験棟新館工事計画	19940329		37.9	愛大埋文報V
99401	北吉井	桑原西 橋栄	3次	立会 東長戸団地他環境整備(駐車場整備、配管設置) 工事(その1)	19940510~19940518		54.5	愛大埋文報IX
99402	東長戸		立会	東長戸団地他環境整備(駐車場整備、配管設置) 工事(その2)	19940517		9	愛大埋文報V
99403	樽味	樽味	試掘	環境整備(附属農業高等学校自転車置場取設計画)	19940524		7.8	愛大埋文報V
99404	城北	文京	立会	城北団地他環境整備(単車置場整備)工事	19940607		1.4	愛大埋文報V
99405	城北	文京	試掘	城北団地他環境整備(自転車置場設置)計画	19940608		81.3	愛大埋文報V
99406	城北	文京	立会	城北団地他環境整備(自転車置場・配水管設置) 工事	19940610		5.3	愛大埋文報V
99407	城北	文京	試掘	城北団地他環境整備(排水井及び管路設)計画	19940801		5.9	愛大埋文報V
99408	城北	文京	試掘	城北団地他環境整備(電気配管設置)計画	19940801		3.2	愛大埋文報V
99409	城北	文京	立会	工学部岩盤切削試験機設置工事	19940927		1.1	愛大埋文報V
99410	城北	文京	12次	本格 教育学部校舎新館(一期)工事	19941110~19950726		1,183	愛大埋文報V
99411	津田山		試掘	教育学部附属養護学校野外施設(東屋)設置計画	19950127		33	愛大埋文報V
99501	城北	文京	立会	教育学部運動場内鉄捲設工事	19950411~19950412		48	愛大埋文報V
99502	城北	文京	試掘	教養部テニスコート(事務局北側)改修計画	19950601		9	愛大埋文報VI
99503	城北	文京	立会	工学部南側閉鎖工事	19950801		3	愛大埋文報VI
99504	城北	文京	試掘	理学部構内井戸工事計画	19950802		4	愛大埋文報VI
99505	山越	山越	試掘	防球ネット取設計画	19950802		7	愛大埋文報VI
99506	城北	文京	13次	地域共同研究センター新館工事	19951017~19960412		890	愛大埋文報VI
99507	樽味		立会	公共下水道取設工事	19951114		2	愛大埋文報VI
99508	北吉井	桑原西 橋栄	立会	公共下水道設置工事	19951115		1.6	愛大埋文報VI
99509	城北	文京	立会	北西通用門改修工事	19951116		3	愛大埋文報VI
99510	城北	文京	立会	埋蔵文化財調査室改修工事	19960131		1	愛大埋文報VI
99511	城北	文京	立会	基幹整備(電線管等)工事	19960213~19960220		34	愛大埋文報VI
99512	城北	文京	立会	事務局ガス管改修工事	19960311		2	愛大埋文報VI

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
99601	城北	文京	14次	本格	工学部校舎新営(Ⅱ期)工事	19960520~19970331	1,349	愛大裡文報Ⅶ
99602	城北	文京	15次	確認	1996年度構内遺跡確認調査	19961113~19961209	252.9	愛大裡文報Ⅷ
99603	樽味	樽味	試掘	附属農業高等学校校舎新営計画	19961128~19961212	21.7	愛大裡文報Ⅸ	
99604	樽味	樽味	試掘	附属農業高等学校校舎新営計画	19961129	5.1	愛大裡文報Ⅸ	
99605	樽味	樽味	試掘	農学部構内光ケーブル敷設設計圖	19961129	1	愛大裡文報Ⅸ	
99606	持田	持田団地構内	立会	教育学部附属中学校プール改修の他工事	19970204	3.6	愛大裡文報Ⅹ	
99701	城北	文京	16次A区	本格	工学部校舎新営第Ⅲ期工事(その1)	19970428~19971222	1,384	愛大裡文報Ⅺ
99702	城北	文京	16次B区	本格	工学部校舎新営第Ⅲ期工事(その2)	19970409~19970729	627	愛大裡文報Ⅻ
99703	樽味	樽味	本格	ATM-LAN整備工事に伴う調査	19970414~19970417	131	愛大裡文報Ⅻ	
99704	城北	文京	立会	事務局案内板取設工事に伴う調査	19970804	27	愛大裡文報Ⅻ	
99705	持田	持田団地構内	立会	構内光ケーブル布設工事に伴う調査	19970804	4.5	愛大裡文報Ⅻ	
99706	持田	持田団地構内	試掘	北端囲塀改修計画	19970805~19970806	6.1	愛大裡文報Ⅻ	
99707	樽味	樽味	試掘	附属農業高等学校校舎新営計画	19970806~19970807	12.2	愛大裡文報Ⅻ	
99708	樽味	樽味	立会	排水工事	19970807	2.4	愛大裡文報Ⅻ	
99709	城北	文京	立会	工学部校舎新営電気設備工事(その2)	19970818~19970918	12.2	愛大裡文報Ⅻ	
99710	北吉井	桑原西 稻葉	4次	本格	屋外排水管改修工事	19971008~19971201	100.4	愛大裡文報Ⅹ
99711	北吉井	桑原西 稻葉	5次	立会	屋外ガス管改修工事	19971112~19971118	32	愛大裡文報Ⅹ
99712	樽味	樽味	4次	本格	農学部附属農業高等学校校舎新営工事	19971125~19980204	1,168	愛大裡文報Ⅹ
99713	樽味	樽味	試掘	附属農業高等学校運動場東側防護ネット及び第3棟東側フェンス増設計画	19971218	6.1	愛大裡文報Ⅹ	
99714	樽味	樽味	立会	附属農業高等学校校舎整理戸籍工事に伴う支障物(農棧及び車庫)整備工事	19980204~19980206	186.5	愛大裡文報Ⅹ	
99715	城北	文京	17次	確認	1997年度構内遺跡確認調査	19980302~19980310	154	愛大裡文報Ⅹ
99716	樽味	樽味	立会	附属農業高等学校運動場東側防護ネット及び第3棟東側フェンス増設工事	19970311~19970312	21.2	愛大裡文報Ⅹ	
99717	城北	文京	緊急	工学部校舎新営に伴う外施設整備工事	19980217		愛大裡文報Ⅹ	
99801	城北	文京	立会	「大正天皇お手植えの松」移植工事	19981108	1	愛大裡文報Ⅹ	
99802	城北	文京	18次	本格	総合情報処理センター新営工事	19981215~19990802	1,192	愛大裡文報Ⅺ
99803	城北	文京	立会	工学部本館等改修機械設備工事	19981214	0.7	愛大裡文報Ⅺ	
99804	樽味	樽味	試掘	遺伝子実験施設新営工事	19990128~19990129	21.8	愛大裡文報Ⅺ	
99805	城北	文京	立会	教育学部2号館南消火用水槽埋め改修工事	19990311	3	愛大裡文報Ⅺ	
99806	城北	文京	立会	理学部本館南消火栓管路改修工事	19990316	1	愛大裡文報Ⅺ	
99807	樽味	樽味	5次	本格	遺伝子実験施設新営工事	19990316~19990721	979	愛大裡文報Ⅺ
99808	重信		試掘	医学部附属病院病棟建設計画	19990331~19990401	2.5	愛大裡文報Ⅺ	
99809	城北	文京	立会	学生会館ガス管改修工事に伴う調査	19990603	1	愛大裡文報Ⅺ	
99901	城北	文京	19次I区	本格	工学部研究実験棟新営電気設備工事(1期)	19990907~19990913	31	愛大裡文報X
99902	城北	文京	19次II区	本格	工学部研究実験棟新営電気設備工事(2期)	19991201~19991217	43	愛大裡文報X
99903	樽味	樽味	立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事(1期)	19991006	1.4	愛大裡文報X	
99904	樽味	樽味	立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事(2期)	19991025~19991029	25	愛大裡文報X	
99905	樽味	樽味	立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事(3期)	19991124~19991128	31	愛大裡文報X	
99906	樽味	樽味	立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事(4期)	20000128	2.5	愛大裡文報X	

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(m ²)	報告・備考
99907	城北	文京		立会	「大正天皇お手植えの松」移植工事	20000125	20	愛大埋文報X
99908	城北	文京		立会	理工学等総合実験棟新営電気設備工事(その2)	20000201	8	愛大埋文報X
99909	城北	文京		立会	総合情報処理センター新営電気設備工事	20000208	8	愛大埋文報X
99910	城北	文京	20次	本格	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(S.V.B.L.)新営工事	20000214～20000620	588	愛大埋文報XI
99911	城北	文京		試掘	大学会館改修計画	20000216	9	愛大埋文報X
99912	城北	文京		立会	外灯移設工事	20000216	1	愛大埋文報X
99913	樽味	樽味		確認	農学部生態観察実験のための水田設置工事	20000310	1	愛大埋文報X
99914	城北	文京		立会	埋蔵文化財調査空堀通信設備工事	20000313	19	愛大埋文報X
99915	城北	文京		立会	法文学部講義棟空堀電源工事	20000313	1	愛大埋文報X
99916	樽味	樽味		立会	農学部附屬農業高等学校校舎新営工事	19990507	-	愛大埋文報X
00001	城北	文京		立会	大学会館改修工事	20000829～20000830	9	愛大埋文報X
00002	城北	文京		試掘	教育学部クレイティニスコート改修計画	20000913	22	愛大埋文報X
00003	城北	文京	21次	本格	基礎科学綜合研究棟新営工事(Ⅰ期)	20010115～20010909	1,644	愛大埋文報X
00004	山越	山越		立会	山越運動場上水管改修工事	20010115	7	愛大埋文報X
00005	城北	文京	22次	確認	2000年度遺跡範囲確認調査	20010123～20010124	33	愛大埋文報X
00006	城北	文京		立会	教育学部クレイティニスコート改修工事	20010123～20010124	1	愛大埋文報X
00007	城北	文京		立会	法文学部掲示板設置工事	20010315	5	愛大埋文報X
00008	御幸			立会	外灯設備改修その他工事	20010316	3	愛大埋文報X
00101	城北	文京		同窓会連合会による五葉松移植工事	20010509	3	愛大埋文報XI	
00102	樽味	樽味		試掘	農学部寄付建物新営計画	20010607	16	愛大埋文報XI
00103	城北	文京	23次	本格	四国電力による城北地区構内高圧線敷設工事	20010626～20010709	17.3	愛大埋文報XI
00104	城北	文京		立会	工学生部外水管新設工事	20010801	0.6	愛大埋文報XI
00105	城北	文京	24次	本格	総合研究棟新営(Ⅱ期)工事	20011001～20020326	640	愛大埋文報XI
00106	樽味	樽味	6次	本格	農学部寄付建物新営工事	20011115～20022026	1,205	愛大埋文報XI
00107	城北	文京		立会	事務局構内外灯設置修設工事	20011121～20011127	6	愛大埋文報XI
00108	城北	文京		立会	教育学部4号館便所改修電気設備工事	20020326	1.5	愛大埋文報XI
00201	樽味	樽味	7次	本格	農学部2号館改修工事	20020403～20020523	170	愛大埋文報XI
00202	城北	文京	25次	本格	情報教育棟新営工事	20020601～20021218	1,022	愛大埋文報XI
00203	城北	文京		立会	情報教育棟用地蔵文化財調査に伴う土木工事	20020615～20020517	1	愛大埋文報XI
00204	城北	文京	26次	本格	総合研究棟等改修工事	20020719～20020809	144.7	愛大埋文報XI
00205	城北	文京		立会	総合研究棟等改修電気設備工事	20021021	3	愛大埋文報XI
00206	城北	文京		試掘	情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営その他工事計画(その2)	20021127	0.5	愛大埋文報XI
00207	城北	文京		立会	総合研究棟新営電気設備工事	20021129	15	愛大埋文報XI
00208	山越	山越		確認	2002年度構内遺跡確認調査	20021225～20021226	65	愛大埋文報XI
00209	城北	文京		立会	総合研究棟新営電気・機械設備工事	20030123～20030129	22.6	愛大埋文報XI
00210	城北	文京		立会	情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営電気設備工事	20030115	1.3	愛大埋文報XI
00211	城北	文京		立会	総合研究棟等改修電気設備工事	20030303～20030304	19	愛大埋文報XI
00301	城北	文京	27次	本格	総合研究実験棟新営工事	20030529～20031024	703	愛大埋文報XI
00302	城北	文京		立会	総合研究実験棟新営工事に伴う樹木移植工事	20030527	39	愛大埋文報XI
00303	城北	文京		立会	放送大学愛媛学習センター・サイン設置工事	20030905	3.1	愛大埋文報XI
00304	城北	文京	28次	本格	理学部総合研究棟改修工事	20031201～20031216	45.1	愛大埋文報XI
00305	城北	文京		立会	安全衛生管理対策(実験室等改修)工事	20040209～20040210	12	愛大埋文報XI
00306	城北	文京		立会	安全衛生管理対策(廃液保管庫改修)電気設備工事	20040304～20040305	1.4	愛大埋文報XI
00307	城北	文京		立会	安全衛生管理対策(実験室等改修)工事	20040304	2.6	愛大埋文報XI
00401	城北	文京		立会	事務局敷地内看板基礎工事	20040716	2.5	愛大埋文報XI

調査番号	調査地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(m ²)	報告・備考
00402	城北	柳味・文京	立会		避難標識整備事業関連工事	20050124～20050131	2.6	愛大埋文報XV
00403	城北	文京	立会		工学部講義棟便所改修電気設備工事	20050301	8.7	愛大埋文報XV
00404	城北	文京	立会		給与福利課事務室新設電気・機械設備工事	20050324～20050329	3.5	愛大埋文報XV
00405	御幸		立会		寄付物件取付工事	20050223	2	愛大埋文報XV
00501	城北	文京	立会		生物環境試料バンク改修工事	20050621～20050707	78.5	愛大埋文報XVI
00602	城北	文京	立会		基幹整備(舗装等)工事	20050824～20050826	38.6	愛大埋文報XVII
00503	城北	文京	試掘		共通教育講義棟避雷設備設置工事	20050824～20050825	12.4	愛大埋文報XVII
00504	東長戸		立会		東長戸宿舎内電柱改修工事	20050831	0.3	愛大埋文報XVIII
00505	東長戸		立会		東長戸宿舎内電柱撤去工事	20051028	0.25	愛大埋文報XVIII
00506	城北	文京	立会		事務局構内電柱建替工事(その1)	20051104	0.9	愛大埋文報XIX
00507	城北	文京	立会		事務局構内電柱建替工事(その2)	20051114	0.3	愛大埋文報XIX
00508	城北	文京	試掘		法文字部屋根付駐輪場設置計画	20051115	9.8	愛大埋文報XX
00509	柳味	柳味	立会		農学部附属農業高等学校暖房蒸気漏修理工事	20051221	7.8	愛大埋文報XXI
00510	城北	文京	立会		法文字部講義棟周辺環境整備に伴う樹木移植工事	20060130	3.2	愛大埋文報XXI
00511	重信		試掘		医学部附属精神病院院内保健所設置計画	20060207	5	愛大埋文報XXII
00512	城北	文京	試掘		法文学部講義棟周辺環境整備計画	20060221	4.3	愛大埋文報XXII
00513	城北	文京	試掘		教育学部2号館等空調設備電源工事	20060228	2.7	愛大埋文報XXII
00514	城北	文京	試掘		工学部2号館2階女子便所改修電気設備工事	20060228	1.5	愛大埋文報XXII
00515	城北	文京	立会		法文学部屋根付駐輪場設置工事	20060302～20060303	24.2	愛大埋文報XXII
00601	持田	持田園地構内	試掘		教育学部附属中学校校舎新設工事	20060403～20060407	46.5	本書
00602	柳味	柳味	立会		農学部上水道水漏れ修繕工事	20060513	0.5	本書
00603	柳味	柳味	立会		農学部敷地内の電柱建て替え工事	20060821	0.7	本書
00604	持田	持田園地構内	1次	本格	教育学部附属中学校校舎新設工事	20060823～20060929	292	本書
00605	細寺		試掘		財団農業高等学校果実収納庫新設工事	20060929	35	本書
00606	細寺		確認			20060929	2750	本書
00607	重信		立会		医学部及び附属精神病院敷地内の電柱建て替え工事	20061109～20061110	18	本書
00608	柳味	柳味	8次	本格	総合研究棟改修工事	20061204～20070126	42	本書
00609	柳味	柳味	立会		農学部附属農業高等学校ボイラー室新設工事	20061221～	2.9	本書
00610	城北	文京	立会		教育学部4号館耐震補強工事	20070126～	12	本書
00611	城北	文京	30次	本格	宮前川架橋取設他工事	20070205～20070208	17.7	本書
00612	城北	文京	31次	立会	法文学部2号館非常階段取設工事	20070208～20070226	25	本書
00613	城北	文京	立会		屋外施設等取設工事	20070219～20070220	8	本書
00614	柳味	柳味	立会		総合研究棟改修機械設備工事	20070226～20070302	21.6	本書
00615	城北	文京	立会		理学部総合研究棟(Ⅱ期)等改修電気設備工事	20070307	5.4	本書
00701	城北	文京	試掘		共通教育講義棟耐震補強工事計画	20070427	9.2	
00702	持田	持田園地構内	試掘		教育学部附属小学校本館等耐震改修その他工事計画	20070515	9.4	
00703	城北	文京	試掘		法文学部講義棟耐震改修その他工事計画	20070521	3	
00704	城北	文京	試掘		工学部2号館耐震改修その他工事計画	20070521	1.5	
00705	城北	文京	試掘		教育学部2号館耐震改修その他工事計画	20070522～20070523	11.8	
00706	城北	文京	試掘		附属図書館耐震改修その他工事計画	20070523～20070528	18	
00707	城北	文京	試掘		共通教育管理棟耐震改修その他工事計画	20070521～20070530	27.8	
00708	城北	文京	立会		弓道場の湯防矢ネット取設工事	20070612～20070613	13.2	
00709	持田	持田園地構内	2次	本格	教育学部附属小学校本館等耐震改修その他工事	20070724～20070810		
00710	城北	文京	32次	本格	附属図書館耐震改修その他工事	20070801～20070821	23	ただし、20070907に追加調査

調査番号	所在地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
00711	城北	文京	33次	本格	法文学部講義棟耐震改修その他工事	20070820～20071024	1615	
00712	城北	文京	34次	本格	共通教育管理棟耐震改修その他工事	20070820～		
00713	博味	博味	試掘	農学部制御化農業実験実習棟外上水道引込工事	20071102～20071102	0.6		
00714	博味	博味	立会	育成ハウス設置工事	20071102	21		
00715	御幸		確認			20071217		

[関連文献]

- 松山市文化財調査報告書11. 文京遺跡 - 1976
 松山市文化財調査報告書28. 文京遺跡 - 第2・3・5次調査 - , 1992
 松山市文化財調査報告書30. 道後城北跡群 - 1992
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 I . 濱子・博味遺跡の調査 , 1989
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 II . 文京遺跡第8・9・11次調査 , 1990
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 III . 文京遺跡第10次調査 , 1991
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 IV . 博味遺跡 I - 博味遺跡 2次調査報告 - , 1993
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 V . 愛媛大学構内遺跡調査集報 I - 1987～1994年度における立会・試掘確認調査成果の報告 - , 1997
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 VI . 博味遺跡 II - 博味遺跡 3次調査報告 - , 1997
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 VII . 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 - 1995-1996年度 - , 2001
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 VIII . 文京遺跡第11・12・13次調査 , 1997-1998年度 - , 2002
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 IX . 博味遺跡 IV - 博味遺跡 4次調査・博味遺跡 5次調査 , 桑原西稻葉遺跡 3～5次 (北吉井田地) 調査 - , 2003
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 X . 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 - 1999-2000年度 - , 2003
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XI . 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 - 2001-2002年度 - , 2004
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XII . 文京遺跡 III - 文京遺跡13次調査報告 - , 2004
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XIII . 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 - 2003年度 - , 2005
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XIV . 文京遺跡 IV - 文京遺跡20次調査・文京遺跡23次調査 - , 2005
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XV . 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 - 2004年度 - , 2006
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XVI . 文京遺跡 V - 文京遺跡18次調査 - , 2007
 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XVII . 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 - 2005年度 - , 2007

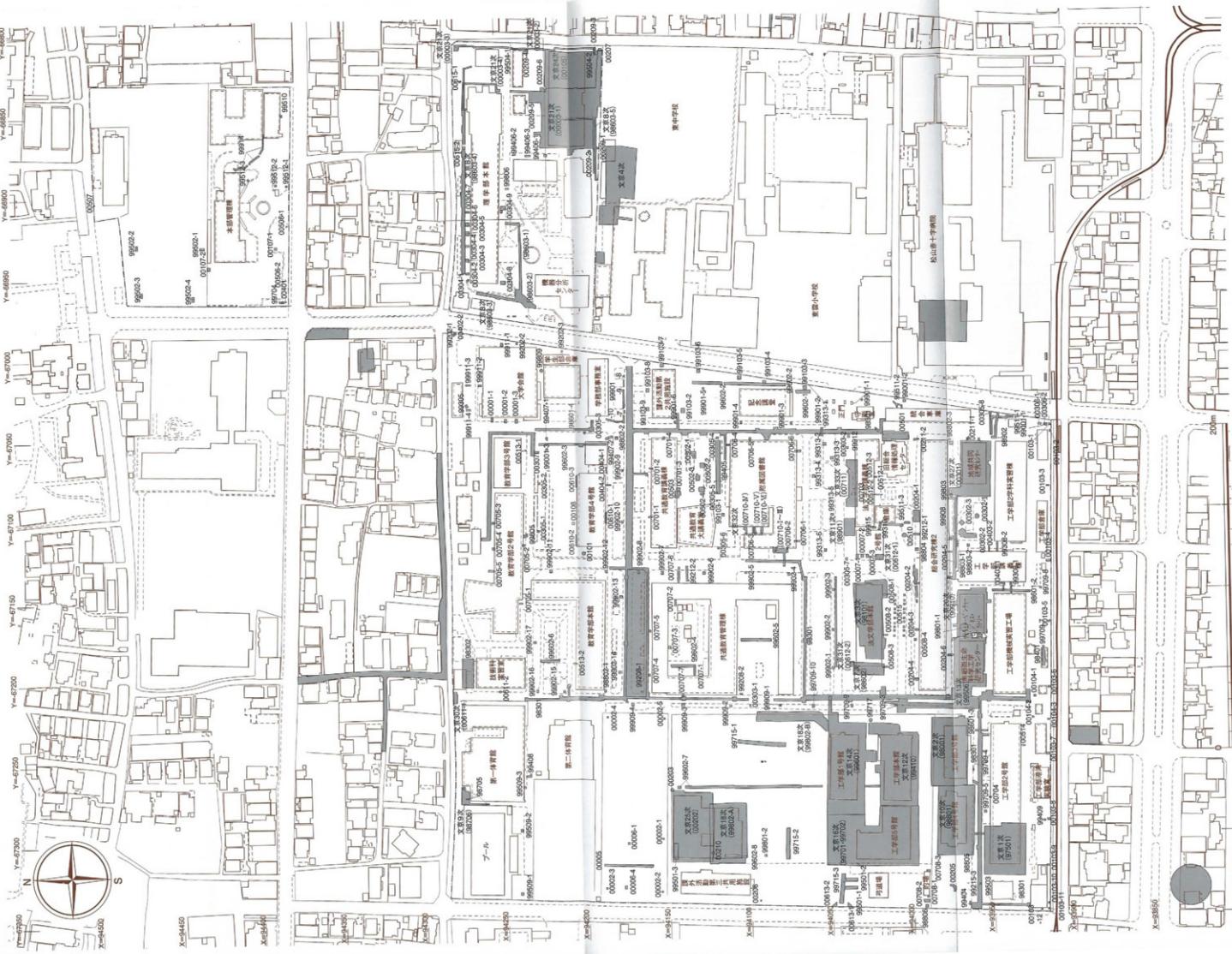


図40 城北園地(文京選場)における既往測量地点

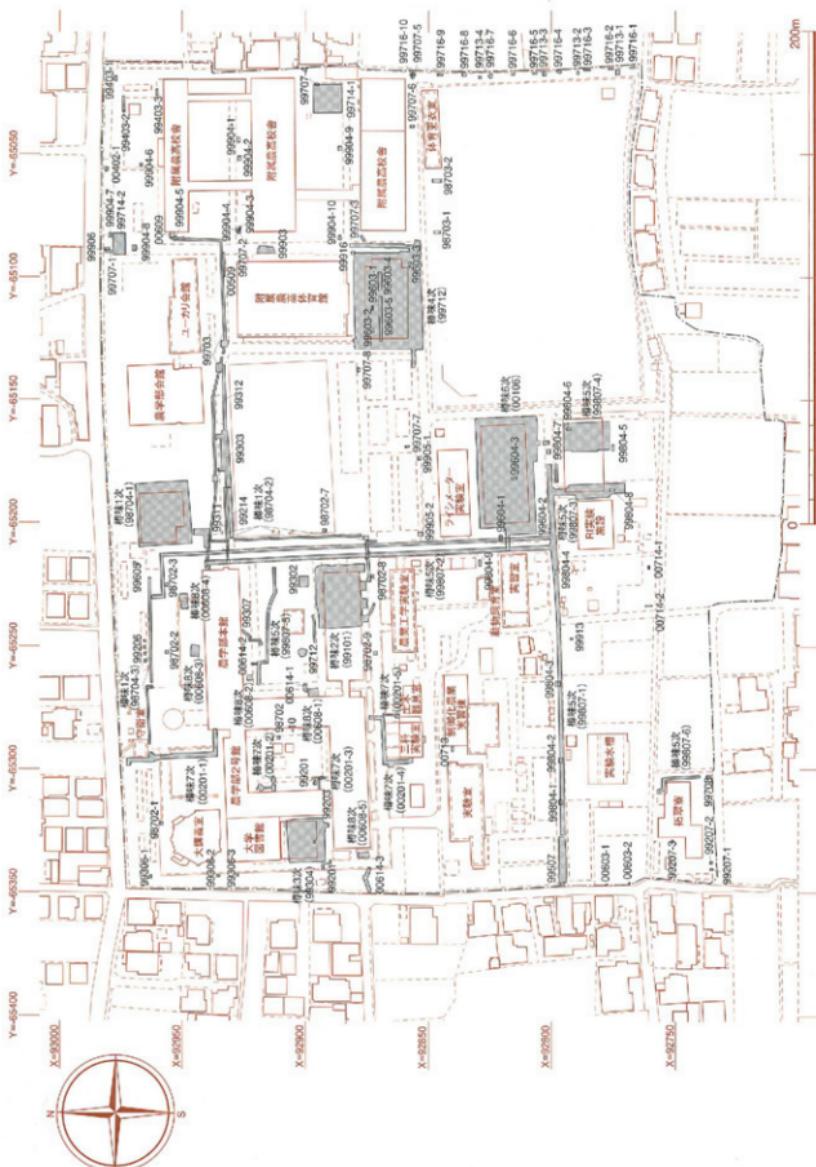


図41 椿味団地（椿味遺跡）における既往調査地点

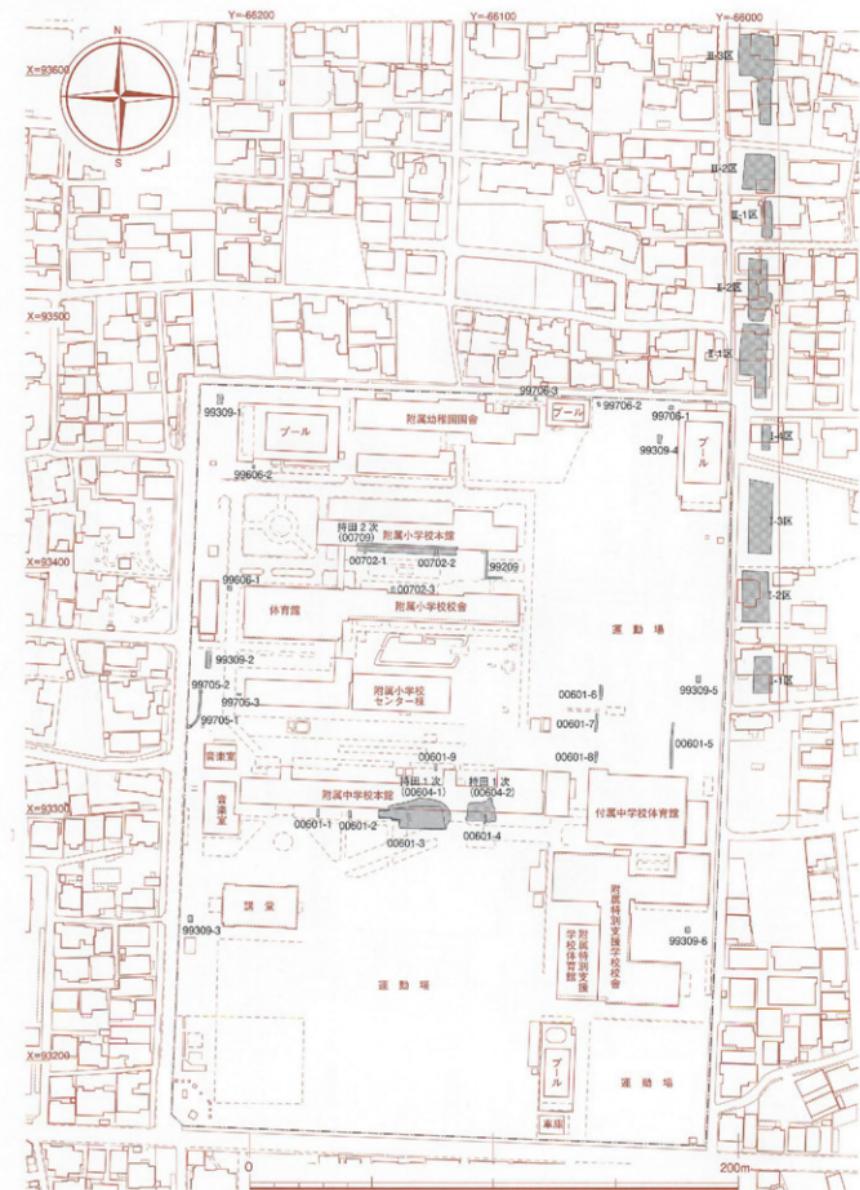


図42 持田団地（持田団地構内遺跡）における既往調査地点



図43 重信団地における既往調査地点

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

—2006年度—

愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XVII

2008年3月31日

発行 愛媛大学埋蔵文化財調査室
〒790-8577 松山市道後通又10-13

TEL 089-927-9127

印刷 セキ株式会社
〒790-8686 松山市湊町7-7-1
TEL 089-945-0112
